

鹿児島高専だより

第 72 号

平成 30 年 3 月

〈特集〉研究推進モデル校事業の取組みについて



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校

目 次

校長室から

創造力豊かな開発型技術者 1

特集

研究推進モデル校事業の取組みについて 2

教務だより

RGB かごしま、モデルコアカリキュラム
そして高専 4.0 イニシアティブ 4
6 インターンシップ 8
8 一日体験入学 8
8 授業評価アンケート 9
9 数学補習 9
9 キャリア教育 ～技術士会との連携による共同教育～ 10
F・D 研修会 10

学生だより

ネチケットについて 11
不測の事態の中で 11
H29 年度文化祭 12
守ろう！ルール 12
都城・鹿児島高専親善試合結果 13
学生表彰者リスト 17

志学寮だより

濡れタオルを用いた加湿実験 20
寮長より 21
学寮チュートリアルについて 21
寮生の食事 22
「寮」と言う名のシェア住居 22
新任の挨拶 23
就任のご挨拶 24
新任のご挨拶 24

専攻科だより

専攻科について 25
海外インターンシップを終えて 26
IPC インターンシップについて 27
インターンシップ経験談 27

地域共同テクノセンターだより 平成

29 年度の地域共同 テクノセンターの 活動
について 28
地域への就職に向けた活動 29
COC+関係 30
KTC 活動の紹介 31

学生何でも相談室だより

学生相談を利用してみませんか 32

教職員研究活動 奄美群島の神社と民俗信

仰 33
マグネシウム合金の超音波接合 34
運動のコツや秘訣を発見したい！
～生物の運動メカニズムを探る～ 35

卒 業

贈る言葉 36
在校生へ 37
追想私の五年間 37
卒業にあたって 38
卒業 38
5 年間を振り返って 39
修了にあたって 39
専攻科修了にあたって 40
専攻科修了にあたって 40
卒業生の就職・進学一覧及び修了生の 就
職・進学一覧 41

教職員の動向

新任のご挨拶 44
総務課職員として思うこと 44
新任挨拶 45
新任のご挨拶 45
新任のご挨拶 46
新任のご挨拶 46
新任のご挨拶 47
新任のご挨拶 47
新任のご挨拶 48
定年退職にあたって 48

定年退職を迎えて

～「啐啄同時」：人との出会いに感謝～ 49
高専に感謝、人に感謝 49
平成 29 年度 教育功労者表彰
..... 50

国際交流だより

グローバルな技術者へのロードマップ 51
異文化体験報告 52
デザインキャンプ報告 53
アカデミックインターンシップ報告 54
国際シンポジウム参加報告 55

同窓生だより

鹿児島高専で得たもの 56
人と人の繋がりを大切に！ 57
在校生の皆さまへ 57
在校生の皆様へ 58
出会い、経験 58
直向きに研究を頑張りましょう！ 59
在校生のみなさまへ 59
後輩のみなさんへ 60

広報委員会だより

広報委員会の活動報告 61

後援会だより

高専生の親として 63
後援会理事を経験して 63
高専で得たもの 64
雑感 64
チャンスを、自ら掴んで!! 65
味わう高専生活 65

行事予定

平成 30 年度 行事予定表 67

【表紙の説明】 写真上左：中堅・若手教員の研究発表風景 写真上右：マレーシア工科大学との MOU 締結 写真下左：長岡技術科学大学と鹿児島県長島町

及び鹿児島高専との連携協定調印式
写真下右：ピストロ下水道 in 霧島・鹿児島高

専 2nd 開催風景





創造力豊かな開発型技術者

校長 丁子 哲治

本校の学習・教育到達目標の3番目に「創造力豊かな開発型技術者」があります。高専教育において、創造力の育成は最も重要なことです。しかし、創造力とはどのような力なのでしょう。

辞書などで調べると、創造力とは「新しいものをつくりだす能力」などと、意味不明な説明しか出てきません。このような説明では、学生諸君の多くは、創造することは実際には難しいと感じてしまうのではないのでしょうか。

それでは、「創造する」ということはどのように考えたらよいのでしょうか。人が創造したものは、法的には知的財産と言います。財産と言う限りは、少なからず価値があるということです。すなわち、価値があるとは、社会が必要としているということの意味しています。

もう少し、この価値について特許の面から説明したいと思います。特許とは、創造された知的財産を保護するための制度です。この特許として認められるには、進歩性が問われます。特許における進歩性とは、「完成させた発明」について「最も類似の公知技術」とを比較して、改良されたものであり、同一であったり、後退したものでは認められません。すなわち、進歩性とは、既存の技術に替えて使われる「ニーズ」があるかどうかということです。これまでに無い新しいということだけでは、特許として認められないのです。「ニーズ」をしっかりと理解し、その問題点を発見し、解決方法を技術として完成させてはじめて特許という知的財産として評価されることになります。

ここで、根岸英一博士（2010年ノーベル化学賞受賞）の「発見のための10項目」を紹介しましょう。

まず、① Needs（ニーズ）が出発点になり、次にそのNeedsに沿った② Desire（強い願望）とともに③ Plan

（計画・作戦）が練られ、一方、これまで積み重ねた④ Knowledge（知識）、⑤ Idea（アイディア）、⑥ Judgement（判断）の基に、⑦ Will power（意志力）、さらに⑧ Optimism（不屈な行動力）を総合して⑨ Systematic exploration（系統だった研究）を遂行するというプロセスです。これで目的的研究成果が得られるというのですが、最後に⑩ Serendipity（幸運な発見）が加わる場合もあるとのこと。ここはさすがにノーベル化学賞の研究者の発言と思わされます。技術開発の場合と同様に、ノーベル賞級の学術研究でも、その出発点は「ニーズ」であると明言されています。したがって、根岸博士の「発見のための10項目」は、そのまま「技術開発のための10項目」と置き換えられるでしょう。ここで、

Knowledge（知識）について若干の説明を付け加えておきたいことがあります。それは、知識には形式知と暗黙知があるということです。形式知は図や言葉で表現できる知識であり、教科書などで学ぶことができます。しかし、暗黙知は図や言葉で表現できない知識で、人から人へ直接的に、経験や五感を使って伝えるしか方法がないと考えられています。高専教育の特徴は、この形式知のみならず暗黙知も同時に学ぶ高等教育機関であることが、世界から高く評価されています。

一方、暗黙知は形式知に変換が可能であり、職人技のような暗黙知をコンピューター制御可能な生産システムの形式知への変換がその例です。暗黙知が形式知に変換されると、図や言葉で広く技術者に伝えることができ、多くの技術者の創造力によって進歩発展が加速されます。このような急速な技術発展がもたらされることを産業革命と言い、わが国では明治以降、第1次から第3次まで進んできています。今日では、AIやIoTなどを使った先端技術の進展に伴って第4次産業革命が始まっています。ところが、第4次産業革命によって多くの職業が消滅するのではないかと懸念されていますが、あらゆる職業がなくなるわけではありません。先の根岸博士の10項目の中の多くは、人によってしかできない項目が多く含まれています。言い換えれば、創造力のある技術者の必要性は、今後ますます増してくるでしょう。

高専教育においては、創造力を体系的に学ぶ場が最終学年の卒業研究であり、専攻科での特別研究です。この創造力を高めることは相当に難しいと考えている学生が多いかもしれませんが、ニーズをしっかりと理解して、その解決策を探っていく学習に取り組んでください。また、課外活動であってもロボコン、プロコンやデザコンのような種々のコンテストに参加することで、その力が養われます。是非チャレンジしてみてください。このようなことで、本校の学習・教育到達目標をクリアすることは、それほど困難ではないでしょう。創造力発揮にチャレンジする学生を鹿児島高専では全力で応援します。



研究推進モデル校事業の 取組みについて

副校長・専攻科長・研究担当 山内 正仁

1. モデル校の目的・意義

本校は昨年度、高専機構における第5ブロック（九州沖縄地区）の研究推進モデルトライアル校（現在はモデル校）に採択されました。モデル校は全国に5校（第1ブロック；鶴岡高専、第2ブロック；長岡高専、第3ブロック；富山高専、第4ブロック；宇部高専、第5ブロック；鹿児島高専）あり、校長のリーダーシップの下、学校全体で研究推進、産学連携、外部資金獲得、教育への研究成果の還元を目的に取り組んでいます。また、本モデル校は他高専・地区の良いモデルとなるような取り組み（例えば、教職員の研究力向上、学生の問題解決能力、研究意欲・研究力向上）が求められています。

（1）学校全体での研究推進

本校教員の研究力は特別研究（学修総まとめ科目）を指導可能な教員数（22名（46.8%））、研究論文数（平成25年度9編、平成26年度：8編、平成27年度19編）、外部資金獲得状況（科研費新規採択数（専門学科）：平成25年度3(2)件、平成26年度6(2)件、平成27年度3(2)件）などから総合的に判断して高いとはいえない状況でありました。このため、各教員の研究に対するモチベーションの向上（特に、中堅・若手教員の研究力向上）を図るために、28～29年度は以下の研究推進への取り組みを行いました。

1-1 各教員の研究基盤（土台）作りについて

専攻科の専攻分野に関係する幾つかの研究グループ（生体情報技術、環境技術等）を形成し、科研費や大型補助金を常に獲得している大学教員らと研究交流を深め、研究アドバイス等を受けながらグループの研究基盤（土台）作りを検討しました。例えば、生体情報技術関連の研究を進めている本校教員12名が鹿児島大学大学院の指導教員（情報生体システム工学科教員8名）に研究のプレゼンテーションを行い、研究内容等に対する助言を受けたり、共同で実施可能な研究課題を探ったりしました。これまで、本校教員は個人で研究を進めることが多かったと思いますが、大学教員との連携により、各教員の研究に対するモチベーションの向上が見られました。

1-2 中堅・若手教員の研究発表会の開催

初の試みとして、中堅・若手教員の研究力向上を目指した研究発表を開催しました。本発表会では、各学科2名ずつ（10名）、中堅・若手教員がこれまでの研究内容と今後の研究計画について発表を行い、その後、20分間、発表者と学外研究者（国内外の大学教員（科研費の

基盤研究（S）（A）（B）、NEDO事業など大型補助金獲得実績を持つ教員を招聘）、特別研究指導教員資格者とのディスカッションを行い、多くの研究アドバイスを頂きました。発表後の先生方のレポートから研究に対する意識の変化が見られました。今年度は本取り組みを第5ブロック全体に広げて実施致しました。



写真 中堅・若手教員の発表風景

1-3 マレーシア工科大学（UTM）とのMOU締結と国際シンポジウムの開催について

昨年度、鹿児島高専とUTMの間で研究交流を加速させるために、MOU(Memorandum of Understanding)を締結しました。また研究交流の一環として、マレーシア工科大学(UTM)と国際シンポジウム(ISEED: The 1st International Symposium on Expertise of Engineering Design)を開催し、両校の教員が研究成果を発表しました。本校からは教員7名が研究成果を発表しました。現在は、プロシーディングスの作成だけですが、将来的には英文誌の発行を目指し、更なる研究活動の活性化に努めていきたいと考えています。また、今年度は、九州の他高専にも参加を働きかけ、5月にホテル京セラで国際シンポジウム(2nd ISEED)を開催しました。シンポジウム終了後は、情報交換会が開催され、国際共同研究に向けた打合せも行われました。これまでの成果として、国際特許申請が1件、論文共同執筆が3件、国際共同研究に発展している案件が3件あります。また、

専攻科生の研究交流も進展しています。具体的にはUTMの大学院生2名（博士課程1名、修士課程1名）を研究室に受入れたり、本校の専攻科生がUTMにインターンシップに行ったりして研究交流を加速させています。海外の大学生（大学院生）と共に研究活動を行った専攻科生に、大人の研究者としての自覚がうかがえました。この経験を通じて、自身の研究により、国際的に活躍しうる可能性があるということを実感し、自信と誇りを持ってくれたと思います。



写真 MOU 調印式



写真 発表風景

1-4 外部資金獲得に向けた講演会開催と科研費への申請について

研究を推進するためには外部資金獲得が必要となります。特に科学研究費（科研費）は高等教育機関の教員、研究機関の研究員らが応募できる研究資金であり、この研究費への採択件数が大学・高専の研究力のバロメーターになります。

そこで、昨年度、今年度は大型研究費の獲得、科研や各種研究費の審査員経験のある東北大学の原田秀樹教授、大阪大学の関野徹教授、長岡技術科学大学の山口隆司教授、中山忠親教授を招聘し、外部資金獲得に向けた講演会を開催しました。また、講演会終了後は同教授等による科研費申請書作成の個別指導を実施しました。また、学内においては科研費への応募数及び採択件数向上に向けて、校長をリーダーとするプロジェクトチームを設置し、応募書類の指導・助言等支援を行いました。その結果、平成 29 年度（平成 28 年度応募）の科研費の新規獲得件数は 8 件で、この内、専門教員が 7 件採択されました。昨年度以降、単に申請するだけの申請書でなく、インパクトがあり、充実した内容の申請書が増えてきたことから、教員の研究に対する意識の変化が進んだことがこのような結果を生んだと考えています。

表 科研費獲得一覧

採択課題	研究種目	研究期間	研究代表者	研究費総額 (千円)
1 世界初、バームリサイクルきのこが創るグローバルな環境保全型食料生産システムの構築	基礎研究(B)	H.29.4.1～H.34.3.31	山内正仁	16,900
2 損傷原子炉想定環境がモータ駆動装置へ与える障害の発生メカニズム探索研究	基礎研究(C)	H.29.4.1～H.32.3.31	櫻根健史	4,810
3 省エネルギー型廃水処理システムの構築	基礎研究(C)	H.29.4.1～H.32.3.31	山田真義	4,680
4 低予算で鉄筋コンクリート建造物の残留変形の抑制を可能にする設計方法の確立	基礎研究(C)	H.29.4.1～H.32.3.31	川添敬也	4,680
5 難溶性Mg合金を用いた超音波接合相手の凹凸量低減と接合性向上に寄与する組織制御	基礎研究(C)	H.29.4.1～H.32.3.31	東雄一	4,940
6 眼底画像及び眼底動画解析による脳内血管の脆弱化予測に関する研究	若手研究(B)	H.29.4.1～H.32.3.31	古川邦大	4,420
7 身体の力学的特性と姿勢が歩行中の関節関節シナジーに及ぼす影響とその対策の検討	若手研究(B)	H.29.4.1～H.32.3.31	堀内田瑠子	4,420
8 ガラスの天井を打ち破る理系の女子学生のエンパワーメント教育プログラムの開発	挑戦的研究(萌芽)	H.29.4.1～H.31.3.31	塚崎書穂	6,370
9 学校教育のための成長型気象観測ネットワークシステムの開発研究	基礎研究(C)	H.28.4.1～H.31.3.31	武田和大	4,550
10 小型アンドロイドによる視野拡大のためのリハビリ支援システムの開発	挑戦的萌芽研究	H.28.4.1～H.30.3.31	今村成明	2,080
11 高温駆動型形状記憶合金ZrO ₂ のマルテンサイト変態挙動に及ぼす第3元素の影響	若手研究(B)	H.28.4.1～H.31.3.31	徳永仁夫	4,550
12 教員と学生との共同作業による学生視点の教材開発	基礎研究(C)	H.27.4.1～H.30.3.31	塚本公秀	4,680
13 不安心慮に対応した英語表現授業によるアサーティブ学習ストラテジーの構築	挑戦的萌芽研究	H.27.4.1～H.30.3.31	坂元真理子	2,080
14 奄美群島における在地伝承から創られた神社に関する宗教学的研究	若手研究(B)	H.27.4.1～H.30.3.31	町泰樹	2,730

*今年度の科研費獲得金額 全国高専第9位(51高専中)

1-5 長岡技術科学大学と鹿児島県長島町及び鹿児島 工業高等専門学校との包括的連携に関する協定について

地域が抱えるさまざまな課題に対して、相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的として、3者で包括連携協定を締結しました。これを皮切りに本校教員、または本校教員と技科大教員が連携して長島町の抱える課題を題材に教育研究活動を行い、創造的資質を持った技術者の育成を実施しています。また、大学教員と連携することで、教員の研究力向上を図っているところです。昨年3月には鹿児島県長島町で「食料・エネルギー分野のイノベーションによる地方活性化に関する国際会議」(1st International Symposium on Local Innovative Activation by Food and Energy (ISLife2017))を開催しました。



写真 連携協定調印式

1-6 研究論文数

本校教員の研究論文数（審査付）は専攻科の特例適用認定が行われた平成26年度と比較して増加傾向にはありますが、今尚、他高専と比較して少なく、このことが専攻科の特別研究指導教員資格を有する教員の少なさに関係していると思います。このため、専攻科の特別研究を担当できる教員を増やし、学生の受入れ体制を整備する取り組みとして、項目1-2と並行して、3年間（H.27～29年度）の「審査付き論文投稿計画および学位取得計画」を作成させ、各教員に自己目標の設定をお願いしました。さらに27年度から各学科1～2名の校務軽減教員（主事補、委員、担任から外す）をつくり、研究に従事させる方法を取り入れています。これらの取り組みは今年度が3年目であります。今後、研究論文数が増加し、特別研究指導教員資格を有する教員数も増加すると考えています。

教員の研究力が向上すると、図のようなシステムを構築でき、学生のレベルアップにも繋がると考えています。

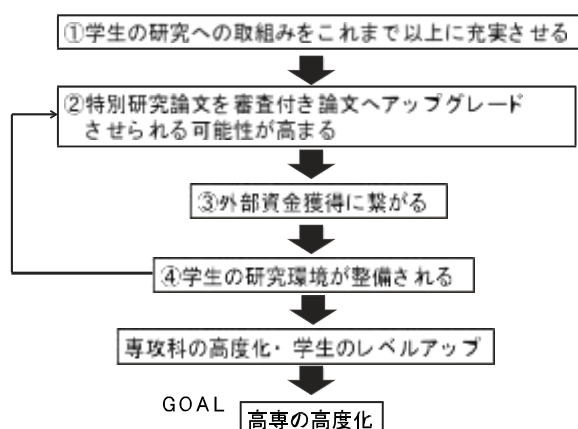


図 教員の研究力向上による効果

(2) 産学連携

産学連携活動を活性化させるために、地域共同テクノセンターを中心に教員と企業との共同研究から「IoTとドローン活用技術研究会」を立ち上げ、33社参加で8回のセミナーが開催されました。また、教職員で企業訪問を行い、地域共同テクノセンター支援企業（KTC）を前年度の75社から82社（平成29年12月末現在）まで増加しています。また、企業との共同研究数も増加しています。共同研究先と国の競争的補助金を申請する教員も増えてきています。

(3) 外部資金獲得

外部資金（科研費、補助金、共同研究、受託研究、受託試験、奨学寄付金）獲得の受入総額は平成27年度で83,196千円、平成28年度で93,817千円でありました。今年度は平成29年9月末時点で73,147千円と前年度の約8割を上期で獲得できており、前年度を上回るものと

考えています。昨年度の教員一人当たりの外部資金獲得は51高専中、14位（1,303千円）となっております。昨年度から実施している教員の研究への取組が改善されると、企業との共同研究や国や民間企業の競争的資金への応募も増え、更に増加すると確信しています。

(4) 教育への研究成果の還元

専攻科の特別研究については、27年度から特例適用による学位審査が認められたことから、研究内容の充実を図るために、1年生については12月上旬、2年生については6月上旬（今年度は5月上旬）に学内（今年度は2年生についてはホテル京セラ）でポスターを用いた研究進捗状況発表会を開催しています。特に2年生については、今年度、本校で国際シンポジウムが開催されたことから、本シンポジウムに参加させて、国内外の大学教員、高専教員らの前で、英語によるショートプレゼンとポスター発表を行いました。また学外における研究発表も盛んになり、国内外の学会や国際会議で複数回、発表する学生も増えています。多い学生は在学中、3～4回発表しています。中には学会で表彰される学生も見られるようになりました。

表 専攻科生の学会での表彰状況

氏名	タイトル	賞	主催・学会
今村 優希 (IAMS)	インクジェット法を用いて作製した有機透明導電膜の表面結晶の成長	連合大会講演表彰	平成29年度(第70回)電気・情報関係学会九州支部連合大会
熊原 悠太郎 (IACC)	下水汚泥焼成のきのこ栽培への適用に関する研究	優秀講演賞	平成29年度土木学会北部支部研究発表会
新藤 悠太郎 (IACC)	下水汚泥焼成を用いたきのこ栽培技術の開発	優秀ポスター賞	平成29年度産学連携推進学会春の研究発表会
山崎 寛登 (IACC)	下水汚泥を用いたきのこ栽培技術の開発	優秀講演賞	第71回土木学会全国大会

(5) 地域との交流促進及び研究成果の地元還元

「BISTRO 下水道 in 霧島・鹿児島高専」の実施 国土交通省のGAIAプロジェクト（Gesuido Academic Incubation to Advanced Project）で実施中の研究成果（下水汚泥を用いた高付加価値きのこの生産技術及びその生産過程で発生する廃培地、炭酸ガスの高度利用技術の開発）を地元へ還元する目的で、平成28年10月21日（金）に「BISTRO 下水道 in 霧島・鹿児島高専」を開催しました。本シンポジウムは講演会と試食会で構成され、内閣府地域活性化伝道師を務める国土交通省下水道部加藤裕之下水道事業課長、山形大学農学部渡部徹教授、ミス日本・水の天使の須藤櫻子さんをゲストに招き、国家戦略、地方創生、他地域の事例、農業生産者、消費者など幅広い視点からビストロ下水道の可能性を発信しました。

本プロジェクトについては、各種業界団体が興味を示しており、地元紙はもとより、全国紙、業界紙や読売新聞サテライト版、Yahoo! ニュースにも取上げられました。

今年度はこの取組みをさらに拡大した「BISTRO 下水道 in 霧島・鹿児島高専 2nd」を5月9日（火）にホテル京

セラにて開催しました。さらに本取り組みは、今年度の国土交通省の応用研究(3,000万円/年×2年)にも採択され、産学官民が連携して実装化に向けた研究を実施中であります。本プロジェクトには、複数の研究室の特別研究生、卒業研究生も参加しており、学外の研究者、技術者と交わることで、学外の情報を知り得る良い機会が創出され、各自が行っている研究が社会的に貢献しているという自覚を促すことに役立っていると考えています。幅広い視野を持った学生の育成、地域の諸問題を解決する能力を養うことができると考えています。



写真 ビストロ下水道開催風景

2. これまでのまとめと今後の計画

平成28年度に高専機構本部より、第5ブロックの研究推進モデルトライアル校(現在、モデル校)に指定され、まず、各教員の研究基盤作りに着手し、研究意欲の向上に努め、多くの教員の研究に対する取り組みが改善されつつあると思います。その成果として、教員の意識改革は学生の卒業研究、特別研究に対する取り組みにも反映され、共著ではありますが博士課程の学生などが作成する審査付き論文を複数本投稿する学生も見られるようになりました。この取り組みを継続することで、個々の研究力向上に繋がり、このことが学生の教育・研究面の指導に大きくプラスに働くと考えています。

今後はさらに各教員の研究基盤を強固なものとした上で、分野ごとにグループを形成し、研究を進展させ、審査付き論文数、特別研究指導教員数の増加を図りたいと思います。このことは、外部資金獲得にも繋がり、学生の研究活動を支援することにもなります(表 研究計画参照)。

「高専は大学と同じ高等教育機関」であることを全教員で再認識し、研究活動を通して学生の専門性を高める教育をしっかりと行っていきたいと考えています。

表 研究計画

項目		平成29年度				平成30年度			
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1	研究促進のための制度と研究チームの充実	校務負担軽減教員制度の継続実施							
		学内での研究チーム構成				第5ブロック内での研究チーム構成			
2	研究会の開催		RGBかごしま 海外大学との研究会	UTPとの研究会				海外大学との研究会	
			中堅・若手教員の研究討論会			中堅・若手教員の研究討論会			
3	戦略的外部資金獲得			外部資金獲得講演会				外部資金獲得講演会	



RGB かがしま モビリティフェスティバル そして高専 4.0 イニシアティブ

教務主事 須田 隆夫

1. RGB かがしま 1st で始まった平成 29 年度

平成 29 年 5 月 9 日から 11 日にかけて、「研究 (Research)」、「世界に通用する技術者育成のための国際化 (Global)」、「男女共同参画をはじめとする境界を超えた力 (Borderless)」の 3 つをテーマとして、本校が力を入れている様々な活動についての発表を行うイベント、「RGB かがしま」が開催されました。教務だよりで報告するにはちょっと場違いですが、他に記事が予定されていないとのこと。企画した立場ではないですが、教務主事としてはほぼ全先生方に仕事をお願いしましたので、報告することになります。

初日の 5 月 9 日は、吹奏楽部によるウェルカムコンサートで始まり、国立高専機構理事でもある東京大学教授 大島まり先生、マレーシア工科大学の Rini Asnida Abdullah 先生の講演、自治体関係者や鹿児島高専テクノクラブ会長の榊九州タブチ 鶴ヶ野未央社長、大島まり先生を交えてのパネルディスカッションなどが行われました。

2 日目は、本校、ホテル京セラ、霧島市民会館の 3 か所以下のような行事が同時に行われました。

【Research 分野】

(1) BISTRO 下水道 in 霧島・鹿児島高専 2nd (ホテル京セラ)
水・資源・熱が集まる下水道資源の有効活用について、様々な立場の人たちが情報を共有する活動が「BISTRO 下水道」です。研究の成果発表や地元農家の方等を交えた

パネルディスカッション、試食会も行われました。

(2) IoT とドローン活用技術研究発表会 (ホテル京セラ)

IoT とドローンは、これからの産業・経済・社会構造を変革していく先端的技術です。鹿児島高専、県内企業、自治体、関係団体・組合の有識者が、昨年度におこなった、農作物への鳥獣害対策の研究について報告しました。



初日の会場の様子 (ホテル京セラ会場)

【Global 分野】

(1) 国際シンポジウム 2nd ISEED (International Symposium on Expertise for Engineering Design)
(ホテル京セラ) グローバル化へ取り組んでいる本校が、海外からの研

究者をお迎えし、日本の研究者とともに、取り組んでいる研究について講演を行いました。本校の専攻科生も英語で発表しました。

【Borderless 分野】

(1) 男女共同参画講演会 (本校) 初日の基調講演をして頂いた大島まり先生と、マレー

シア工科大のシャズウィン先生に女性研究者として歩んできた道について全校生に講演して頂きました。

(2) Robogals かがしま ワークショップ (霧島市民会館)
本校で発足した Robogals (ロボギャルズ) の女子学生が霧島市内の小・中学生にレゴロボのプログラミングを指導しました。Robogals はオーストラリアのメルボルン大学から世界に広がった将来のリケジョを応援する活動

です。(3) ロボット楽団公演 (霧島市民会館)

本校 情報工学科 幸田先生自作の演奏ロボットと先生 (フルート) との混成楽団で、児童から大人まで楽しめる、和洋ポップスからセミクラシックの曲を演奏しました。



ロボット楽団の演奏風景



ロボギャルズかがしま



大島まり先生と本校での講演の様子

このイベントは、対象が海外の研究者から地元の小中学生までと、様々な活動を平行して行うという、例を見ない取組でした。本校の教職員、サポート学生の献身的な努力なしには実現できませんでした。この場を借りて、御礼を申し上げます。

2. モデルコアカリキュラムと Web シラバス

モデルコアカリキュラムってご存じでしょうか。Web シラバスはいかがでしょう。そもそもシラバスって何？と思われる保護者の方も多いかもかもしれません。（シラバスとは各科目の授業目標や授業回ごとの講義内容、評価基準を記載したものです）

モデルコアカリキュラム（MCC と略します）は、高専 機構が全国の国立高専の授業について「これだけは」という共通の達成目標を定めたもので、平成 24 年に試案が だされ、平成 29 年度に本案が決定されました。

「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」（主に一般科目）、「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」（各学科の専門科目）、「技術者が備えるべき分野横断的能力」（コミュニケーションスキルやチームワーク力、自己管理能力、企業活動理解まで含まれる！）の 3 分野で、主な科目ごとに学習内容と到達目標が定められています。（「これだけは」と言うには盛りだくさんです。）

カリキュラムや授業内容がこの MCC に適合しているか チェックし見直し→各科目のシラバスに具体化、となります。

そこで、各高専がこれまでそれぞれの形式で作成して、公開してきたシラバスを「全国統一規格」にして、Web 上ですべての高専のシラバスを見られるようにしたシステムが Web シラバスです。既に全国高専のシラバス が ネット 上 で 公 開 さ れ て い ま す 。 (<https://syllabus.kosen-k.go.jp>)

今年度、全国国立高専の先生方はこの「全国統一規格」にシラバスを書き換え、入力する作業を行いました。特に教務担当の先生方は毎月、「Web シラバスの入力状況を報告せよ」「モデルコアカリキュラムを完全に

満たしているか確かめよ」と指令を受けて、授業や卒研指導や部活指導などの目に見える活動とは違ったところで、実は苦勞していたことをご理解頂ければ幸いです。

3. 高専 4.0 イニシアティブについて

保護者の皆様の多くは、「いったい何の事？」と思われるかもしれません。独立行政法人である高専は、5 年毎の中期計画で運営されていますので、平成 31 年からの 第 4 期に先駆けての活動、という意味です。「国際化の 加速・推進」、「新産業を牽引する人材育成」、「地域 貢献」をテーマにして全国の国立高専から事業（活動） が公募されました。申請された 96 事業のうち 37 事業（31 校）が採択され、本校も以下事業が採択されました。

【事業名】：「国際化と新たな技術者教育の枠組の融合によるイノベティブ人材の育成」

【事業概要】：今後の創造的技術革新に適応する新たな教育の枠組を創成し、グローバル展開によりそのレベルの高度化・国際化を図る。

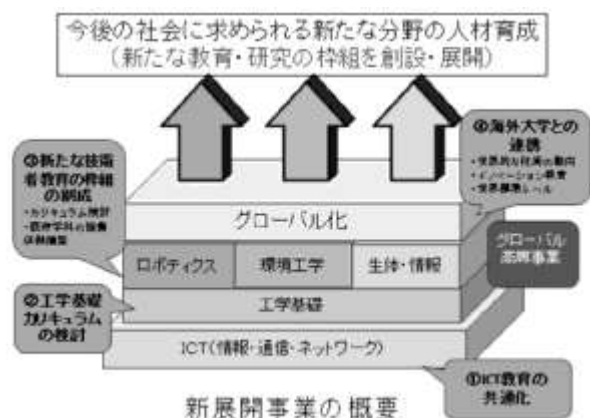
（方向性：◎国際化の加速・推進、○新産業を牽引する人材育成）

【取組内容】

- ①情報・数理、ネットワーク知識の共通教育化
- ②工学基礎教育の共通化
- ③既存の専門学科と全く異なる枠組による専門教育体制の構築
- ④海外インターンシップ、海外大学等との教育・研究連携を通じた教育のグローバル展開 本校では、9 高専連携事業から引続く、グローバル高

専の活動があります。このグローバル化に向けた取組と、今後は様々な分野が複合・融合した技術開発が進んでいくことから、それに対応できる人材育成を結び付けたものです。

本年度は ICT 環境の整備や複合・融合分野の研究グループ組織化など行いました。次年度に上記の取組を進めていきます。



インターンシップ

教務主事補 前園 正宜

インターンシップは「学生が在学中に自らの専攻・キャリアに関連した就業体験を行う制度」と位置づけられています。高専生に対しては主に本科4年生および専攻科1年生を対象としたインターンシップの受け入れが様々な企業・大学から提供されており、今年度は4年生のうちのべ77%の学生が夏期休業中にインターンシップに参加しました。

インターンシップでは実際に企業の工場などに赴き、1～2週間の職業体験を行います。内容は企業によって様々ですが、企業の現場の見学や、社員との交流、企業と関連する分野の課題解決に取り組むもの、実際の業務の一部を実践するものなどもあり、学生が進路を考えていく上で大いに参考になる体験ができます。

実際に社会に出て、高専では体験できないことに触れることができる機会となるインターンシップですが、そこへ参加する学生は『鹿児島高専の代表者』として社会から見られることにもなります。居眠りや遅刻、約束を守れないなどの行為は学校内では注意程度で済むものかも知れませんが、社会では相手にとって大変失礼な行動となります。インターンシップ先でこのような非常識な行動を取ってしまうと、それは鹿児島高専全体の評価として企業に受け取られてしまいます。その企業へ就職を希望している他の学生や後輩たちが大変な不利益を被ることになるのは言うまでもありません。また、そのような行為を平然と行ってしまう学生自身を、本校の学生としていずれかの企業へ推薦することは難しくなるでしょう。インターンシップに参加する学生には本校の代表者として普段以上に自覚ある行動が求められます。

将来の進路を考える上でインターンシップは様々なことを知るチャンスです。参加する目的意識をしっかりと持ち、積極的に行動することで将来への成長の糧としてくれることを期待します。

表1 本科4年生のインターンシップ参加状況

	実際の		参加率
	応募者数	参加者数	
M科 (36人)	35人	29人	
E科 (32人)	19人	15人	81%
S科 (45人)	50人	35人	47%
T科 (36人)	33人	27人	78%
C科 (41人)	40人	35人	88%
全体 (190人)	177人	146人	77%

(応募者数、参加者数、参加率は115～160人)

一日体験入学

一般教育科 教務主事補 松浦 将國

一日体験入学は当初8月6日に開催予定でしたが、台風5号の影響により一旦中止いたしました。しかし、本校の一部の先生方の強い希望により、10月8日にプログラムを短縮した上で実施させて頂きました。実施の有無が二転三転したことで皆様にはご迷惑をお掛けしたと存じます。申し訳ありませんでした。今年の件を教訓に翌年度以降の改善につなげていきたいと考えております。また、このような状況にも関わらず多くの教職員、学生、保護者、地域の皆様の協力の下、何とか無事に開催できたことに心から感謝しております。本当にありがとうございます。

さて、本校の一日体験入学は1983年に始まりました(1993年発行「鹿児島高専三十年史」より)。当時は「一日見学会」と称していましたが、1992年より「一日体験入学会」となり現在に至ります。中止になった年があったかは定かではありませんが、今回は34年目になります。今年で開校54年となる鹿児島高専を代表する伝統的なイベントです。

また、一日体験入学は高専・高校受験を控えた中学生の皆さんが「ものづくり」に触れる数少ないチャンスです。今年度は一旦中止にした関係で当初の開催予定日(8月6日)以降に新規募集を行いませんでしたが、それでも実施直前段階(9月22日時点)では294人もの中学生の方から参加希望の返事を頂くことができました。

本校の学生の入学動機は「就職率が良い」「『ものづくり』に興味があった」など人によりさまざまですが、私が聞いた限りでは、一日体験入学をきっかけに高専に興味を持った人が多いようです。ご来訪の中学生の皆さんは今回を機に高専を進路先の選択肢の一つとして前向きに考えて頂けたでしょうか。

プログラミング、画像認識、橋の作成など、今年もよそではなかなか体験できないようなユニークな企画を各科にて実施させて頂きました。私自身は全体的な案内役を務めていた関係で詳細を見ることはできませんでしたが、参加風景を少し写真撮影させて頂きました。その際は参加した中学生の皆さんも、運営していた教職員、学生の皆さんも一生懸命取り組んでいたようでした。当日いらっしゃった中学生の皆さんや保護者の方に少しでも「ものづくり」への興味をもって頂けたらとてもうれしく思います。また、今回の一日体験入学が皆様の良い思い出の一ページになれば主催者の一人として望外の喜びです。

授業評価アンケート

教務主事補 前園 正宜

鹿児島高専では FD 活動（教員の授業力を向上させるための取り組み）の一環として授業評価アンケートを前期、後期の終わりにそれぞれ実施しています。授業を受けた学生の皆さんからの意見をもとに、授業の進め方（進むスピード、話し方、板書、わかりやすさ、興味を引き出す工夫など）や授業環境（居眠りや私語をする学生がいないかなど）を改善することを目的としています。

平成 29 年度からの新しい取り組みとして、アンケートの方式を一新し、従来のマークシート記入方式から、スマートフォン等を利用してアンケート用の web サイトにアクセスし回答してもらう方式に変更しました。前期に実施したアンケートではネットワーク環境の試験的な運用として 1、2 年生の科目のみを対象として実施しました。前期末試験後の時間を利用し、クラスごとに担任教員の指導の下でスマートフォンを利用し、アンケートに答えてもらいました。当日スマートフォンを持ってきていない学生には学生課から iPad を貸し出して対応しています。前期の試験的な運用では大きな問題は発生しなかったため、後期も同様の形式で全学年を対象として実施する予定です。

また、平成 29 年度のアンケートから学生の自学自習時間を調査する項目を新たに追加しています。図 1 は 1 年生の授業 1 回あたりの予習復習時間（宿題の時間を除く）の分布を示しています。共通の実技科目である保健体育と美術・音楽はあらかじめ除外してありますが、それ以外の科目でも家庭での勉強に向かない科目がいくつか含まれています。それでも、勉強を全くしていない割合が 19%あるというのは低くない数字です。高専で学ぶ内容は塾や通信教育講座では補助できないことが多いため、いかに自学自習できるかが重要となります。低学年の段階から授業で学んだことをその日のうちに復習するなど、自学自習の習慣を身につけることが高専生として必須です。

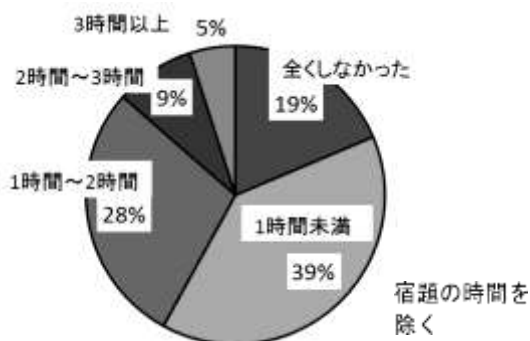


図1 1年生の授業1回あたりの平均勉強時間

数学補習

一般教育科 教務主事補 松浦 將國

2014 年度から開始した数学補習も今年で 4 年目となります。開始当初の資料を見ても数学補習の目的は一つははっきりしません。しかし、基本的問題を主な課題として成績不振者に対して行われてきたことから、数学の基礎内容の定着を図ることが目的と考えられます。

今年度も昨年度にならい、前期中間試験から同期末試験までに 6 回、夏休み明けから後期中間試験までに 6 回、後期中間試験から同期末試験までに 5 回実施する予定です。学校行事との関係で回数が当初の見込みより減ったことは残念です。

受講学生の出席率は良く、受講態度にも特に問題は見られません。ただ、友達に理由を伝えて欠席する不正がわずかながらあります。非常に残念です。補習に出席できない理由があるときは、必ず担任の先生や私に事前に直接相談して下さい。「報・連・相」はビジネスマナーとして捉えられがちですが、場に関係なく健全な社会生活を営む上で必要な作法だと私は思います。

今年度は昨年度から少しアレンジして受講生の定期試験答案をチェックしています。答案と正解を突き合わせて、解答した部分のうち不正解だったが正解しそうだった部分を確認しているのです。私が見たところ、この部分が正解していれば得点が 20～30 点ほど増えそうな答案が多いようです。友達同士でもできるので、補習受講生でない学生の皆さんも是非やってみて下さい。

失敗すること自体はくやしいことですが、「失敗は成功の母」といいます。自分の失敗した箇所をしっかりと見つめ、きちんと検算する姿勢を身につけない限り、いくら公式の類を丸暗記しても得点は上がりません。私の経験則ですが、得点が低い人は公式自体を誤って暗記したり、場合や状況をよく考えずに公式を無理にあてはめたりする傾向があるようです。また、成績が良い人ほど自分を過信せず、失敗と向き合う覚悟があるように思います。

「なぜ頼んでもいないのに補習をやるのか」と一部の学生の人から言われるかもしれません。たしかに余計なお世話ですが、本校は他高専に比べて少し留年率が高く是正を求められています。学生の皆さんが自ら協力し合い、留年率減少へ向けて努力を重ね、かつその成果が客観的に認められれば、現在のような“上からの”補習も不要かもしれません。まずは学生の皆さんでよく話し合っ、定期試験で今より少しでも良い点を取ることが第一歩ではないでしょうか。

キャリア教育 ～技術士会との連携による共同教育～

教務主事補 鎌田 清孝

本校は、平成 19 年に鹿児島県技術士会との連携協定を締結し、技術士会との連携による共同教育を実施しています。これは、技術士会との連携により多様な教員を確保し共同教育を行うことで、ニーズが多様化する社会において、主体的に課題を設定し解決できる実践的技術者を育成することを目的としています。そのため、専攻科および本科で共同教育が行われており、

専攻科 1 年生の専門共通科目である「環境創造工学特別講義」では、鹿児島県技術士会から講師を招き、省エネ、環境対策など環境に関連したオムニバス形式の授業を実施しています。本科においては、2、3 年生は特別活動の一貫でキャリア教育、4 年生は専門科目において共同教育を実施しています。今年度は、11 月 8 日

(水)に機械工学科 2・3 年生を対象に(株)建設技術コンサルタンツの中村 大輔 様(土木工学科 31 期生)から「技術者の楽しい未来」、電気電子工学科 2 年生、電子制御工学科 3 年生を対象に鹿児島県始良伊佐地域振興局建設部の宮内新一様(土木工学科 17 期生)から「技術士の社会的役割(公務員技術士として)」、また、11 月 15 日(水)に機械工学科 2・3 年生を対象に共進測量設計(株)の上野幸一様から

「環境の時代と技術者」、都市環境デザイン工学科 2・3 年生を対象に(株)アジア技術コンサルタンツの萩原清道 様(土木工学科 2 期生)から「これからの技術者の人生設計について」、さらに、12 月 6 日(水)に電気電子工学科 3 年生、電子制御工学科 2 年生を対象に鹿児島テレビ放送株式会社の川上孟法様(電気工学科 36 期生)から

「キャリアとの向き合い方」と題して講演していただきました。また、4 年生対象のキャリア教育として、技術士の方々による講演を 12 月から 2 月にかけて予定しています。

今後もさらに鹿児島県技術士会と密接に連携しながら、より充実した内容にして継続していきたいと思っています。

FD 研修会

教務主事補 鎌田 清孝

FD 研修会の FD とは Faculty Development (ファカルティ・ディベロプメント) の略で、「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」のことであり、大学の授業改革のための組織的な取り組み方法を指します。Faculty (ファカルティ) とは、大学の学部などの教員組織や教員集団を指す。Development (ディベロプメント) とは、能力開発の意味です。また、類の語に SD (Staff Development (スタッフ・ディベロプメント)) や PD (Professional Development (プロフェッショナル・ディベロプメント)) があり、大学教職員および大学組織の職能開発の取り組みとして、広義のファカルティ・ディベロプメントも提唱されています。

本校におきましても FD 研修会を開き取り組んでいます。第 1 回目の FD 研修会は 6 月 2 日(金)に S.N. ライフコンサルタントの児玉史彦様から「学生とのかかわり方 コミュニケーション能力」という演題で講演していただきました。講演の内容はインストラクションスキル、やさしい質問の仕方、コーチング、話の聴き方、開発レベル別かかわり方など興味深い内容でした。

第 2 回目の FD 研修会は 1 月に開催で、高校における学生指導(生活、学習など)を講演してもらう予定です。また、学生への教育の教授法を改善するために、自己点検・評価活動を行っており、その一環として授業アンケートを行なっています。このアンケートの結果に基づき、教員は教授法、進め方などの改善に役立てています。

今後もさらに FD 研修会や授業アンケートを実施し、教育の改善を行なっていきたいと思っています。







ネチケット

一般教育科 塚崎 香織

皆様、こんにちは。学生主事の塚崎香織と申します。すれ違う際に、いつも気持ちがいい挨拶をしてくれて、ありがとうございます。

さて、この一年を振り返り、学生の皆さんにお願いがあります。これからはAI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）の時代であり、ますます便利な世の中になります。便利な反面、使用する側が注意しないと悪用される恐れもあります。このような時代に活躍する技術者となる高専生の皆さんには、情報セキュリティ、ネチケット、技術者としての倫理観について、しっかりと学んでいただきたいと思います。自らの身を守る「すべ」を身につけるとともに、日本社会を守り発展させる技術を身につけてもらいたいと願っています。

鹿児島高専には、警察庁より委託を受けて、「サイバー防犯ボランティア」としてネット上での犯罪防止のためにボランティアとして活躍している学生がいます。12月には警察庁の方が本校にお越しになり、感謝状の贈呈式がありました。このように、本校ではインターネットの安全のために活躍する学生がいる一方で、インターネットに関連するトラブルもあり、大変残念なことです。

鹿児島高専では、ネチケット（SNSやインターネットを使用する際に守るべきルール）について、入学時のネチケット講習、各学科の情報リテラシーの授業、担任による特別活動、掲示物等で指導しています。加えて、今年度は、本科の1年生から5年生を対象に、4月20日（木）に株式会社GREEから小木曾健氏を講師にお招きし、講演『正しく怖がるインターネット～事例に学ぶ情報モラル～』を行いました。講演の中では、ネット上には匿名性はなく、実生活の中で皆さんの家の外玄関に掲示できないものはインターネット上に書き込んではいけないことを、事例をもとに学びました。つまり、インターネット上に個人情報や他人への誹謗中傷を書き込んだり、いたずら写真を掲載したりしてはいけません。一時の軽はずみな行動が、皆さんの将来に思わぬ影響を及ぼすことも懸念されます。

鹿児島高専の学習・教育到達目標に「相手の立場に立つてものを考える技術者」とあります。自分のことを大切にすると同時に、他人のことを思いやることができる人になってもらいたいと切に願っています。

不測の事態の中で

一般教育科 鞍掛 哲治

鹿児島高専の体育祭と言えば、最近雨を連想される方が多いのではないのでしょうか。今年度第55回の体育祭も、学生たちは晴天の中日頃の成果を発揮できる場として準備・練習を行ってきたが、昨年度に引き続き雨、しかも台風接近に伴い豪雨の中での開催となった。当日は、午前10時より開会式が始まり、競技は各学科の応援合戦のみの実施となった。やぐら絵は、例年では早朝より貼り付け作業を行うが、風雨が強まる中での危険防止のため、今回は体育祭終了後に設置、審査を行うこととなった。

振り返ると、今年度の体育祭は不測の事態の連続と言っても過言ではないだろう。10月になり後学期が始まるとこのイベントの準備、応援団の練習が本格的に開始されたが、例年になく猛暑が続き、体調管理、水分補給の注意喚起にもかかわらず熱中症で体調を崩す学生が続出、準備・練習の中断・休止が数回あり、その都度実行委員や応援団長と対応・対策について話し合ったことを記憶している。

また、体育祭前日から当日にかけては、台風の進捗が予想より早まり、天気予報や様々な事情を考慮しての苦渋の選択を行い、前述の通り当日は開始を一時間遅らせ、競技は応援団のみの実施となった。

さらにやぐら絵は、台風が去り翌週は好天に恵まれたものの、放課後の日没までの短時間の中での2日間での取り付け作業、そして週末の審査、その後の取り外しと、学生の懇親を込めて描いた作品を眺める余裕などはなかった。

しかし、このような不測の事態の連続にもかかわらず、学生会長や体育祭実行委員長を始めとする学生一人一人の冷静で、柔軟な行動・対応があったからこそ、今年度の体育祭も大過なく実施できたのではないだろうか。

熱中症で体調を崩した学生が出た際には、関係各所への迅速な連絡、倒れた学生への適切なケア。また、体育祭前日から当日に掛けては、悪天候の中での抜かりのない準備や応援団の見事な援舞。さらに、体育祭後は、やぐら絵の短時間での取り付け・取り外し作業、有志（学生・寮生会、サッカー・野球・ソフトテニス部の学生）による体育祭の後片付け等、本校学生の自主的・適格な対応・行動は称賛に値すると共に、彼らの底力を再認識する機会となり、体育祭の係を担当し、本当に良かったと思う。

最後に、来年度の体育祭こそ晴天の中、応援団に加え、やぐら絵をバックにして400メートルトラックを一生懸命走り回る学生の姿も見たいものである。そのためにも、今からてるてる坊主を作り、お願いしたいと思う。

てるてる坊主、てる坊主、来年度の体育祭は、天気になーれ！

H29 年度文化祭

学生主事補 奥 高洋

学生主事補の奥と申します。本年度の文化祭を担当したことから、高専便りに寄稿する羽目となりました。思ひ出を綴るだけの内容ですが、よろしくお願い致します。

本年度の文化祭は、訳あって実行委員長が決まらず、実行委員会としての活動開始は8月初め、例年より2ヶ月も遅いスタートでした。近年は夏休み中にインターンシップへ出向く学生も多いため、果たして準備・開催できるのか？との思いが募る一方、私自身も初めての担当で全くの素人、不安一杯で取り組み始めたのを覚えています。他にも不安要素はありましたが、今回は割愛します。案の定、初回の実行委員会では只々学生が希望を言うだけで、(仮に学生の希望通り行うとしても)実現までの段取りをまるで考えていない状況でしたから、もはや「今年が最後の文化祭かな...？」と思ったのは事実です。それ故、(煩いと思ったかもしれませんが、)実行委員長や各部局長へは、例年以上にコンタクトを取りました。また、0-157の食中毒や閉鎖空間での熱中症問題が取り沙汰されていた時期でしたから、安全に関しては殊更配慮を促した次第です。しかしながら、実態の見えない口頭のみ報告、スケジュールの甘さによる見切り発車や事後承諾等、頭を抱えさせられる事が続出し、私自身の指導力不足を痛感・反省する日々でした。それでも何とか開催にこぎつけようかという矢先の10/18、今度は台風接近の予報。夜遅くまで実行委員長と二人で天気図に見入りながら話し合い、委員長は(多分に不本意だったと思いますが)涙を吞んでプログラムを変更し、台風に備える決断をしてくれたのでした。当日は風雨が強くなる中、変更に次ぐ変更があったにもかかわらず、(一部を除き)無事撤収まで終えられたのは、実行委員長の英断と彼の指示のもと実行委員が各自の責務を果たしてくれたからです。十分委員長／委員「らしさ」を発揮してくれた点は立派でした。加えて、実行委員会や私の至らぬ点を常々支えて下さった教職員・保護者の皆様のお力添えがあったからに他なりません。特に、学生係の皆様にはご面倒・ご迷惑をお掛けした上に、並々ならぬご協力を頂きました。改めてお礼申し上げる次第です。最後にもう一言。文化祭を「年に一度のばか騒ぎ」と捉えている学生の気持ちも解らなくはありません。でも、「文化」を冠する催しなのでから、多少は文化の香り漂うものを見せることも必要に思います。私が部外者なら、高専生の賢い一面も見たいと思うのですが…。もし次回実施されるなら、この点も是非考慮して、より良い催しとしてくれれば嬉しく思います。

守ろう！ルール

学生主事補 濱川 恭央

鹿児島高専に入ったのは、どうして？自分に質問してみてください。先生や親に勧められた人もいるでしょう。最終的には自分で選び、自分で受けた学校です。

鹿児島高専ってどんな学校とされていますか？客観的に学校をみてください。頭のいい、就職率がいい、中学生が憧れている、応援団が格好いいなど、あまり悪い噂はありません。先輩たちが実直に努力し、いい会社に就職してきた実績から、周囲から高専は高い信頼を得ています。また高専生は、言われたことをする「生徒」ではなく、一人一人が考え行動する「学生」でもあります。無免許運転はなぜ駄目なのでしょう？愚問ですね。バイクや車は便利ですが、危険な乗り物なのです。免許を取る際、事故の危険性や怖さ、事故をした際の周りへの影響、事故被害者への費用がかかることなどを教わります。では自転車は免許がいらないのに、どうして罰則(罰金)があるのでしょうか？実は自転車は軽車輛という位置づけです。免許がいらないだけで、スピードは出るし、死亡事故も起こす危険な乗り物です。自転車ですら安全に通行するルールが「道路交通法」で、この法律により危険運転、逆走行など禁止し、特に並列走行、傘さし運転、二人乗り、酔っ払い運転、無灯火運転は、禁止され、罰則(罰金)があります。最後に、学校の通学許可はなぜいるのでしょうか？

通学許可は、通学ルールを守り、保険加入など各種条件を満たし、実技講習や車両検査を実施し合格した者のみが許可されます。使用車両違反は、学生便覧にもあるように懲戒処分となります。つまり、一人ひとりが安全に通学できるように許可が必要なのです。

自分ひとりだけ適当でもいいと思わないでください。一人の軽率な行動、例えば近くの駐車場に無断で車を停めると、「高専生が停めた」と、高専生全体が批判され、連帯責任を負います。「学生」ならわかるはず。どうか初心を思い出し、高専生である誇りを持ってください。自身の行動の善悪を判断でき、友人の悪い行動も注意してください。もし浅はかな考えで悪い行動をしてしまった場合は、起こした行為と向き合い、事の重大さを認識し、もう二度と悪い行動をしないために反省してください。

高専生としての誇りを持ち、自身の行動に責任を持ち、周囲のことなどを考えて行動できる人は、信頼できる素晴らしい人間に成長できると思います。是非通学という身近なルールを守ることからはじめ、楽しい高専生活をおくことを望みます。

都城・鹿児島高专親善試合結果

鹿児島高专会場

平成29年5月13日(土)

競技種目	試合結果
陸上	総合点 都城 (103 - 117) ○ 鹿児島
硬式野球	第1試合 (4・5年) 都城 ○ (15 - 2) 鹿児島 第2試合 (1～3年) 都城 ○ (6 - 1) 鹿児島
男子バレーボール	第1試合 都城 ○ (26 - 24) 鹿児島 第2試合 都城 (23 - 25) ○ 鹿児島 第3試合 都城 ○ (25 - 23) 鹿児島
女子バレーボール	第1試合 都城 ○ (25 - 9) 鹿児島 第2試合 都城 ○ (25 - 18) 鹿児島
卓球	◆ 団体戦 第1試合 A 都城 ○ (3 - 1) 鹿児島 第2試合 B 都城 (2 - 3) ○ 鹿児島 第3試合 C 都城 (1 - 3) ○ 鹿児島 第4試合 D 都城 ○ (3 - 1) 鹿児島 ◆ 個人戦 1位 野田悠馬 (都) 2位 吉生優生 (鹿) 3位 松元莉央 (都) 3位 吉生美穂 (都)
弓道	◆ 団体戦男子 都城 (5 - 10) ○ 鹿児島 ◆ 団体戦女子 都城 (6 - 8) ○ 鹿児島 ◆ 団体戦女子 都城 ○ (8 - 7) 鹿児島 都城 ○ (4 - 3) 鹿児島 ◆ 個人戦男子 落谷直輝 ◆ 個人戦男子 1位 村元翔太 (鹿) 2位 落谷直輝 (都) 3位 松崎文人 (都) ◆ 個人戦女子 1位 尾崎結衣 (都) 2位 武田夏奈 (都) 3位 山下夏穂 (鹿)
テニス	◆ 団体戦 第1試合 都城 (0 - 3) 鹿児島 第2試合 都城 (0 - 3) 鹿児島 第3試合 都城 (0 - 3) 鹿児島
柔道	◆ 団体戦 第1試合 都城 ○ (3 - 2) 鹿児島 第2試合 都城 ○ (3 - 2) 鹿児島 ◆ 個人戦 1位 榎田純之介 (都) 2位 山元雄二郎 (鹿) 3位 榎丸陽大 (都) 木場湧也

都城・鹿児島高専親善試合結果

都城高専会場

平成29年5月13日(土)

競技種目	試合結果									
サッカー	第1試合	合	都城	(	0	—	2)	○	鹿児島	
	第2試合	合	都城	(	0	—	9)	○	鹿児島	
	第3試合	合	都城	(	0	—	4)	○	鹿児島	
ハンドボール	雨天のため交換会を開催									
	ジェンガ		都城	(	5	—	11)	○	鹿児島	
	トランプ	△	都城	(	7	—	7)	△	鹿児島	
	U N O		都城	(	3	—	5)	○	鹿児島	
	腕相撲(男子)		山田俊樹(都城)							
	腕相撲(女子)		末松夏帆(鹿児島)							
男子バスケボール	第1試合	合	都城	(	75	—	79)	○	鹿児島	
	第2試合	合 ○	都城	(	24	—	23)		鹿児島	
	第3試合	合	都城	(	23	—	32)	○	鹿児島	
女子バスケボール 女子バスケボール	第1試合	合 ○	都城	(	58	—	37)		鹿児島	
	第2試合	合 ○	都城	(	28	—	14)		鹿児島	
バドミントン	第1試合	合	都城	(	1	—	2)	○	鹿児島	
	第2試合	合	都城	(	0	—	3)	○	鹿児島	
	第3試合	合	都城	(	0	—	3)	○	鹿児島	
ソフトテニス(男子)										
ソフトテニス(男子)	第1試合	合	都城 A	(	1	—	2)	○	鹿児島 A	
	第2試合	合 ○	都城 B	(	2	—	1)		鹿児島 B	
	第3試合	合	都城 A	(	0	—	3)	○	鹿児島 A	
	第4試合	合	都城 B	(	1	—	2)	○	鹿児島 B	
ソフトテニス(女子)	個人戦 優勝 坂元(さかもと)・立山(たてやま)組(都城)									
	準優勝 山籠(いでごもり)・上村(かみむら)組(鹿児島)									
ソフトテニス(女子)	個人戦 優勝 丸野(まるの)・上野(うえの)組(鹿児島)									
剣道	第1試合	合 ○	都城	(	3	—	2)		鹿児島	
	第2試合	合	都城	(	4	—	4)	○	鹿児島	
	第3試合	合 ○	都城	(	3	—	2)		鹿児島	
	第4試合	合 ○	都城	(	5	—	1)		鹿児島	
水泳										
	競泳部門		都城	(	310	—	392)	○	鹿児島	

鹿児島高専
本勝ち
数勝ち

大会等入賞一覧

◎第4回九州工業系学校バドミントン大会

開催日：平成29年3月25日～26

日 会 場：玉名勤労者体育センタ

一 結 果：準優勝

◎第62回鹿児島県春季バドミントン選手権

開催日：平成29年4月15日～16

日 会 場：桜島総合体育館

結 果：4位

◎第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

開催日：平成29年7月7日～23日、11月11日～14日

(1) 陸上

男子100m・200m 1位 佐方優介 男

子110mH 2位 永留健人

(2) バドミントン 男子団

体 3位

男子シングルス 3位 中馬祐輔

(3) 水泳 総合優

勝

男200m平泳 1位・100m平泳 1位 宮路健太

郎 男200m背泳 1位・100m背泳 2位 鶴田

瑠威 男200mバタフライ 1位 山之口雅人

男50m自由 2位 石原侑弥 男200m

平泳 2位 下原啓佑 男200mバタフ

ライ 2位 山之口周平 男200m個人

メドレー 3位 西川哲史 男200m自

由 3位 内山尚紀

女100m平泳 3位・50m背泳 3位 石原京依

男400mメドレーリレー 1位

鶴田瑠威・広谷智之・西川哲史・石原侑弥 男

400mリレー 2位

石原侑弥・西原琢斗・榮晃太郎・内山尚紀 女

200mリレー 2位

松元水樹・釜崎寧々・池田英永・石原京依

(4) バスケットボール 男

子 3位

(5) 剣道

男子団体 3位

(6) サッカー 優

勝

(7) 柔道

男子60kg級 3位 木場湧也 男子

90kg級 3位 中園康太

(8) バレーボール 男

子 3位

(9) テニス 男子団

体 2位

男子シングルス 3位 中村俊介 男子ダブル

ス 3位 中村俊介・竹添雄大

◎第4回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

開催日：平成29年7月8日～9日

会 場：荒尾運動公園 弓道場

結 果：女子個人 3位 山下夏穂



◎第 23 回西日本地区高等専門学校空手道大会

開催日：平成 29 年 7 月 8 日～9 日

会 場：宇部工業高等専門学校

結 果：女子個人形・組手 準優勝 今村菜々子

◎第 25 回県高等学校 1 年生ハンドボール大会

開催日：平成 29 年 8 月 11 日～12

日 会 場：奄美市名瀬総合体育館

結 果：3 位

◎第 52 回全国高等専門学校体育大会

(1)サッカー 開催日：平成 29 年 8 月 23

日～27 日

会 場：駒沢オリンピック公園総合運動場

結 果：優勝

◎第 13 回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト

開催日：平成 29 年 9 月 1 日～3 日

会 場：大森スポーツセンター

結 果：ベストパイロット賞

◎第 54 回赤旗全国将棋大会鹿児島県大会

開催日：平成 29 年 9 月 24

日 会 場：鴨池公民館

結 果：B 級優勝 峯崎遥輝

◎全国高等専門学校ロボットコンテスト 2017

九州沖縄地区大会 開催日：平成 29 年 10 月

29 日

会 場：大牟田市民体育館

結 果：デザイン賞、特別賞（本田技研工業株式会社）

◎Honda エコマイレージチャレンジ 2017 九州大会

開催日：平成 29 年 12 月 24

日 会 場：HSR 九州

結 果：グループⅢ優勝

◎第 18 回九州沖縄地区高専新人テニス大会

開催日：平成 30 年 1 月 13 日

会 場：熊本県熊本市パークドーム熊本

結 果：男子団体 優勝

◎平成 29 年度九州・沖縄地区高等専門学校

校 バドミントン新人戦 開催日：平成 30

年 1 月 13 日～14 日

会 場：熊本県荒尾市総合体育館

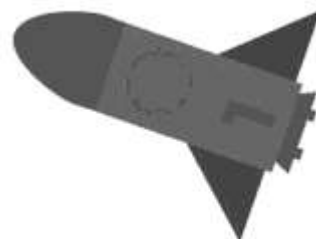
結 果：男子団体 準優勝

◎第 11 回全国高等専門学校英語プレゼンテーション コンテスト

開催日：平成 30 年 1 月 27 日～28 日

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

結 果：チーム部門 COCET 賞



学生表彰者リスト

◎功労賞

機械工学科5年 内村 謙	機械工学科5年 日高 碧仁
電気電子工学科5年 重森 和弥	電子制御工学科5年 岸盛 佳介
電子制御工学科5年 岩間 祐太	電子制御工学科5年 久保田 遼斗
電子制御工学科5年 白澤 夏樹	電子制御工学科5年 田中 優
情報工学科5年 上床 真志	情報工学科5年 下吉 賢信
情報工学科5年 田中 佑実	

◎スポーツ賞

○団体の部

サッカー部	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	優勝
	第52回全国高等専門学校体育大会 (兼第50回全国高等専門学校サッカー選手権大会)	優勝
	第24回九州高等専門学校(U-19)サッカー大会	優勝
バドミントン部	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	総合優勝
	第62回鹿児島県春季バドミントン選手権大会	第4位
	第4回九州工業系学校バドミントン大会	優勝
ハンドボール部	第25回鹿児島県高等学校1年生ハンドボール大会	第3位
テニス部	第18回九州沖縄地区高専新人テニス大会	優勝

○個人の部

陸上競技部	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会		
電子制御工学科3年 佐方 優介		男子100m	第1位
		男子200m	第1位
水泳部	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会		
機械工学科3年 宮路 健太郎		男子100m平泳ぎ	第1位
電子制御工学科1年 山之口 雅人	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子200m平泳ぎ	第1位
電子制御工学科5年 鶴田 瑞成		男子200m背泳ぎ	第1位
電子制御工学科3年 広谷 智之	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mバレーレーン	第1位
電子制御工学科2年 西川 哲史		男子400mバレーレーン	第1位
機械工学科2年 石原 侑弥	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mバレーレーン	第1位
都市環境デザイン工学科2年 松元 水樹		女子4×50mリレー	第1位
都市環境デザイン工学科2年 金崎 家々	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	女子4×50mリレー	第1位
情報工学科2年 池田 英永		女子4×50mリレー	第1位
都市環境デザイン工学科1年 石原 京依	第54回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	女子4×50mリレー	第1位

◎文化賞
○団体の部

航空技術研究同好会
Robogals Kagoshima
電子・情報システム研究部
エコラン部

第13回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト
Robogals SINE 2017
サイバー防犯ボランティア
エコマイレレッジチャレンジ2017第33回九州大会 グループⅢ (大学・短大・高专・専門学校生クラス)

ベストパイロット賞
二日
情報技術犯罪対貴
課長感謝状
優勝

○個人の部

茅茶富・陸自重亨前

電子制御工学科 3年 峯崎 遥輝	第 54 回赤旗全国将棋大会鹿児島県大会	B 級優勝
建築同好会		
都市環境デザイン工学科 3 年	鹿児島県建築士会 事国回建築設計競技	審査委員長特別賞
英語部		
情報工学科 5 年 田中 佑実	第 11 回全国高等専門学校 英語 プレゼンテーションコンテスト	COCET 賞
情報工学科 5 年	英語 第 11 回全国高等専門学校 プレゼンテーションコンテスト	COCET 賞
情報工学科 4 年	英語 第 11 回全国高等専門学校 プレゼンテーションコンテスト	COCET 賞
電気電子工学科 3 年 瀬戸山 拓斗	高专 PR コンベンツ 部門	努力賞
機械工学科 5 年 谷間 慶紀	もの 夕日 α 弘 LL 町田 2017	般審査員賞
機械工学科 5 年 福山 龍希	もの 夕日 α 弘 LL 町 GE 2017	般審査員賞
情報工学科 1 年 木原 百々香	もの 夕日 α 弘 LL 町四 2017	一般審査員賞
情報工学科 4 年 有木 美羽	税に関する高校生の作文	加措木説豊署長賞 モデル審査
情報工学科 4 年	町ロボコン 2017 九州南地区大会 (デベロッパー部門 プライマリ クラス)	Gold Model
情報工学科 4 年	町ロボコン 2017 九州南地区大会 (デベロッパー部門 プライマロ クラス)	Gold Model
電子制御工学科 5 年	第 25 回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	学生会講演奨励賞
機械・電子システム工学専攻 1 年 今村	第 70 回電気情報関係学会九州支部連合大会	連合大会講演奨励賞
機械工学科 5 年 福山 龍希	7th International Joint Sympo•ium on Engin.,ring Education	Best Presentation Award
電子制御工学科 5 年 徳田 拓海	7th International Joint Sympo•ium on Engin.,ring Education	Best Presentation Award
惜明 電子システム工学専攻 2 年	International Symposium on Innovative Engin.,ring 2018 (ISIE2018)	B田 P田: s即 TATION

学習奨励賞

	数学	1位	情報工学科 3 年	物理	1位
	数学	2位	情報工学科 3 年 原菌 純平	物理	2 位
	数学	5 位	都市環境デザイン工学科 3 年 竹ノ内 佑多 電子 制御工学科 3 年 横峯 智野	物理	3 位
前機械工学科 3 年	数学	4 位	電子制御工学科 3 年 竹崎 隼平	物理	4 位
	数学	5 位	情報工学科 3 年	物理	5 位
	数学	6 位	光太郎	物理	6 位
竹ノ内 電子制御工学科 3 年	数学	7 位	電子制御工学科 3 年	物理	7 位
英語部	数学	8 位	電子制御工学科 3 年 ティンチャ マイケル デ ス	物理	8 位
	数学	9 位	情報工学科 3 年	物理	9 位
	数学	10 位	菅字 龍平 3 年	物理	10 位

駐

路上における女性の批判

特別賞

惜四電子工学専攻2年	特別研究 E 研究進捗状況指表会 恒秀ボスタ 賞
電気情報システム工学専攻2年	特別研究E 研究進捗状況発表会 恒秀ボスタ 賞
建設工学専攻2年 山崎 寛登	特別研究E 研究進捗状況発表会 置秀ボスタ 賞
情報工学科5年	実用英語技能検定準 組合格 叩EiC スコア 905
都市環境秋葉原工学科5年	技術士第 建設部門 合格
都市環境土野イン工学科5年 智哉	技術士第 次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 上原 征也	技術士 建設部門 合格
都市環境加治イ工学科5年	技術士 建設部門 合格
都市環境ア平イン工学科5年 片 耀款	技術士第 在試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 坂元 大輔	技術士 建設部門 合格
都市環境道田イ工学科5年	技術士 建設部門 合格
都市環境関ノ龍之工学科5年	技術士第 次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 田代 修平	技術士 建設部門 合格
都市環境東村イ工学科5年	技術士第一 建設部門 (建設部門・)
都市環境デザイン工学科5年 桂木 大真	量術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境松元イン工学科5年 健人	技術士 建設部門 合格
都市環境米森イン工学科5年 裕太	技術士第 次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科4年 井坂 拓海	量補士 建設部門 合格
都市環境ア平イン工学科4年	技術士 建設部門 合格
都市環境徳永イン工学科4年 期一	技術士第 抗試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科4年 西原 琢斗	技術士 建設部門 合格
都市環境西原イ工学科4年	技術士 建設部門 合格
都市環境林所イン工学科4年 和也	技術士第 抗試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科4年 松元 慎吾	技術士 建設部門 合格
都市環境水田イ工学科4年	技術士 建設部門 合格
都市環境田中イ工学科4年	技術士第 在試験合格 (建設部門)
都市環境結城イン工学科4年 愛美	技術士 建設部門 合格
都市環境瀬川イ工学科4年	技術 (止 第水遠試験) 合格
都市環境上野イン工学科5年 太	技術士第 次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 大里 雅也	技術士 建設部門 合格
都市環境秋葉原イ工学科5年	技術士第 抗試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 中西 吾郎	量術士第 次試験合格 (建設部門)
都市環境 江戸イ工学科5年	技術士 建設部門 合格
都市環境原田イン工学科5年 太一	技術士第 抗試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 東 由香里	量補士 建設部門 合格
都市環境松本イ工学科5年	技術士 建設部門 合格
都市環境森重イ工学科5年	技術士第 抗試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科5年 山本 美宇	技術士 建設部門 合格
アイ知工学科5年 和田	技術士 建設部門 合格

濡れタオルを用いた加湿実験

寮務主事 野澤 宏大

1. はじめに

寮に空き部屋があると、いろいろ実験がしてみたくあります。気象用のデータロガーを複数持っている場合には、特にそうなります。などと考えるのは、私だけかもしれませんが……。およそ高専だよりに寮務主事が書く記事らしくありませんが、1年前にインフルエンザが流行した時期に行った加湿実験結果をお知らせします。

2. インフルエンザ対策としての加湿

一般にインフルエンザウイルスは、空気が乾燥すると活発となることが知られています。厚生労働省ホームページ内の「インフルエンザQ & A」の中でも、「インフルエンザにかからないためにはどうすればよいですか？」という質問への回答に、

適度な湿度の保持 空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、

インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことも効果的です。

とあります。しかし、寮の各部屋で加湿機を使用すると、消費電力の観点から問題が生じます（ブレーカーが落ちます）。一方で、電力を一切使わない加湿方法としては、濡れタオル干しがあります。効果がある（らしい）とは言われておりますが、具体的にどの程度なのでしょう？今回は、その効果を検証してみました。

3. 検証実験

検証実験は平成29年1月23日の18時から翌朝7時まで、第1志学寮1階北側の隣り合う2つの2人部屋（ともに空き部屋）で行いました。各部屋にはデータロガーを設置し、気温、湿度をそれぞれ10秒間隔で記録しています。ロガーを40分放置した後、18時40分に室温20℃設定でエアコン暖房の使用を開始しました。片方の部屋（以下部屋1）には、洗濯ロープを張っておき、19時に軽く絞った濡れタオル8枚を干しました。その際、タオルの表面積が、なるべく大きくなるようにしました。これ以降が、本当の検証実験となります。その後、より現実的な寮生活に近づけるため、21時30分ごろにエアコンを室温24℃設定（暖房の初期値）に変更しています。もう一方の部屋（以下部屋2）でも、濡れタオルを干す以外は、まったく同様の操作を行いました。

4. 結果

図には、18時から翌朝7時までの、湿度と室温の変化を示しています。それぞれ、実線が濡れタオルありの場合（部屋1）、破線が濡れタオルなしの場合（部屋2）

を表しています。実験開始から暖房運転開始（最初の縦破線）、濡れタオル設置（2つ目の縦破線）までは結果に有意な差が見られませんでした。この2つ目の縦破線を境に湿度・室温の変化が明確な差が確認できます。部屋2では、時間の経過とともに湿度は徐々に低下しています。一方、部屋1では、濡れタオルを干した直後から湿度が急激に増加し、21時頃に52%に達しました（同時時間帯の部屋2：31%）。室温を24℃設定に変更した（3つ目の縦破線）後も、部屋1の湿度は24時頃までは49%程度で安定しており、部屋2（湿度27%）との差は明らかです。24時以降は、部屋1の湿度も徐々に減少していき、午前7時の段階で31%となりました（部屋2は25%）。これは単純に、タオルが乾いてしまったからです。消灯時間（24時）頃に再びタオルを塗らしておけば、適切な湿度を朝まで維持できると考えられます。室温に関しては、19時頃までは両部屋ともほぼ同様の変化でしたが、濡れタオルを干した直後から、微妙な差が確認できます。部屋1の場合（実線）の方が、総じて室温が低くなっています。これはタオルの水分が水蒸気に変化する際の気化熱として、部屋の熱が利用されているためだと考えられます。

5. まとめ

今回の検証実験で、濡れタオルを干すことで確かに部屋を加湿できることが確認できました。面積の小さい個室はもちろんのこと、2人部屋でもお互いが協力してタオルを干せば、よりいっそうの加湿効果が期待できると思います。少々手間はかかりますが……。

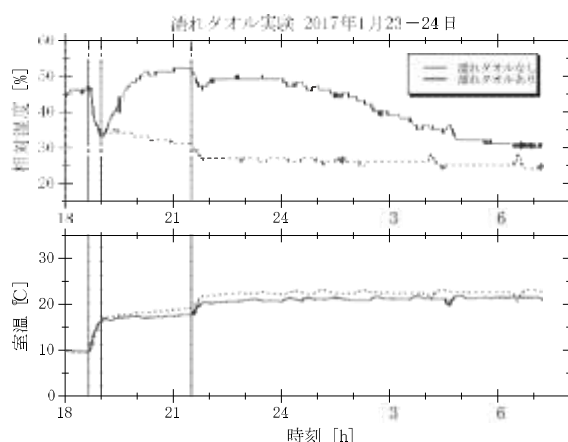


図 濡れタオル検証実験結果。上段：湿度、下段：室温。ともに、実線は部屋1（濡れタオルあり）、破線は部屋2（濡れタオルなし）の結果を表す。

寮長より

電気電子工学科4年 野嶽 大河

この1年間寮長を務めさせてもらった野嶽です。せっかくこのような形でたくさんの方に見てもらえる場をもらったので、いいことを書こうと思いました。しかし、思いつかなかったので書きたいことを書きます。

僕は寮長でもあります。4年間寮で過ごした寮生でもあります。この寮にはここに書ききれないほど色々な思い出があります。そんな寮もこの4年間でだいぶ変わったと感じます。雰囲気も変わりましたが、これは寮生活だけでなく学校生活でも感じられますね。4年間で寮の環境も、野澤先生をはじめとする寮務の方々のおかげでものすごく改善されたと感じます。女子寮のことは詳しくないので男子寮の例を一部あげると、新しい洗濯機・乾燥機の導入や自習室の椅子を新しい物と入れ替えなど、寮生にとってありがたいものばかりです。ここで寮長っぽく真面目な話をすると、これらの物を大切に使うてもらいたいです。寮務の方々はいつも寮生活を良いものにしようとしてくれています。しかし、これらのような改善にはお金がかかります。寮生アンケートなどでたくさんの要望が集まりますが、全部を叶えることは難しいです。そんな中、今あるものを粗末に扱い故障してしまうと、「修理費」という余計なお金を使うことになります。寮生の要望を叶えたくても叶えられない状況になってしまいます。

寮生1人1人が協力すれば、より良い寮生活になります。これを読んでいるのは後輩の寮生が多いと思います。寮生活はすごく良い思い出になります。僕自身この4年間の学生生活を振り返っても寮での思い出が多いです。そんな寮生活をより良いものにし、思いっきり楽しんでください！

学寮チュートリアルについて

寮務主事補 池田 昭大

学寮チュートリアルは、1～3年生の寮生を対象とした、専攻科生による個別学習指導です。中間、期末試験の試験時間割発表から、試験の前日まで、7日間程度の日程で、20:00～23:00の時間帯に実施しています。寮の多目的ホールに集まって勉強し、質問がある際はチューターである専攻科生に質問をするという形式です。

学寮チュートリアルでは、毎回、3～4名の専攻科生がチューターとして参加し、寮生の質問に回答しています。前回の後期中間前は、専攻科1年生の研究発表会の直前にも関わらず、チューターを引き受けてくれました。専攻科生の協力の下、滞りなく実施できています。

今年度すでに実施した、前期中間、前期末、後期中間前の学寮チュートリアルでは、全23日間に参加者が延べ921名と、大変多くの寮生の参加がありました。参加者人数詳細は、

参加者延べ人数 921名

・前期中間試験前（全8日間）

参加者 363名（1日平均 45.3名）

1年生 270名、2年生 63名、3年生 27名、4年生 3名

・前期末試験前（全9日間）

参加者 439名（1日平均 48.8名）

1年生 293名、2年生 97名、3年生 41名、4年生 8名

・後期中間試験前（全6日間）

参加者 119名（1日平均 19.8名）

1年生 57名、2年生 46名、3年生 10名、4年生 6名と なります。これまでの参加者延べ人数は非常に多いのですが、後期中間前の参加者は1日平均 19.8名と、前期の半分以上に減っています。後期から参加者が減ってしまう傾向は、これまでもあったようで、寒くなつてきて、自室から出るのが面倒になったのではないかと推察します。寒さに負けず、頑張ってもらいたいものです。また、学年別の参加者では、1年生の参加者が最も多く、積極的に参加しているようでした。4年生にも参加している寮生がいました。4年生以上の寮生の参加も、もちろん歓迎しています。

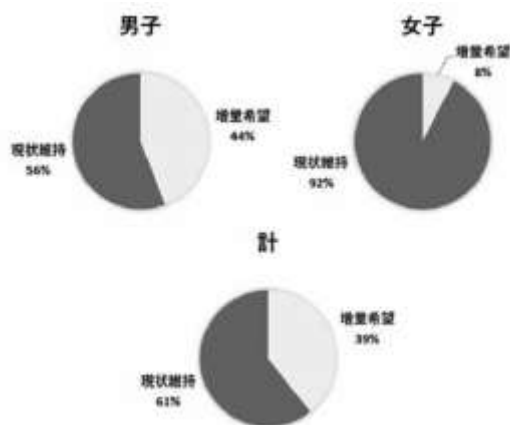
学寮チュートリアルへの参加は、わからない問題をすぐ人に質問する事ができるという点が最大のメリットですが、特に質問したい事が無い場合も、参加する意味はあると思います。寮の多目的ホールという、いつもと違う環境で、他の人が勉強をする姿を見ながら自分も勉強する事は、勉強の効率アップにつながるでしょう。私自身も、学寮チュートリアル時に、何度か多目的ホールに行き、参加者からの質問を待つ傍ら、自分の仕事（授業の練習問題作成や、研究関連の文章執筆）をしましたが、普段と違った環境での仕事は、効率がよかったように思います。自室での勉強になかなか集中できない寮生も是非参加してください。学寮チュートリアルという機会を有効に利用する等、寮での学習方法を上手く見つけ、勉強に励んでほしいと思います。

寮生の食事

寮務主事補 東 雄一

寮生の食事は、魚国総本社さんより1日3食が提供されています。私が本校に着任してから宿直のときに食べた検食（夕食）の感想は、「高校生くらいの食べ盛りの年頃の子供達は食事の量に満足しているのかな？」というものでした。自己研修時間内に寮の巡回をすると、多くの寮生がこぞって捕食室に集まりカップラーメンや袋麺などを食べている光景にも驚きました。授業の合間や卒研、部活のときに、学生に「寮の食事の量には満足している？」や「量を増やしてほしいと思っている？」といった質問を何気なくしてみると、「量が少ない」、「増やしてほしい」といった回答が8割、9割を占めていました。

今年度、寮務主事補を仰せつかったこともあり、寮の食事の量を改善できないかと思い寮生アンケートを行いました。本校の食費は全国的に見ても非常に安く、100円増額して量を増やすことに対するアンケートです。以下にそのアンケート結果を示します。結果は、事前に調査していた「8割、9割に増やしてほしい」といった結果とは裏腹に、6割の寮生が現状維持を希望する結果となりました。この結果を受けて、食事の増量は断念することになりました。



事前に調査していた結果とアンケート結果に大きな乖離があったことについては、恐らく、「増量にコストが掛かる」という考えが寮生になかったからではないかと考えています。また、夜食の代表格であるラーメンについては、「量は適量である」と答えた寮生においても夜食を食べている寮生が非常に多く興味深いものでした。恐らく、寮生にとって夜食のラーメンは別腹なのだと思います。アンケートの中で「朝食にバリエーションが欲しい」といった意見も多くありました。これについては、コスト増に頼らず、現状の費用のまま改善の余地があると思います。魚国さんへ要望しております。寮生が満足する食生活に少しずつ向かっていくことを期待しております。

「寮」と言う名のシェア住居

寮務主事補 岡松 道雄

寮は、建築基準法上「寄宿舎」に分類されます。一般の住宅や共同住宅とは区別され、廊下の幅や消防設備などの設置基準に違いがあります。最近多く聞くようになったシェアハウスが、住宅なのか寄宿舎なのか、法的には微妙に判断されますが、まず安全第一、ということを中心に議論されます。建築基準法以外にも、消防法や労働基準法などの法律が「寄宿舎」に対して判断基準を設けていて、多人数が集合して住む場合に、必要と思われる安全対策が求められます。それらは最低基準であり、寮という共同生活空間のありかた、といった本質的な議論をするものではありません。

法律から少し離れて、「寮」とはそもそも何なのか？ということについて、辞典を見ると、「僧侶が寄宿して勉強したところ」や「平安貴族が子弟のために設けた学寮（弘文院、勸学院など）」とあります。昔から、勉強のために集まって、共同生活をする施設であったことがわかります。日本に限らず、イギリスでは学寮をcollegium（コレギウム）と呼び、後にcollege（カレッジ）として、大学の重要な構成単位となったようです。collegiumはラテン語で、ローマ時代の結社や組合のことで、各種職業団体や青少年の体育団体など、多様な種類のコレギウムが存在し、利益共有よりは親睦と生活互助を目的としていた（小学館「日本大百科全書」）そうです。

去年から卒業研究のテーマのとして「シェア住居」を取り上げています。冒頭に書いたシェアハウスをはじめ、ゲストハウス・コーポラティブハウス・コレクティブハウス・ソーシャルアパートメントなど、居住者が共有できる部分を重視した住居を総じて「シェア住居」と呼ぶことにしました。いくつかの文献から、44事例を対象として、入居者の年齢や国籍、家賃や運営方法など、1920年以降現在までの傾向を調べてみました。まずわかったのは、時代とともにシェア住居の種類が増え、入居者自体やシェア空間の多様化が進んだことです。また、住居以外の機能を付加することによって、交流や情報交換を行なうなど、シェア住居に対するニーズが高度化していることもわかりました。

本校の学寮には、500名を超す学生が鹿児島中から、あるいは県外からも集まり、寮舎空間をシェアしています。寮をシェア住居の一種と考えた時、設計者としてはシェア空間を如何に充実させるか、という課題が気になります。機会があれば寮生の皆さんが、何をどのようにシェアしたいか、聞いてみたいと思います。それが、実は寮の「本質」を表すかもしれません。さらに言えば、既に多くの空間をシェア出来ていること自体が、とても有り難いことのように思うのです。シェアすべき大切な空間は何か、それは学寮（collegium）≒高専（college）そのものかもしれませんね！

新任の挨拶

学生寮指導員 上鶴 清統

本年7月1日付けで本校学生寮指導員を拝命致しました上鶴清統（かみづる きよつぐ）と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は昭和44年に国鉄に入社し、昭和63年の国鉄の民営分割化に伴い九州旅客鉄道㈱に移行し平成23年に退職するまで44年間勤務してきました。国鉄時代は主に車掌、駅での鉄道営業の業務が中心で九州旅客鉄道㈱に移行してからは、民営化によって新規参入した旅行業務、主に一般団体や修学旅行などの団体営業に従事してきました。鉄道の業界は列車を安全・正確に運行することを大前提に、国鉄には「ミニ社会がある」と言われるぐらい様々な職種があり、色々な特技を持った人もたくさんいましたし、生活面でも宿舎での家族ぐるみの付き合いや引っ越しの手伝いなど、結びつきの強い社会でした。また旅行業界は初めて経験する事業でしたから最初は異文化の世界にきたようなカルチャーショックもありました。鉄道営業の売り上げはすべてが収入になるのに対し、旅行業は仲介業であり収入の1～2割ほどが収入になるという理屈が最初は理解できずに、夜遅くまで数字合わせに苦労したのを懐かしく思い出しています。旅行業を経験して良かったことは、航空・バス・船会社などの交通関係や旅館・ホテルなどの宿泊関係、お土産・レストランなどの観光関係の方々、ひいては国内だけでなく国外の方々とのつながりもでき視野が広がったことと、海外添乗に行って外国から日本や自分を見ることが出来たことも大きな成果でした。

現在、学生寮指導員として宿直業務を行っています。多くの学生さんとお話する機会を持って、悩み事やこれまでの経験を生かしたアドバイスなどが出来ればいいなと思っていますが、まだその段階に至っていません。気長な気持ちで相談にのってあげたり、気ままに話し合える雰囲気づくりに努力していきたいと思います。

私の好きな言葉に「凡事徹底」という言葉があります。平凡なことを徹底して行うという意味です。平凡なこととはあいさつや清掃、片づけなどでしょうか。では、あいさつを例に考えてみますと、あいさつは朝起きてから「おはようございます」に始まり「こんにちは」、「こんばんは」や「ありがとうございます」、「すみません」など家庭や社会の中でごく自然に使われコミュニケーションを図るうえでの大事な手段のひとつですが、西欧米化による個人主義の高まりやゲーム機器、携帯電話などの出現により、コミュニケーションの図り方が大きく変わってきています。言葉を発しなくてもあいさつを交わさなくても済む時代になってきました。よく利便さはリスクと背中合わせといわれますが、端末を開くとあら

ゆる情報が瞬時に取得できる便利な時代ですが、人同志のコミュニケーションの希薄化がリスクだと思います。このリスクを少しでも和らげるのが言葉であり、特にあいさつではないでしょうか。寮の食堂で食事が終わって食器類を返却する際に大きな声で「ありがとうございます」と言ってお帰る体育クラブの学生さんが数名いらっしゃいますが、実にすがすがしいですね。寮全体が、いや学校全体でこういう風景がたくさん見られるようにしたいものですね。

私の好きな言葉に「凡事徹底」を書きましたが、平凡なことでも徹底することは生易しいことではありませんが、人に会ったらあいさつや会釈をする、チリが落ちていたら拾う、片づけをするといった行いは、労力や時間のかかるものでもなく、難しいことでもありません。心掛け次第だと思います。心がけ次第では忘れ物や落とし物も減らしていけると思います。

私も「凡事徹底」の精神を心に刻み、あいさつを中心に据えて率先して行動し明るい校風と人格形成の一助になれるように頑張りますので、ご協力をお願い致します。

就任のご挨拶

学生寮指導員 竹内 基起

平成 29 年 4 月 6 日付けで、非常勤の学生寮指導員として採用された竹内基起（たけうち もとおき）と申します。出身はいちき串木野市で、現在は隼人町見次に住んでいます。高専までは、車で約 5 分で通勤できるため、心身共に助かっています。以前は学校事務に携わっており、小学校・高校・教育事務所を回り、教育の裏方として児童・生徒のために 37 年間勤務していました。定年退職後、再就職を考えていたところに高専の募集があり、同じ教育関係なら仕事ができると思い応募した次第です。採用していただき、心より感謝しています。以下、37 年間の振り返り、特に心に残る 2 人と学生寮 勤務の感想について述べ、就任の挨拶といたします。

最初に脳裏に浮かぶ人は、大学時代の恩師である H 教授です。ゼミの内容は厳しいもので、90 分間のゼミはまるで針のむしろのようでした。質問に対する返答の一言一句に、神経を使った事が思い出されます。また、私は教職単位を 1 教科落としてしまい、教育実習が受けられませんでした。先生はそんな私のために奔走され、教授会や担当教授に具申してくださったそうです。結果的には認められませんでした、一学生のためにここまでして頂いた事は、生涯忘れません。卒業の際、H 教授からは「社会に出てからも深く研究分析するように」という言葉を頂きました。また、卒業後の受講を認めていただき、おかげで卒業後に教員免許状を頂くことができました。今思えば、H 教授に感謝するのみです。もう 1 人は、7 年前に他界した私の叔父（父の弟）を紹介します。彼は水産高校を卒業後、広島県庁に採用され、長く牡蠣養殖場の主任をしていました。囲碁が得意で呉の本因坊までなり、かつて広島県知事に乞われ、知事公舎で 7 年間囲碁を教えたこともありました。県庁退職後は日赤病院（原爆病院）の経営に携わり、病院建屋の全面改築を行いました。今ではホテルのような立派な病院ができていますので、機会があればご覧ください。昨年オバマ大統領が来広され、原爆ドームで献花されたことは記憶に新しいことと思います。一時、広島県では原爆ドームの取り壊しを検討したことがあるそうです。その時の担当者が叔父で、議論の末やはり残すべきだという結論に達しました。

最後に現在の学生寮の仕事についてですが、寮生会の組織がしっかりしていて本当に助かっています。学生さんは、途中で会っても挨拶をしてくれるのでうれしく思っています。これからも、高専の先生方・事務の方々・学生さん、どうか宜しくお願い致します。

新任のご挨拶

学生寮指導員 若松 幸男

平成 29 年 7 月 1 日付で学生課寮務係学生寮指導員（非常勤）として採用されました若松幸男（わかまつ ゆきお）と申します。この職場に採用される以前は、宮崎県の都城児童相談所に非常勤で 7 年間、子供指導員として子供（0 才～ 18 才）達の一般的な日常生活に関する相談等、子供を指導する内容の業務に携わってまいりました。私の生まれは宮崎県都城市ですが、34 年間東京の郵便局に勤務しておりました。東京での生活が長かったせいか、鹿児島県は隣の県でありながら、あまり詳しく知りませんでした。これを機会に色々な知識を深めたいと思っています。

月日の経つのは早いもので、高専に採用されて 3 ヶ月が経過しました。実際学生さんの寮生活についてお役に立てているか少し不安な気持ちになることもあります。学生課寮務係の方の親切な指導のおかげでなんとか勤務できております。これからは、さらに学生さんとも積極的にコミュニケーションを高め、学生の皆さんがより楽しい学生生活が出来るように、微力ではありますが頑張りますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく願ひいたします。



専攻科の年間計画について

専攻科長 山内 正仁

本校の専攻科は、平成 12 年 4 月に設置されました。専攻科修了者には『学士』の称号が与えられ、大卒と同等の資格を有することになります。本校には、機械工学科、電子制御工学科を対象にした機械・電子システム工学専攻(8名)、電気電子工学科、情報工学科を対象にした電気情報システム工学専攻(8名)、都市環境デザイン工学科を対象にした建設工学専攻(4名)の3専攻があります。専攻科の定員は本科定員(200名)の1割(20名)であります。専攻科では、本科5年間の課程で身につけた基礎学力、技術者の基盤となる専門能力をさらに高めていく学習と、その知識を他分野の知識と融合させて、研究を通じた、多角的な問題解決能力を高めるための学習が行われております。今年度は、1年生31名、2年生21名 計52名が在籍しています。

専攻科は、平成 26 年度に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科の認定を受けました。これにより従来、大学改革支援・学位授与機構所属の大学教員等が実施していた特別研究論文の審査を、大学改革支援・学位授与機構に認められた学内教員(特別研究指導教員)で審査し、その評価結果を大学改革支援・学位授与機構に報告することで「学位」が授与されることになりました。しかしながら、この特別研究論文を審査・評価できる教員は、大学改革支援・学位授与機構が各教員の研究論文数およびその研究内容を審査し、「適」と認められた教員だけに限られることになりました。現在、専門分野の教員は47名おり、この内、特別研究指導教員が可能な准教授以上の教員は22名(68.8%(22名/32名))であります。全教員が本資格を有していないことから、学生が選択できる研究分野(専門分野)を狭めていることになっております。専攻科としては、この状況を一日でも早く打開するために、教員に対する研究支援も行っている状況です。

専攻科では、2年間の研究スケジュールを作成し、「学士」を得るに値する論文に仕上げるため、指導教員と研究テーマや内容について綿密に打ち合わせを行い、時には外部専門家の指導も仰ぎながら、より精度の高い研究内容となるように実験や分析、その他の必要な活動・取り組みを行います。

専攻科1年生の主な取り組みは以下の通りです。

① 特別研究の1000字概要の提出と研究概要説明会(プロポーザルディフェンス)の実施(4～6月)

まず専攻科1年生は特別研究の内容をA4用紙1枚にまとめ、指導教員および専攻科長へ提出します。その後、特別研究の主査(指導教員)、副査教員の前でパワーポイント等を用いて、研究内容、研究計画について説明し、

意見交換を行い、研究内容を具体化し、年間スケジュールを作成していきます。時には大学教員も参加し、専門的助言を与えることもあります。研究概要説明会終了後は主査の教員が報告書をまとめ、専攻科長に提出することになっています。

② インターンシップへの参加(8月～9月、3月)と報告会開催(10月～12月上旬) 夏季休業、春季休業期間を利用して国内外の企業、大

学、研究所等でインターンシップが行われています。参加学生は10月～12月上旬にかけて専攻ごとに行われる報告会で成果を報告し、受入機関の評価、報告書及びプレゼンテーション内容から専門科目の単位(2週間:2単位、4週間:4単位)を取得することが可能となっています。なお、IHIプラント建設(株)(IPC)のご厚意により、28年度から実施している海外インターンシップ(マレーシア、シンガポール)の報告会については、別途発表会を開催しています。

③ ポスターを用いた研究進捗状況発表会(11月下旬～12月上旬) 各自の研究内容について、専門以外の学生、教職員に

もわかるようにパワーポイントを用いて、2～3分間、ショートプレゼンを行い、その後、ポスターによる討議を行っています。また、参加教員の投票で優秀ポスター発表賞を決定し、表彰しています。今年度は、11月29日(水)に開催し、以下の3名を表彰しました。

AMS 二渡一昇 君、AMS 岡元友佑 君、AEI 田原孝輔 君

④ 特別研究Ⅰ研究発表会の開催(2月下旬)

学生は研究内容をもとに2ページの研究概要を作成し、専攻科長に提出します。その後、各専攻で開催される特別研究Ⅰ研究発表会で研究内容を10分程度口頭発表し、専門教員との質疑応答が行われます。

つぎに、専攻科2年生の主な取り組みを示します。

① ポスターを用いた研究進捗状況発表会(5月～6月上旬)

専攻科2年生についても、ポスターを用いた研究進捗状況発表会を開催しております。今年度は、5月10日(水)に2nd ISEED(本校主催の国際会議)の中で特別研究Ⅱ進捗状況発表会を実施しました。今回は初の試みとして、英語による2分間のショートプレゼンと、60分間のポスター発表会を行いました。事前準備として、AEIの逆瀬川専攻科長が英語でのショートプレゼン資料作成に関する指導も行いました。

なお、本国際会議に参加された大学教員等の投票で優秀ポスター発表賞を決定し、2nd ISEEDの閉会式で以下の3名を表彰しました。

AMS 天磨 智 君、AEI 上村泰広 君、ACC 山崎寛登 君

② 学修総まとめ履修計画書の作成・提出(9月～10月上旬)

2年生は10月上旬までに、特別研究Ⅱの研究計画(学修総まとめ履修計画書)を、大学改革支援・学位授与機

構に提出します。平成 26 年度まではこの時期に 10 ～ 17 頁の学修成果レポート（論文）を大学改革支援・学位授与機構に提出し、その後、12 月中旬に学位授与機構が実施する小論文試験を学外（福岡市（現在は大阪市））で受験しなければなりません。

③研究論文、学修総まとめ科目（特別研究Ⅱ）の成果の要旨等の作成（12 月～2 月上旬） 専攻科で実施した研究の成果を論文形式で（6 ～ 10 枚

程度）まとめ、1 月中旬までに指導教員（主査）および専攻長に提出します。その後、各専攻の副査教員や学外の大学教員等に論文の査読をしてもらい、その査読結果をもとに、論文の修正を 1 月下旬までに行います。また、学位授与機構に提出する「成果の要旨（A4 要旨 2 枚）」についても 1 月下旬に提出し、指導教員（主査）の指導を受けます。

④特別研究Ⅱ研究発表会（学位審査会）（2 月上旬）

専攻科で実施してきた研究内容を、パワーポイントを用いて 15 分程度発表します。その後、研究内容について質疑応答を 10 分程度行い、特別研究Ⅱの取り組みを評価します。また質疑での意見、コメント等を参考に研究論文や成果の要旨を修正します。

⑤学修総まとめ科目（特別研究Ⅱ）の成果の要旨の提出（2 月中旬）

修正された「成果の要旨」と学内での特別研究審査会での報告書（審査結果）を学事授与機構に郵送し、学位申請を行います。その後、学位「工学士」が授与されます。

以上のように、専攻科では、平成 27 年度に特例適用専攻科をスタートさせたことを機に学生の研究の取り組みを充実させるための年間計画を作成し、指導にあたっています。この成果として、専攻科の修了要件の一つである学会での研究発表会において、表彰される学生も増えています。時には全国規模の学会で大学生、大学院生に混じり表彰されている学生もいます。さらに教員との共著ではありますが、審査付き論文に投稿する学生も増えています。このことは、学生のスキルアップに繋がっています。このような学生の学外研究発表会や論文投稿にかかる費用は、競争的資金等の外部資金の獲得ができている教員の研究室においては、学生の研究活動経費を教員が全額賄っておりますが、未だ潤沢に資金があるとはいえない状況ですので、後援会や同窓会への更なるご協力をお願いしたいと考えております。 専攻科では、多様な経験を通して問題解決能力を養い、創造力を備えた開発型技術者の育成を目指しております。是非、本科のみなさんも専攻科への進学を検討してもらいたいと思います。

海外インターンシップを終えて

機械・電子システム工学専攻 1 年 後藤 巧志

私はこの夏、タイで水処理事業を行っている MK WATERTECH さんのもとでインターンシップを行い、海外での生活を通して貴重な経験を得ることができました。海外インターンシップに参加した理由はいくつもありますが、外国での就業を経験してみたかったことが大きな動機です。実際に行った業務は、社員さんの営業活動やメンテナンス作業に同行することがほとんどで、ビジネスを間近で拝見することができ勉強になることばかりでした。多くの企業を訪問するなかでときには緊張する場面もありましたが、非常に良い経験を積むことができたかと思います。

一ヶ月間現地で研修を行いました。タイの方々は温厚で優しく、また食事もおいしいため過ごしやすい環境であったかと思います。このインターンシップに参加してなにより良かったと思うことは、就労経験はもちろんですが、多くの方々と出会うことができ、また沢山のお話を聞くことができたことだと感じています。一ヶ月という短い期間ではありましたが、タイの方々と接するなかで異文化に触れ、また現地で働く日本人の方々と会話をするなかで様々な考え方や生き方を知ることができ、自身にとって良い刺激を受けることができたと感じています。これらの経験を通して、ただ日本に留まっているだけではつまらなく、日本のみならず海外で活躍できる人物を目指したいとこれまで以上に思うようになりました。また、将来海外に進出して挑戦したいことを見つめることができ、MK WATERTECH さんのもとでインターンシップを行うことができて本当に良かったと感じています。

研修の最後に MK WATERTECH さんの社長である斎藤さんから「人と人との出会いを大切に」という言葉を贈っていただきましたが、まさに今回の研修で得た様々な出会いが今後の人生を大きく変えたように感じています。人生は一度きりのものですので、与えられたチャンスを最大限に生かして、いろいろなことを経験して過ごしていきたいと考えています。私はこの研修を通してこれまでの価値観が変わり、これからの糧となるものを得たように思います。この夏に得た成果、成長、経験、発見そして出会いを大切に、今後も更なる挑戦をしていきたいと思っています。

IPC インターンシップについて

電気情報システム工学専攻1年 藤代 大基

私は、今回 IPC 海外インターンシップで、シンガポールとマレーシアにて電力プラントにおける設計 / 施工について様々な研修を受け、実際に現場を見学しました。そこで私は、グローバルに活躍する技術者とは何なのか、また、プラント建設の最前線で活躍する技術者はどのような事に気を付けているか、自分の英語力はどこまで通用するのか、以上3つを掲げて、本インターンシップに臨みました。

シンガポールでは、JEL というプラント建設の設計 / 施工を行っている会社で、研修と見学を行いました。研修内容としては、プラント建設の過程を追いながら、どのような業務を行っているかについて、講義を受けさせて頂きました。マレーシアでは、火力発電所の建設現場で、技術者の方と一緒に業務の見学などをさせて頂きました。

基本的に、英語でのやり取りになるので、分からない単語が出てくる度に、講義を行う方に質問して、簡単な形に直して説明して頂いたりして理解に努めました。

研修を受けて行くにつれて、気づいた事があります。それは、専門的な話をされている時に発表の資料を見てみると、それがどのような図か概観で判断出来る事がありました。これは、学校での講義で受けたことのある図や数式であり、自分の知っている知識だという事に気づきました。それ以降、聞き取れる単語や雰囲気でのどのような事を言っているか考えながら聞くように心がけました。

電力プラントの建設現場では様々な国の方々が、働いていました。私が見学に訪れた時、中国の伝統行事である「ハングリーゴースト」と言うイベントを現場の方々全員で行っていました。様々な国の方々が、他の国の方を尊重し合って同じ現場で働く仲間のような一体感を感しました。



写真（講義の様子）

本インターンシップを通しての感想として、自分の英語力の無さを痛感しました。また、一緒に仕事を行う方々を尊重し、理解し合う事が重要であり、コミュニケーションを多く行う事によって現場の状況、進捗状況など多面的に視野を持って行動する事が技術者に求められると認識しました。

インターンシップ経験談

建設工学専攻1年 吉永 慎之介

専攻科1年の夏休み、私は2週間、民間企業のインターンシップに参加しました。インターンシップとは学生が一定期間、企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度です。

夏休みの2週間も使うなんて勿体無いと思う方もいるかもしれませんが、しかし、個人的意見としては、インターンシップは絶対に参加することをお勧めします。なぜこれほど勧めるかインターンシップにおけるメリットを紹介していきます。

まず1番のメリットは自分の行きたい会社がどのような仕事をしているのか経験できるということです。入社してから思っていたのと違ったという話はよく聞きます。そうならないためにもまず、行きたい会社が具体的にどのようなことをしているか知る必要があります。2つ目は外部実習になり単位として認定されることです。会社の仕事を経験できた、単位も出るとなると行かない以外考えられません。

3つ目として学校の座学で習っていることが、会社でどのように活かせるか知れることです。普段している勉強はどこで役に立つのだろうと思っていたのですが、会社では座学で習うことが色々なところで生かされていました。それによりもっと知識をつけようと学業のモチベーションアップにも繋がりました。

デメリットは時間を使うということですが、インターンシップには夏休み中の2週間以上の価値があります。インターンシップに参加しようか迷っている方、行くと行かないとでは人生が大きく変わって来るのではないかと私は思います。ぜひ、参加してみたいかがでしようか。

平成 29 年度の地域共同 テク ノセンターの活動について

地域共同テクノセンター長 宮田 千加良

今年度の地域共同テクノセンターは、センター長の宮田と、副センター長の新田教授、マネージャーの楠原特任教授、各科から選出されたテクノセンター委員、そして企画係とで運営しております。主な活動は、COC+ 事業、KTC 関連事業になります。

COC+ 事業は、平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」に採択された「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラムを、鹿児島大学を中心とする鹿児島県内 8 大学・高専及び地方公共団体・企業等が連携し、地域が一体となって、雇用創出や地元就職率の向上に取り組む事を目的としています。

鹿児島高専では「COC+ 高専」地方創生推進会議を組織し、連携協定を締結している霧島市・日置市、両市商工団体、地域企業団体の代表者と連携を取りながら、大学等合同企業説明会、地方創生特別講義、地域企業見学等の事業を推進しています。今年度も昨年度同様、企業による特別講義、霧島市・日置市職員による特別講義を行っています。

特に今年度は、両市職員による特別講義の後、OB・OG の事例発表を組み込みました。学生により地元企業を身近に感じ、関心を持ってもらえれば、と考えています。COC+ 事業全体での取り組みとして、インターンシップの推進の他、地元企業よかとこ発見バスツアーを夏季休暇時期に 5 コース設定しました。本校は始良・伊佐地区のコースを担当し、地元企業 2 社を訪問しました。また、9 月 8 日に「食と観光で鹿児島の魅力を探る」と題した COC+ 公開講座を鹿児島大学で開講しました。主催の県内 8 大学・高専から講師を派遣し、本校からは内田一平准教授が講師となって講義を行いました。

KTC（鹿児島高専テクノクラブ）では、KTC 技術研修会、保護者向け企業説明会、ミニ企業説明会の他、初めての取り組みとして、人事担当者求人・就職説明会を実施しました。

KTC 技術研修会では、富山高専イノベーションセンター長・鹿児島市副市長による講演、女性の活躍に関するディスカッション、KTC 企業のパネル展示などを行いました。平成 30 年 3 月が創立 20 周年となりますことから、現在、KTC 創立 20 周年の記念行事について検討しているところです。

また KTC3 役と学生の地元定着を図るため、インターンシップや企業説明会などの取り組みについて、議論検討してきております。

今年度（平成 29 年度）の行事等の活動（予定を含む）

の主なものについて報告します。今後とも地域共同テクノセンターの活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成 29 年度の主な活動内容

- ①第 1 回地域共同テクノセンター会議開催
（本校地域共同テクノセンター）4 月 11 日
- ②第 1 回 COC+ 事業協働機関連絡会出席
（鹿児島大学）4 月 24 日
- ③第 1 回地域共同テクノセンター運営委員会開催
（本校地域共同テクノセンター）5 月 16 日
- ④第 1 回 COC+ 公開ワーキンググループ出席
（鹿児島大学）5 月 22 日
- ⑤第 1 回鹿児島高専テクノクラブ（KTC）役員会・総会・技術研修会開催
（本校地域共同テクノセンター・会議室）5 月 23 日
- ⑥保護者向け校内合同企業セミナー開催
（本校第 2 体育館）5 月 28 日
- ⑦COC+ 推進フォーラム 2017 出席（鹿児島大学）6 月 5 日
- ⑧第 1 回「COC+ 高専」地方創生推進会議開催
（本校会議室）6 月 9 日
- ⑨鹿児島高専テクノクラブ会員人事担当者求人・就職説明会開催（本校合併教室）6 月 29 日
- ⑩第 1 回鹿児島高専テクノクラブ 3 役会議開催
（本校地域共同テクノセンター）6 月 29 日
- ⑪第 6 回かごしま小水力発電セミナー開催
（かごしま県民交流センター）7 月 1 日
- ⑫ミニ企業説明会開催（本校大講義室）7 月 10 日
- ⑬第 2 回地域共同テクノセンター会議開催
（本校地域共同テクノセンター）8 月 1 日
- ⑭地域産業高度化産学官連携協議会出席
（鹿児島県庁）8 月 10 日
- ⑮地域産業高度化産学官連携協議会「課題設定会議（第 4 回）」出席（鹿児島大学）7 月 20 日
- ⑯第 2 回鹿児島高専テクノクラブ 3 役会議開催
（本校地域共同テクノセンター）8 月 28 日
- ⑰第 2 回 COC+ 事業協働機関連絡会出席
（鹿児島大学）8 月 30 日
- ⑱KTC 第 2 回役員会・技術研修会「地域連携産学官フォーラム in2017」開催
（霧島市国分シビックセンター）9 月 1 日
- ⑲COC+ 事業地元企業よかとこ発見バスツアー（始良・伊佐コース）担当 9 月 6 日
- ⑳COC+ 公開講座 2017 参加（鹿児島大学）9 月 8 日
- ㉑第 1 回 COC+ 教育プログラム開発委員会出席
（鹿児島大学）9 月 13 日
- ㉒鹿児島高専テクノクラブ研究施設見学会&教職員見学会（JAXA 内之浦宇宙空間観測所及び船岡小水力発電所）9 月 12 日

- ②③再生可能エネルギーセミナー開催
(かごしま県民交流センター) 9月15日
- ②④第2回「COC+ 高専」地方創生推進会議開催
(本校会議室) 9月20日
- ②⑤水素・再生可能エネルギーフェア 2017 出展
(かごしま県民交流センター) 10月20, 21日
- ②⑥第2回 COC+ 支援キーパーソン会議出席
(鹿児島大学) 11月10日
- ②⑦第3回鹿児島高専テクノクラブ3役会議開催
(本校地域共同テクノセンター) 11月14日
- ②⑧第4回鹿児島高専テクノクラブ3役会議開催
(本校地域共同テクノセンター) 11月28日
- ②⑨第5ブロック研究・産学連携・地域連携合同会議 出席
(有明高専) 11月30、12月1日
- ③⑩第3回「COC+ 高専」地方創生推進会議開催
(本校会議室) 12月12日
- ③⑪産業支援コーディネーター会議出席
(鹿児島大学) 12月21日
- ③⑫情報工学科卒業研究発表会(霧島市民会館)
2月22日
- ③⑬KTC 会長賞審査会開催
(本校地域共同テクノセンター予定) 日程未定
- ③⑭KTC 第3回技術研修会開催
(本校大講義室予定) 3月2日
- ③⑮第4回「COC+ 高専」地方創生推進会議開催
(本校会議室) 日程未定
- ③⑯KTC 会長賞授与式(本校体育館) 3月16日

地域への就職に向けた活動

副センター長 新田 敦司

テクノセンターでは「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の活動及び本校独自の活動によって、地元の魅力、地元企業の魅力・職務内容を知り、学生が地元企業(産業)に興味を持つことで、地元定着を目指しています。本年度の主な活動内容を紹介します。

(1)霧島市主催の「大学生等就活応援! 合同企業説明会」
(4/19)

国分シビックセンターにおいて霧島市内企業(30社)が参加し、説明会が行われました。本校からは4年生167名が参加し、地元企業への理解を深めました。

(2) 保護者向け企業説明会(5/28)

KTC 会員企業(21社)が参加し、保護者向けの説明会を第二体育館において実施しました。当日は保護者懇談会実施日であり、保護者128名、学生11名の参加があ

りました。地元企業を知ってもらう良い機会となりました。

(3) 日置市企画の「企業の魅力説明会」(6/28) 日置市内企業が高校等の就職指導担当教員等に地元企業をPRする取組として実施されています。本校教員が2名参加し、企業人事担当者と面談し、本校への求人を要請しました。

(4) 県内企業人事担当者求人・就職説明会を開催(6/29) 県内企業人事担当者(26社27名)に鹿児島高専の就職指導法について、鹿児島高専の過去の就職実績について、KTC 会員企業への就職促進について等の説明及びOBによる地元就職事例発表を行いました。本説明会は初の取組みであったが、大変好評でした。

(5) ミニ企業説明会(7/10)

6月末時点での未内定者を対象に、本校大講義室においてミニ企業説明会(地元企業16社学生17名参加)を開催しました。本説明会により数名が参加企業に就職しました。

(6) 地元企業よかとこ発見バスツアーの実施(9/6) 地元企業よかとこ発見バスツアーの始良・伊佐地区を本校が担当し、(株)ユピテル鹿児島、(株)トヨタ車体研究所、(株)九州タブチの工場見学を行いました。参加者は県内大学等の学生19名と教職員4名でした。「首都圏の企業の訪問をしたが、県内企業にも目を向けるきっかけになった」、「受験を検討したい」など、前向きな内容の感想が多かったです。

(7) 本校学生に対し地域企業の理解を深めるための特別講義・講演、企業(工場)見学を実施または実施する予定です(COC+ 事業)。

・8/7~8/9において特別講義を実施しました(株) Misumi、(株)南光、(株)南日本情報処理センター、(株)栄電社、(株)大進)。後期も各学科において特別講義を実施する予定です。

・地方創生特別講義とOB・OGによる事例発表 自治体の専門職員の地方創生に関する特別講義を通

じて、地方創生事業について理解することを目的としています。また、地方創生に関する講義と地元企業に就職したOB・OGの就業事例発表により、学生が地元企業

(産業)に興味を持つことで、地元定着を目指しています。本年度も12月~2月に各学科において、順次実施予定です。

(9)平成30年度学生向け霧島市・日置市大学等合同企業研究会(仮称)

平成30年1月23日(火)に(主催:霧島市・日置市、共催:高専、第一工大、その他の機関)本校体育館で合同企業説明会を実施予定です。

以上のようにテクノセンターでは学生の皆さんに地元企業の紹介をしています。これらの機会を通じて地元企業をもっと知ってもらいたいと思います。



5/28 保護者向け企業説明会 風景



7/10 ミニ企業説明会 風景



地方創生特別講義と OB・OG による事例発表

COC+関係

テクノセンターマネージャー（特任教授） 楠原 良人

(1) 「COC+ 高専」地方創生推進会議 本会議は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）事業の一環で行っている会議です。鹿児島高専が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとっ

て魅力ある就職先の創出や地域が求める人材を養成するために必要な教育の取組みを支援する組織で、霧島市、日置市及び両市商工団体、鹿児島高専テクノクラブ会員、九州経済研究所、鹿児島高専から委員 13 名を選出して実施しているもので、年 4 回開催しています。

第 1 回を 6 月 9 日、第 2 回を 9 月 20 日、第 3 回を 12 月 12 日に行い、主として①地方創生特別講義と OB・OG 事例発表会のすすめ方について、②求人・就職・インターンシップ閲覧・登録アクセスシステムについて議論しています。

(2) かがしまCOC+公開講座 2017

本公開講座は、COC+ 事業協働の 8 校による公開講座で、「食と観光」を主要テーマに、地域人材を育成する一環とし、9 月 8 日に実施しました。講座では、様々な大学等で学ぶ学生たちが、COC+ 参画校による地域課題の解決と人材育成のユニークな取り組み事例を聴講した後、ワークショップを経験し、地域マインド、地域貢献意欲を高め、地域において自己を活かす手がかりをつかんで貰うことを目的に行われました。本校からは、大竹孝明教授と都市環境デザイン工学科内田一平准教授に講義とワークショップを担当頂きました。本校からは、学生 5 名が参加し、地域マインドの講義を聴く有意義な時間となりました。

(3) COC+ 事業協働機関連絡会

年 3 回の県内 8 大学等 COC+ 事業の進め方について議論する会議で、主として、COC+ 事業の計画、実施、進捗、結果について討論し、協働事業の取り組みについて議論しました。第 1 回を 4 月 24 日に開催し、1) COC+ 事業推進フォーラム 2017（仮称）について、2) 企業見学バスツアーについてその日程、進め方について議論しました。第 2 回目は 8 月 30 日に 1) 地元就職率向上に向けた取組みについて、KPI 値と実行状態の評価などを議論しています。

(4) COC+ 支援キーパーソン会議 本会議は、今年度の事業の実施状況を踏まえて、次年

度 COC+ 事業の取組みについて議論し、COC+ 推進フォーラムと COC+ 地元企業よかとこ発見バスツアー及び COC+ 公開講座の内容と実施方法について議論しています。



「COC+ 高専」地方創生推進会議 風景

KTC活動の紹介

地域共同テクノセンター長 宮田 千加良

KTC は、南九州地域の有志企業が、地域との連携強化を学校の理念の一つに掲げている本校と相図って設立した産学官交流組織「鹿児島高専テクノクラブ」の略称です。現在 86 社（2 月現在）の会員企業と 16 の公的機関が特別会員として加入しており、年 3 回開催の技術研修会や、KTC 企業へのインターンシップや就職、共同研究の推進等に取り組んでいます。

第 1 回 KTC 技術研修会は、5 月 23 日、本校大会議室にて開催されました。袋布昌幹氏（富山高専イノベーションセンター長）が、「富山高専における産学官連携の現状と課題～とやまの産業，地域の高専～」と題して、産学連携組織「富山高専技術振興会」と連携し、インターンシップ、卒業生の受け入れ、共同研究、等を推進し、地域創生に貢献していることが報告されました。

第 2 回 KTC 技術研修会は、9 月 1 日、霧島市国分シビックセンターにて開催されました。鹿児島県副知事小林洋子氏が「男女共同参画が切り拓く未来と地域活性化」と題して、県の取り組みなど講演されました。その後、KTC 会員企業女性活躍事例発表&討論が行われました。事例発表では、㈱九州タブチの日高美緒子氏が「当社の企業風土改革～両立支援・女性活躍推進定着に向けて～」と題して、㈱トヨタ車体研究所の川野いづみ氏が「女性活躍推進取組について」と題して、今までの取り組みについて発表された後、本校企画係の徳田眞澄室長が司会進行として女性活躍に対する討論会を進めました。今までにない取り組みで、今後の企業の在り方としても参考になったのではないかと思います。

KTC 企業との共同研究は、今年度は下記 4 件が行われています。また共同研究への学生の参加の推進のため、卒業・終了時に卒業研究、特別研究に対する KTC 会長賞を授与しております。

- ・油空圧パネル標準化における省エネ設計の研究
- ・工作機械の最適設計に関する研究
- ・視覚障害者の生活を支援するシステムの研究開発
- ・クレーム分析 AI エンジン開発に関する研究

平成 30 年 3 月には創立 20 周年を迎えます。学生のためになる取り組み、企業のためになる取り組みなど、新たな取り組みなども検討していくことになると思います。

今後とも KTC をよろしくお願いいたします。



第 1 回 KTC 総会



第 1 回 KTC 技術研修会 講師：富山高専 袋布 昌幹氏



第 2 回 KTC 技術研修会 講師：鹿児島県副知事 小林 洋子氏



第 2 回 KTC 技術研修会 パネルディスカッション

学生相談を利用してみませんか

学生何でも相談室 室屋 光宏

こんにちは。今年度より学生何でも相談室長を務めることになりました電子制御工学科の室屋です。相談室の業務にはこれまで全く関わったことはなく、未だに試行錯誤の状態ですが、保健室の看護師さんのサポートや歴任者の皆様からのご助言を頂きながら何とか取り組んできております。

さて、相談室ではこころの問題への関わりが大きな割合を占めます。学生みなさんは、学習や進路の問題から人間関係など様々な悩みと日々直面しているものと思います。特に近年社会問題として取り上げられることの多い SNS によりその機会はいつそう増え、さらにはより複雑にそして深いものになり、ストレスとしてため込んでいるものと思われます。このようなストレスは、体調にも影響を及ぼし学校や日常生活にも支障をきたすこともあります。

ストレス無く過ごすことは理想ですが、そういうことは難しく、上手に付き合っていくことが大事になります。そのためには、まずストレスについて知り、自分のストレスに気づき、そして対処法を習得することが必要です。こころと体は関連が深いので、対処法の1つとしてある種の運動が効果的のようです。例えば、椅子に座って力を入れて肩を上げ、力を抜いて肩を下げるという簡単な運動があります。これにより、力の抜けたリラックスした状態を感じることができそうです。非常に簡単なことですが、実践して効果を実感できるようであれば、日常生活の中に取り込んでいただきたいと思います。

ただ、どうしてもこれでは解消できないものも多いかと思います。その場合は、やはりこころの内にため込まず人に話すことが良いとされています。ご存じのように相談室では、毎月カウンセリングや学生相談の日程を提示しています。身近に相談できる方がいない場合は、是非これを活用してください。相談日は本校の教員が対応していますので、進路に関する相談にも対応してもらえます。一方、カウンセリングは学外の専門家に対応していただいています。カウンセリングと言うことで、何か特別で恥ずかしいとか警戒する気持ちがあるかもしれませんが、普通に話を聞いていただけます。また、学内の関係者には話しづらいことなども話せるのではないのでしょうか。現在週1～2回実施していますが、来訪者の少ない回もあります。利用してみませんか。



奄美群島の神社と民俗信仰

一般教育科 町 泰樹

私は、一般教育科で「倫理」や「哲学」の科目を担当していますが、実際の専門は、「文化人類学」や「民俗学」、「宗教学」といった分野になります。端的に言えば、人々の文化や宗教について研究をする分野です。今回は、専門の研究について書かせていただく機会を得ましたので、現在私が取り組んでいる研究課題について書きたいと思います。

私は、奄美群島の神社と民俗信仰の相互交渉について研究をしています。なぜこのテーマで研究をしているのかというと、このテーマが、異文化（宗教）接触を理解するためのモデルケースになると考えているためです。奄美群島は、現在は鹿児島県に属していますが、1609（慶長14）年に薩摩藩が琉球へ侵攻する以前は、琉球王国に属していました。これによって、奄美群島では、琉球侵攻以前の琉球文化をベースとしながら、薩摩藩経由での日本本土の文化の影響を受けるようになります。つまり、奄美群島は、琉球と日本本土という二つの文化が合流する汽水域だと言えるわけです。

興味深いのは、本土文化の影響を受けるようになった後も、完全に同化するのではなく、琉球文化の要素を保ち続けているという点です。奄美群島を訪れてみると、「南の島にやってきた」という実感を持つ人も多いと思いますが、そうした実感は、単に気候や植生といった自然環境のみならず、言葉（方言）や食べ物、年中行事といった人々の生活文化の面からも生じてくるのではないのでしょうか。

さて、こうした琉球的な要素は、人々の宗教生活の面でも観察されます。奄美群島の伝統的な年中行事の中には、かつて琉球王朝の認可を得て活動していた女性神役のノロが主催する集落の行事があり、死者供養においては、死者の口寄せを行なうユタが関与することもあります。こうした奄美群島の伝統的な宗教文化は、近代に入ってから大きな変容を経験しました。明治維新时期に、明治新政府は、天皇制を前面に出した国民統合を図るために、神社神道を用いた宗教再編を行いました。近代以前の民衆の宗教生活では、神道と仏教を明確に区別しない神仏混淆が一般的だったのですが、明治維新政府から出された神仏分離令によって、寺社仏閣や祭神は神と仏に区分され、仏教よりも神道のほうが上位に位置づけられました。奄美群島では、「弁天」が「厳島神社」に、「天神」が「菅原神社」に変わったりしています。また、国家（薩摩藩）主導で郡島内各地に高千穂神社が創建されました。神仏分離と同時に廃仏毀釈も起こりましたが、奄美群島では、仏教だけでなく、先述したノロやユタといった伝統的な宗教文化の担い手たちが弾圧の対象となり、

活動を禁止されました。このようにみていくと、奄美群島の神社は、明治維新

期においては、郡島内の宗教文化を抑圧する存在であったと位置づけられます。しかしながら、明治期の後半には、興味深い現象が起きます。奄美群島の各地で、在地の伝承を由緒とする神社が創建されていくのです。私は、こうした神社を「伝承創建神社」と呼んでいます。伝承創建神社は、外来宗教（神社神道）の祭祀形態によりながら、内実としては、在地の英雄伝説や創世神話を土台とし、そこに登場する英雄や神々を祭神としています。

伝承創建社には、例えば、奄美大島の開闢神話に基づいた阿麻弥姑神社（奄美大島・笠利）や、在地の英雄である按司^{あじ}ニツチエーを祀る按司根津栄神社（与論島）、平家落人の伝説に基づいた行盛神社（奄美大島・龍郷町）、有盛神社（奄美大島・名瀬）、などがあります。こうした神社は、もともとは民俗信仰の拝所となっていたものが、近代以降に神社化していったものと考えられます。そのため、伝承創建神社の創建や継承のプロセスを通じて、奄美社会における外来の宗教文化（神社神道）と在来のものである（民俗信仰）との相互交渉を理解できると考えています。また、伝承創建神社の研究によって、奄美社会が在地の宗教文化をどのように変容させてきたのかが理解できれば、奄美群島の地域史にも貢献できます。

こうした異文化接触に関する研究は、グローバル化がすすむ現代社会において、重要度の高い研究だと私は考えています。奄美群島という一地域の事例ですが、研究を通じて、自分たちの足元に大きなテーマが潜んでいることを学生たちに伝えていきたいと考えています。



写真1：与論島の按司根津栄神社

「按司」は、琉球諸島で用いられていた称号や位階です。ここでは、地方の支配者の称号とご理解ください。

マグネシウム合金の超音波接合

機械工学科 東 雄一

高専の低学年の授業（機械工学科では機械工作法や工作実習等）で学習する生産加工技術はものづくりをするうえで欠かすことのできない学問であり、その中に「溶接・接合」という分野があります。溶接・接合とは、簡単に表現すると「材料をくっつけること」です。溶接・接合にも多くの技術があり、その中で私の研究では超音波接合技術に着目しております。超音波接合とは、材料を溶かさずに接合する固相接合技術の一つであり、超音波振動による摩擦熱や塑性変形による発熱、接合プロセス中の激しい塑性変形や塑性流動等が相まって接合が達成されます。しかし、その応用例はワイヤーと端子の接合、お菓子等のプラスチック容器の接着などの比較的接合強度を要しないようなところで使われています。

また、マグネシウム合金は実用金属中最も軽い金属で構造物の軽量化のためにその需要は年々増加傾向にあります。しかし、冷間加工性が悪い、発火の可能性があるなどの問題点により、一般的に軽量部材として広く使われているアルミニウム合金より適用例が少ないのが現状です。一方で、近年、いろいろな添加元素を精密に制御して開発された優れた特性をもつ材料が多く存在します。マグネシウム合金にも Zn(亜鉛)と Y(イットリウム)を添加して開発された難燃性と高強度を併せ持つ LPS0 型マグネシウム合金（LPS0 についての説明はここでは省略します）という新しい材料があります。このような新規な材料を実際にもものづくりの現場で使用するには接合技術の開発は不可欠になります。

上記のような背景から、超音波接合を構造用部材の接合技術へ拡大する マグネシウム合金の用途を拡大するの 2 点を柱に研究に取り組んでいます。溶接・接合をした際に問題になることとして、熱的要

因と歪的要因により接合前の材料が持っている特性から接合後の材料特性が、硬くなったり柔らかくなったりと変化することが挙げられます。このような特性の変化の仕方は接合する材料によって異なります。また、このような特性の変化は材料内部の微細組織の変化に由来し、その組織変化が材料特性の変化、すなわち、接合強度に密接に関係してきます。したがって、接合後の継手内部の微細組織を観察することが重要になります。これまでの研究では、微細組織観察の観点から LPS0 型マグネシウム合金の接合機構を明らかにし、接合パラメータによる微細組織の変化と接合強度との関係性について明らかにしました。現在では、LPS0 型マグネシウム合金の異方性と超音波接合の接合性の関係を明らかにすることや LPS0 型マグネシウム合金と鉄鋼材料の異材接合を達成するこ

とにチャレンジしています。また、単に観察というと簡単なように思えますが、本

校の走査型電子顕微鏡：SEM を用いて観察する際は一日中地域共同テクノセンターの情報処理室に籠っていることがよくあります。学外で研究発表を行う場合は綺麗な写真で発表する必要もあります。この綺麗な写真を撮るためには観察するための下準備が非常に大切です。この下準備を怠ると綺麗な写真は撮れませんし、下準備のやり直しとなり結局余計に時間がかかってしまうことになります。卒業研究・特別研究の学生には、何事にも地道な作業が必要であることを学んで欲しいと考えています。

運動のコツや秘訣を発見したい！ ～生物の運動メカニズムを探る～

電気電子工学科 垣内田 翔子

色々なロボットを作っても、生物のように臨機応変に滑らかに動かすのは難しいものです。特にヒトのように二足で歩くとなると、その難易度は格段に上がるように思えます。しかもヒトは、平らな道だけでなく、でこぼこ道もすたすた歩いたり走ったり、ジャンプもします。また、スポーツをする時などは、高度に片足でバランスをとりながらプレーしています。私は、ヒトが行う、臨機応変な運動のメカニズムに興味を持ち、それを解明する研究を行なっています。具体的には、生物の運動を解析することで、運動のコツや秘訣の発見に取り組んでいます。

現在取り組んでいるのは、歩行運動のメカニズムについてです。普段の生活では、どうやって足を動かして歩いているかなど、考えることはありませんよね？でも、ヒトの身体には数多くの関節とそれを動かす筋肉が備わっていて、これらを上手く協調させています。脚だけに注目してみても、大きく動かせる関節には股関節、膝関節、足関節、と足部があります。さらに、これらの関節を動かすために備わっている筋肉は、50個以上あります（下半身だけで、ですよ！）。これら一つ一つに脳から司令を出すとなると…『進行方向確認。ただちに脚の各筋肉の目標長さ決定。左脚ヒラメ筋出動、〇秒経過。ただちに大腿△×筋出動。いかん、右足の支えが不足している。右足指伸筋への出力増大。既に体が前に倒れすぎているぞ。このままでは転倒する。あー。地面が迫っている。ただちに踏ん張りつつ、腕を出し防衛行動に切替えて…』と大騒ぎです。そこで、この研究を進める上で注目している1つは、「身体に備わった複数の関節や筋肉の協調作用」です。例えば、歩いていて、いつもより膝の高さが低かったとしても、その分膝をしっかり曲げることで、つまずきを防ぐとことができます。実際にこのような機構が歩行中のどの瞬間に強く働いているのか。また、このような機構を生むメカニズムについて研究を行なっています。もう一つの注目点は、と「歩行を助ける身体の骨格構造」です。今の私たちの身体の構造は、進化の過程で二足歩行向きになっているはずです。そこで、ニホンザルなどの普段は二足歩行しない動物と比較することで、ヒトの持つ骨格構造の良い所について、研究を進めようとしています。

この研究ではまず、実際にヒトが歩行中どのように脚を動かしているのかをモーションキャプチャで計測します。同時に、表面筋電位計と呼ばれる、表皮から筋肉の活動を計測できるセンサーを使って、どのタイミングでどの筋肉が活動しているかも計測します。さあ、気にな

なって来た方、是非ご自分の歩行を計測して、この研究に参加しませんか？

現在この研究でわかって来ているのは、「ヒトもニホンザルも、二足で歩いている最中、常に足先の位置に気を配っている訳ではない」ということです。転ばずに二足歩行するのに大切なタイミングでのみ、各関節を協調させて動かして、それ以外のタイミングでは、あまり足先の位置に注意を払っていなかったのです。これは、二足歩行に大切なコツを抑えることで、常に正確な運動をしなくても、一見難しく見える二足歩行を実現している、ということ。私たちは、この歩行のコツを意識することなく日々歩いている、という訳です。これから、運動コツをどうやって習得しているのか、高齢者になってもコツの部分は衰えないのか、探っていきたいと思っています。

現在注目して行なっているのは、歩行ですが、歩行に限らず、スポーツの熟練者や匠が知る技のコツ・秘訣は何なのか、といった問題にも取り組みたいと思っています。将来は、「匠の技」を伝える新しいコーチング術が提案できる日が来たらなんと妄想中です。ちなみに、私は生物を対象に研究をしています。研究に使っている手法はほぼ工学分野のものです。生物を専門に勉強して来た方とお話していると、着目点が違って、新しいものが見えてくることがあり、とても刺激的です。みなさんも、自分が知っている知識・勉強分野をベースに、これまで知らなかった分野・一見畑違いに見える事柄に関わっていくと、とっても面白いと思いますよ。





贈る言葉

都市環境デザイン工学科 川添 敦也

ば、今よりもさらに成長した姿を見せてもらえたら、私達教職員にとってはこの上の無い喜びです。そうなることを期待して、私の贈る言葉に代えさせていただきます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、鹿児島高専の50周年の節目の年に入学されました。右も左もわからない新入生の時に、様々な記念行事があったことを覚えているのではないのでしょうか。都市環境デザイン工学科でも、皆さんの卒業する今年度が前身の土木工学科から50周年ということで、昨年10月に記念碑の除幕式を行ったところです。私は、皆さんが入学した年に本校に着任しましたので、ある意味同級生のような感覚があります。皆さんと同様に、当初から本校の様々な歴史に触れる機会の多い5年間でし

た。

昨年度からの就職活動では、本校の多くのOBの方々にお会いすることができました。学科からは県内に多数の土木技術者を輩出しており、特に鹿児島県庁には100名以上のOBが在籍しています。大手企業の求人が好調なこともあり、今年度は残念ながら県内就職を希望する学生が少なくなりましたが、それぞれの職場、土地で活躍してくれるものと確信しています。事情があって将来Uターンしてくる人もいるでしょうが、その時は、それまでに身に付けた知識や技術を発揮して、故郷のさらなる発展に貢献してくれることを期待しています。卒業後、進学する学生、就職する学生がいますが、いずれにせよこれから10年程度は技術者として成長していくために大変貴重な月日になります。個人差はありますが、30歳くらいからは否が応でも職場で責任ある立場になったり、家族の為に時間を割いたりすることも必要になり、徐々に自分だけの為に使える時間が限られてきます。それまでにどれだけ多くの知識や技術が身に付けられるかで、その後の技術者として、更には一人の社会人としての伸び代が決まってくるように思います。これまで以上に時間を大切にして、常に自分自身のキャリアプランを具体的にイメージしておくことが大切です。

私自身の体験を振り返ると、何か困難な物事に取り組む時に、若いうちは体力よりも気力が続かなくなり、中高年に差し掛かると気力よりも体力が続かなくなります。若いうちは多少無理をしても体を壊すことは少ないですが、年齢とともに確実に体力は落ちてきて、体力と気力の逆転現象が起きます。年をとっても体力を保つためには、持続的な運動を習慣づけて、健康を維持することが必要です。学生時代に部活動などで運動を続けてきた人達は、できるだけ続けることをお勧めします。一方で、特に何もしてこなかった人達も、無理をせずに続けられるスポーツを若いうちに是非見つけてください。

皆さんの人生の大切な節目に関われたことを、大変嬉しく誇りに思っています。またどこかで会うことがあれ



在校生へ

機械工学科5年 山中 大樹

私は今年この学校を卒業し4月から社会人となります。その中で就職活動を行ってきたのですがその時の経験なども踏まえ、社会人になる前に在校生の皆さんに知ってほしいことを書かせていただこうと思います。



社会人になる前に「コミュニケーション力」をつけるというのは皆さんも耳にタコができるほど聞いた話ではないでしょうか。では「コミュ力」を育てるにはどうしたら良いのか？まず大事なのは相手の話を聞き、その内容を理解した上で相手に自分の考えを伝えることです。高専生の有りがちな例として自分の話することに夢中になりすぎるあまり相手の話を遮りこちらの意図のみを伝えようとする場面を多々見かけます。本人は「相手の話も聞きこちらの意図も伝えることができた」と満足し相手も意図だけは伝わるかもしれませんが、しかし、人には感情があり会話をする上で最も大事で難しいことは相手の気持ちを読み取ることです。これは私一個人の考えなので一般論には当てはまらないかもしれませんが、最悪、うまく意図を伝えられなくとも相手と良好な関係を築けるような会話ができたほうが良いと思います。人は日常生活を送る上でのミスを犯すことで死ぬことは滅多にありませんが、コミュニティに馴染めない日々を送ることは心を殺し孤立により協力を得られず社会的な死に繋がることもありえます。そうなった時一番苦しいのはあなた自身です。もちろん相手の気持ちも思いやりつつ意図のやり取りもキチッとできている会話が最も好ましいと思います。

なので言葉を発する前に相手がどのような意図を伝えたいのかと「どんな反応を望んでいるか」考えるましょう。正論ばかり述べようとするのではなく相手の意見も理解しているけれどこんな方法もあるよ、と一度肯定してからこちらの考えを述べるなどの工夫で衝突は減らすことができます。これはセールスマンの方などはよく使われている会話テクニックです。私もアルバイトをしている時の接客でお客様が話されたあととりあえず「はあ〜！なるほどですねえ！」とリアクションを返すのがなるほどの一言を入れることで驚くほどスムーズに会話が進み衝突なく満足してお帰りいただけます。同意の言葉で不快になる人は少ないので魔法の言葉「なるほど」は知っておいて損はないと思います。社会に出てからは好ましい人とだけ接するというわけにもいかないでしょう。そんな時にどう対処できるかが皆さんの腕の見せどころではないでしょうか。皆さんが過ごすこれからの学生生活並びにまだ見ぬ社会人としての生活がよりよいものとなるよう願っています。

追想私の五年間

電気電子工学科5年 塚本 耕助

高専生とは、およそ青春というものの全てを放棄した物好きな存在だと言われることがある。結果に一喜一憂する席替え、気になるあの子と一緒に帰り道、期待していないと言いつつもドキドキして過ごすバレンタイン……。確かに、一般的に青春という言葉からイメージされる甘酸っぱいシーンの数々は私の五年間の記憶には欠片も存在しない。そのため、我々は青春を犠牲にした変わった奴らだと評されるのかもしれない。しかし、である。本当に高専で過ごした日々青春はなかったと言い切れるだろうか。

五年前、色々あった小学・中学校時代を経てこの学校に入学した当時の私は言ってしまうと“拗らせた”人間だった。卒業文集のタイトルに「楽しくはなかった中学三年間」と付けていることからその拗らせっぷりが窺える。そんなわけで高専に入学してからしばらくは「ぼっち至上主義」なるものを掲げ、極力他者との接触を避けるようにして過ごしていた。半年生活した寮でもほとんど自分の部屋から出た記憶がない。部活にも所属せず、さりとて他にすることがあるわけでもなかったため空いた時間は現実から逃げるように図書館で借りた本を読んで過ごしていた。今にして思えば、あの頃の私はかなり扱いに困る奴だったのではないと思う。それこそ、周囲から疎まれ避けられ終いには集団から排斥されてもおかしくはなかったように思う。しかし結果として私は今もこのクラスに所属し、この度卒業の日を迎えようとしている。このことについては、常に寛容であり続けたクラスメイトに感謝するほかない。もちろん、一説によると高専という少し特殊な環境において私程度の変った奴は珍しくなかっただけという意見もある。しかし例えそうだとした場合、やはり周囲の人間の度量が大きかったおかげだと思う。学校に通う以上は避けられない彼らとの交流の中で私は徐々に真人間に近づきつつある。共通の趣味の話で盛り上がったり、休日に集まって遊んだりするような友人も出来た。そんな友人たちと文化祭で露店を出したり、4年次の体育祭では応援団で列隊長をやらせてもらい一年間かけて仲間と作り上げた演舞をどしゃ降りの中披露したりしたことはいい思い出になった。

さて、最後に再度問おう。高専生活に青春はなかったのか。答えは断じて否である。ここで過ごした五年間は間違いなく青春だったと私は胸を張って言える。その記憶を心に刻んでここを旅立つ……と結びたいところだが私はあと2年専攻科でお世話になる。だから今は、先に巣立っていく仲間たちのこれからの活躍を我らの学び舎から祈っていることにしよう。

卒業にあたって

電子制御工学科 5 年 山角 祐輝

私は幼い頃からロボットに興味があり、両親の勧めもあって小学生の頃から高専に興味を持っていました。しかしながら、高校受験では高専を諦める一手手前でしたが、諦めず勉強し高専に入学して良かったと、今となってはすごく思います。5 年間の高専生活は中学の 3 年間よりも早いように感じました。寮生活や、部活動の硬式テニス、文化祭や体育祭、工場見学旅行や、インターンシップ、就職活動、定期テストなど、忙しい毎日でしたが、とても充実した日々を過ごせていたと感じています。

私は入学時から 4 年時まで寮での生活を送りました。私が入学した当初は 1 年時の前期は全寮制だったため、クラスの仲間と直ぐに仲良くなれたのを覚えています。家に比べ不便な点もありましたが規則を守ることや協調生が身につきました。

部活は、中学でもしていた軟式テニス部に入学しましたが、途中から硬式テニスに転向しました。中学の部活に比べ練習は厳しく、投げ出したくなる事も多々ありましたが、続けることの大切さを学べました。

最近の出来事としては就職活動です。私は明確に将来の夢が決まっておらず、就職先を決めるのに多くの時間を費やしました。合同企業説明会や、工場見学、インターンシップなどを通じて様々な情報を得ましたが、就職先を決められない不安で一杯でした。今まで、高専に行くんだ！という目標しかなかった為、高専入学後将来の目標が無かったことに今更ながら気がついたのです。そこで、自分が何に興味があるのか、将来はどんな風に生活を送りたいのかを 1 から考え、まとめることにしました。すると電気よりは機械に興味がある事や、転勤に抵抗がある事、金銭や休暇を重視している事など、自分では意識していなかった考えが次々に浮かんできました。それらを踏まえ将来の目標を立てつつ、就職活動を行いました。そして、最終的には内定を頂く事ができました。

あと少しで学生生活が終わり社会人としての生活が始まります。不安だらけですが、自信を持って行動できるよう目的を持ち、目標を達成出来るよう励みます。最後になりましたが、最近顔を合わせることも少なくなりましたが、友人や先生方、ずっと支えてもらっている両親へ感謝しながら人生を歩んでいこうと思います。

卒業

情報工学科 5 年 田中 佑実

早いもので入学してから 5 年が経ちました。振り返れば、この 5 年間で私には贅沢なほど様々な経験をさせて頂くことができました。

1 年生の英語暗唱大会で入賞し、2 年生の時には、全国高専英語プレゼンテーションコンテストで優勝しました。3、4 つ上の先輩とのチームだったので、足を引っ張るまいと必死に練習したことをよく覚えています。3 年生には、米国から支援を受けて、米国への 4 週間の研修に参加させていただきました。鹿児島でのんびり生きてきた私は、他県やアメリカの同世代の学生の、将来を見据えた考え方に驚かされました。本当に良い経験だったと思います。今でも、当時の経験を思い出しては勇気をもらっています。

また、これらの活動に加えて、兼部していた女子バスケットボール部では 1 年生の頃から多く試合に出させて頂き、2 年間に渡りキャプテンを務めました。少人数ではありましたが、本当に楽しくバスケットボールができる、かけがえのない私の居場所でした。これからも応援しています。

そして、5 年生の初めからは Robogals という、女子学生のための活動にも携わることができました。Robogals は、工業分野の女子学生増加を目的とした世界に支部を置く団体です。就職しても、別の形でサポートしていきたいと考えています。鹿児島から世界へ、これからも社会に貢献していきます。

私が、こんなにもたくさんの部活動や課外活動で活躍できたのは、教職員の皆様のご支援があってこそだと、とても感じています。そんな鹿児島高専は、本当に素敵な学校だと私は思います。私にとって、成長するには最高の環境でした。

環境は人を変えると私は考えています。しかし、この整った環境で変わるかどうかは、結局のところ自分の行動次第だとも思います。私は、この充実した 5 年間に誇りに思い、前に進んで行きたいと思います。学生の皆さんは、長いようで短い学生生活を、後悔の無いように楽しんでください。

最後に、クラスメイトへ。お世辞にも仲が良いとは言えない、よく言えば個性の塊のようなクラスでしたが、いざという時には助け合って 5 年間を過ごしてきたのではないかと思います。工場見学も、応援団、櫓絵も本当に楽しかったです。

近くで支えてくれた家族、共に 5 年過ごしてきた学友、お世話になった教職員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。5 年間ありがとうございました。

5年間を振り返って

都市環境デザイン工学科5年 片平 耀款

今、高専生活の五年間を振り返るとあっという間でしたが、とてもいろいろなことがあったというのが強く感じられます。これから、自分が印象に残っていることをいくつか挙げていきたいと思います。

最初は、やはり寮生活です。全く知らない人と暮らすということは、15年間親元で生活してきた自分にとっては不安しかありませんでした。ですが、同室の同級生や先輩、近くの部屋の同級生が最初に話しかけてくれた時のことを、今でも鮮明に覚えています。初めは、挨拶運動などの辛いこともありました。今考えるとこの挨拶運動のおかげであいさつする習慣が身についたと思います。また、寮生活が楽しくて親に連絡を取らずに心配をかけたこともありました。そのことを初めて言われたときに、やはり親の立場からすればいつでも自分たちを心配してくれているのだと気づかされました。そして、仕送りをしてくれる親に対して申し訳ないという気持ちになりました。自分は、五年間を通して寮生活でしたが、一人暮らしをしているクラスメイトに聞いても、親のありがたみがわかるといっていました。自宅通学をしている人も寮生活をしている人も、親への感謝気持ちは忘れずにいてほしいです。

二番目は部活動です。高専は、運動系の部活動も文化系の部活動も同好会も充実しています。また掛け持ちができるというのが大きな特徴です。私は、三年生までバドミントンと英語部を兼部していました。しかし、3年生の11月に英語部に専念することに決めてバドミントン部を退部しました。このおかげで、4年生ではTOEICのスコアアップや全国英語弁論大会出場、国家試験の合格など様々なことに挑戦できたと思います。ですが、退部したことを後悔しなかったわけではありません。正直、頑張っている部員を見て羨ましいと思ったこともありました。部活は、技術を磨くところであるとともに、礼儀やコミュニケーション能力を磨くところでもあります。また、自分の知り合いの輪を広げる場所でもあります。在校生の皆さんには、部活動でなくても自分が面白い、楽しいと思えるもので、この知り合いの輪を広げていてほしいです。同じクラスでなくても、他学科、他高専でも構いません。それが将来きっと自分にとってプラスとなるはずです。

年を重ねていくと、時が過ぎるのはあっという間ということをよく聞きますが、高専でも同じことが言えると思います。私も、一日を大切にしてきたつもりですが、それでもとても早く感じました。皆さんも、5年間の一日一日を大切に過ごしてほしいです。

修了にあたって

機械・電子システム工学専攻2年 佐藤 真太郎

鹿児島高専に入学して7年が経ちました。私が鹿児島高専に入学したのは、就職率が良いことや、機械に対して少し興味を持っていたからでした。実際に入学すると、最初は寮生活や挨拶運動など鹿児島高専独特の文化に戸惑いましたが、いざ慣れてしまうと非常に充実した学生生活を過ごすことができました。そして月日がたち、5年生になり、進路を決断しなければなりません。そのとき私は就職を考えていましたが、どの企業に就職するのかを決断しかねていました。そこで、本科で得た専門知識をさらに深めることと、本科ではできなかった経験を得ることで、自分の将来について改めて考え直そうと思い、専攻科に進学することを決めました。

専攻科では本科と異なり選択科目が増えたため、自分の興味のある分野の科目を受講し、勉強することができました。専攻科では研究が主な活動になるため、自由な時間が増えて時間の制約が少なくなりました。そのため、あらかじめ自分で何をするのか計画を立てることの重要性や計画の立て方を実践的に学ぶことができました。また、自分の研究について発表する学会発表、論文の作成を通じてプレゼンテーションの技術や、論文を書くための文章の書き方についても学ぶことができました。さらに長期休暇を利用して、シンガポールのプラント企業でインターンシップを行いました。そこでは、座学や現場見学を通じてプラントに関する技術やプラント建設の工程について学びました。また、海外へ行くのが初めてだったため、日本と異なる景色や文化を肌で感じられたことはとても貴重な経験になりました。インターンシップで感じたことは、自分の英語力の不足でした。特に自分の意見を相手に話す力がまだまだ不足していることを、職場や現地の方々と話していく中で痛感しました。それが英語の学習に対する学習意欲になり、今でも少しですが英語の勉強を継続できているので、インターンシップはとても良い経験になったと思っています。専攻科で得た知識や経験を生かして、就職先の会社に少しでも貢献していきたいと思います。

最後になりますが、これまで指導してくださった先生方、職員の方々、ともに学生生活を過ごした友人、長い間支えてくれた家族に感謝申し上げます。ありがとうございました。

専攻科修了にあたって

電気情報システム工学専攻2年 磯道 孝之亮

専攻科修了も近づき、長かった鹿児島高専での学生生活が終わろうとしています。15歳から22歳までの七年間を過ごした隼人とも、お別れの時が近づいて来ました。さて、この七年間、色々な事を学び、色々な事を経験しました。が、特に感慨深いものもなく、これと言って鹿児島高専に思い入れがあるわけでもありません。「技術者としての心構えや考えを多くの先生と関わりながら学ぶことができました」なんてことは実際無く、そんなことを考えたりするのは、いつも技術倫理についてのレポートで体裁の良い内容を考える時ばかりでした。専攻科へ進学した理由も、コミュニケーションを十分に行うことのできる自信のない自分が慣れない他大学へわざわざ編入できる勇気が無く、出来るだけ変化のない環境に身を置きたいと思ったからに過ぎません(単位互換の事を考えると他大学の情報科で取得単位に余裕をもってやっていけるとは思えなかったというのも多分にあります)。結局来年度は他の大学院に進学するわけで、今からすでにナーバスですけれども。

そんな理由で二年間隼人に居残っていたわけですが、個人的にはそれはあまり悪い事ではなく、自分自身の意志で色々な事に挑戦できる、余裕のある環境と言う意味で自分自身の中で大きな価値を持つ二年間になったと思っています。言ってしまうと趣味の時間が多く取れたということです。「じゃあ専攻科じゃなくてもよくね」と思うことでしょうか。そうです。そうなんです。なんで僕専攻科生なんでしょうね。やりたいことをやるために専攻科になったわけでは無いんです。と言うかこの二年間学生生活において思い出が特に無いです。NULL. 何やってたっけ。そもそも高専を志望した理由すら「高専に進めばきっと親がパソコン買ってくれる」というものでした。

でもさっき言った通り、この二年間は自分の中で後悔すべき内容では無いです。むしろこの選択をして良かった、ベストとは言えなくともベターだったと胸を張って言えます。やりたいことができたので。それが鹿児島高専に関するものではなかったというだけで。

無事卒業できたなら、これから大学院に進学します。自分の興味ある分野を選択した進路なので、これから大学院で過ごす二年間を「この選択でよかった」と思い、そしてその要因が大学院で学び、経験する様々な物事であるといいなと思っています。

専攻科修了にあたって

建設工学専攻2年 下鶴 将馬

鹿児島工業高等専門学校の建設工学専攻に入学し、早いもので2年が過ぎようとしています。本科の5年間を合わせると鹿児島高専に入学して7年間高専生活を過ごしました。充実した7年間でした。高専の入学を決意したのは両親や中学校の先生方の勧めと、就職率が良いという点からでした。入学当初は寮に入り、不安でいっぱいでしたが次第に慣れ、4年間寮生活を過ごしました。寮生会に入り文化長として貴重な経験をすることができ、大変な事も多かったですが、楽しい日々でした。学生生活でも文化祭実行委員として文化祭の運営に携わりました。これも大変な事ばかりでしたが、経験することができてよかったです。7年間、同じ学校にしていると多くの仲間ができ、就職して社会人になっても高専生活で作った仲間を大切にしていきたいです。

専攻科に入学すると発表する場が増えました。本科の時にはあまり発表する機会がなく、人に伝える力を専攻科で少しは身につける事ができたと思っています。先生方の支えもあり感謝しています。

鹿児島工業高等専門学校に入学して7年間様々な経験をすることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。4月からは社会人です。お世話になった人達や地元から離れて就職するのは不安ですが、高専で学んだことを生かしてこれからも日々成長していきたいです。最後に高専でご指導いただいた先生方、先輩方、ともに学生生活を過ごしてきたクラスメートにこの場を借りて御礼申し上げます。残りわずかな高専生活ではありますが、悔いの残らないよう十分に楽しんでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《機械工学科》

ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社（3名）
DMG 森精機株式会社
IHI プラント建設株式会社
株式会社 JAL エンジニアリング
JX エンジニアリング株式会社
NHK メディアテクノロジー株式会社
株式会社 SUBARU
アルバック九州株式会社
旭化成株式会社（2名）
旭硝子株式会社
大阪ガス株式会社
川崎重工業株式会社
独立行政法人国立印刷局
シチズン鹿児島株式会社
株式会社シマノ
ジャパニース株式会社
新日鐵住金株式会社
第一精工株式会社
ダイキン工業株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東京ガス株式会社
株式会社トヨタ車体研究所
日本飛行機株式会社
日本ビソー株式会社
日本郵船株式会社
ファナック株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（3名）
（進学）九州工業大学（4名）
（進学）熊本大学（2名）
（進学）東京農工大学（2名）

《電気電子工学科》

株式会社 IHI ビジネスサポート
JNC 石油化学株式会社
宇部興産株式会社
エコー電子工業株式会社
株式会社九電ハイテック
京セラ株式会社
霧島木質発電株式会社
サントリープロダクツ株式会社
株式会社省力化技研
全農サイロ株式会社
ソニーエンジニアリング株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東芝プラント株式会社
成田空港給油施設株式会社
日本建設工業株式会社
株式会社ネオテック
パナソニック株式会社アプライアンス社
株式会社日立ハイシステム 21
株式会社日立ヘルスケア・マニュファクチャリング
富士電機株式会社
丸善石油化学株式会社
ムラテック CCS 株式会社
メタウォーター株式会社
株式会社ユピテル鹿児島
リニューアブル・ジャパン株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（7名）
（進学）鹿児島医療工学専門学校
（進学）鹿児島大学（3名）
（進学）九州工業大学
（進学）電気通信大学
（進学）豊橋技術科学大学

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《電子制御工学科》

株式会社 NTT フィールドテクノ
旭化成株式会社
オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社
株式会社九州タブチ
京セラコミュニケーションシステム株式会社 (2名)
島津メディカルシステムズ株式会社
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社 (2名)
ソニーコーポレートサービス株式会社
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
株式会社筑水キャニコム
株式会社ディスコ
東海旅客鉄道株式会社 (2名)
株式会社トヨタ車体研究所
西日本高速道路株式会社
日本アルゴリズム株式会社
日本特殊陶業株式会社
日本メックス株式会社
株式会社日立ハイテックフィールドインテグ
平田機工株式会社
ファナック株式会社 (2名)
株式会社ペルテ
三菱重工業株式会社
三菱電機システムサービス株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
株式会社渡辺機械製作所
(進学) 鹿児島高専専攻科 (6名)
(進学) 鹿児島大学
(進学) 九州工業大学 (2名)
(進学) 熊本大学 (2名)
(進学) 豊橋技術科学大学 (3名)

《情報工学科》

株式会社 NTT データアイ
独立行政法人国立印刷局
サイバートラスト株式会社 (2名)
株式会社ゼネテック
株式会社ソフト流通センター (2名)
株式会社テクノプロ テクノプロ・IT 社
株式会社テクノプロ テクノプロ・エンジニアリング社
東芝 IT サービス株式会社
ハイウェイ・トール・システム株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
株式会社南日本情報処理センター
メタウォーター株式会社
株式会社メンバーズ (2名)
株式会社ユピテル鹿児島
(進学) 鹿児島高専専攻科 (5名)
(進学) HAL 東京ゲームデザイン学科
(進学) 九州大学
(進学) 熊本大学 (3名)
(進学) 筑波大学 (2名)
(進学) 電気通信大学
(進学) 東京大学
(進学) 豊橋技術科学大学 (4名)

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《都市環境デザイン工学科》

JNC 株式会社
関西電力株式会社
九鉄工業株式会社
サンコーコンサルタント株式会社
サントリーホールディングス株式会社
東海旅客鉄道株式会社（3名）
東急建設株式会社
東京ガス株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
南九地質株式会社
西日本高速道路株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社(2名)
西日本旅客鉄道株式会社（2名）
日特建設株式会社
日鉄住金パイプライン&エンジニアリング株式会社（2名）
日本都市技術株式会社
パソコン技術管理株式会社
株式会社ピーエス三菱
株式会社横河ブリッジホールディングス
（進学）鹿児島高専専攻科（6名）
（進学）鹿児島大学
（進学）九州大学
（進学）熊本大学（2名）
（進学）長岡技術科学大学

《機械・電子システム工学専攻》

JFE プラントエンジニア株式会社
株式会社 NHK メディアテクノロジー
旭化成株式会社
デンソーテクノ株式会社
パーソル R&D 株式会社
ファナック株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
村田機械株式会社
安川エンジニアリング株式会社
（進学）九州大学大学院
（進学）奈良先端科学技術大学院大学
（進学）北陸先端科学技術大学院大学

《電気・情報システム工学専攻》

株式会社 A・R・P
大阪ガス株式会社
（進学）九州工業大学大学院
（進学）九州大学大学院

《建設工学専攻》

株式会社 JP ハイテック
NTT インフラネット株式会社
西日本高速道路株式会社

新任のご挨拶

情報工学科 古川 翔大

平成 29 年 4 月 1 日より情報工学科に着任いたしました古川翔大（ふるかわ しょうた）と申します。着任するまでは、山口大学にて日本学術振興会の特別研究員として研究活動を行っておりました。

私の出身は大分県の大分市です。私は高専出身ではないのですが、高校は理数科というかなり理系な学科の出身です。理数科では、大学進学に向けた一般的な受験勉強を行いつつ、約半年間グループでの研究活動を行う必要があります。私は生物系のグループに所属しており、コオロギについての研究を行っていました。生物相手の研究だったため、基本的に完全な休日はなく、土日や夏休みなど多くの時間を研究に費やしました。しかし、同じグループのメンバーと楽しく研究することができ、今ではとても良い経験だったと思っています。また大学では、山口大学の理学部に所属していました。理学部なので、工学部とは少し違うかもしれませんが、基本的には情報工学について多くのことを学びました。それでは、理学部と工学部で具体的に何が違うのかと聞かれるのですが、工学部が作業着を購入するのに対して、理学部は白衣を購入するぐらいの違いだと思ってください。

研究内容としては、主に画像処理を扱っています。画像処理という研究分野は大変広く、画像からの物体認識や、CG の作成など様々な処理が画像処理と呼ばれています。その中でも私が着目しているのは、病院などで使われている医用画像です。みなさんもレントゲンの画像など、日ごろ目にするような画像とは異なる画像を病院等で見かけたことがあると思います。そのような画像をまとめて医用画像と呼びます。医用画像は人体の検査や病気の診断に用いられるため、患者や医師にとってとても重要な画像となります。私は、この医用画像を解析することで、医師の診断をサポートする研究を行っています。しかし医用画像は、病気や体の部位によって用いられる画像が異なるため、医用画像とその症状に合わせた解析手法を考案する必要があります。この点が難しいところでもあるのですが、研究をしていて楽しい（自分の考えを表現できる）ところでもあります。

最後になりましたが、私はこの数ヶ月で、鹿児島高専の様々な特色に触れることができました。特に応援団や櫓絵などは鹿児島高専独特の文化だと感じました。今後、鹿児島と鹿児島高専の魅力について発見していきたいと思います。それでは、今後ともよろしくお願いいたします。

総務課職員として思うこと

総務課長 城戸 啓介

4 月に本校に総務課長として着任しました。九州に来て約 10 年になりますが初めての鹿児島です。鹿児島のイメージは、気候が温暖、桜島、離島、そして温泉です。その有名な桜島の火山灰の洗礼はまだ受けていませんが、噴火に伴う空震には驚かされました。窓がガタガタと何十秒も続きましたが、照明や足元は揺れず、テレビの速報等も出なかったため、何だったのだろうと思い翌日職場で尋ねると、噴火に伴う空震と言うそうで、たまに有るとのこと。自然の偉大さと、今、鹿児島にいるんだとあらためて実感しました。

本校には、3 月に業務の引継ぎで初めて来校したのですが、第一印象は「きれいな学校だな」でした。門から校内を見渡すと、真っ直ぐ伸びたアプローチ、その先には地域共同テクノセンターの建物、屋上には「鹿児島高専」の看板。歩みを進めると木々や植え込みはきれいに剪定され、芝生も短く刈り込まれていました。そして、ロータリーの中央には池が配置され、その周りや地域共同テクノセンターの前には花壇があり、美しい花が出迎えてくれました。「入ってくる者を優しく受け入れてくれる」、そのように感じたことを覚えています。

私は総務課長として着任しましたので、普段、皆さんにはあまり馴染みがないと思われる「総務課」を、主な業務と共に紹介します。本校には事務組織として事務部があり、その事務部には総務課と学生課の 2 つの課があります。総務課の職員は 23 名で、入学式等の行事や学校の規則を制定する「総務係」、教職員の人事や労務を担当する「人事係」、研究や地域連携を推進する「企画係」、学校運営のための予算や決算を担当する「財務係」、実験装置や教室の物品等を購入する「用度係」、校舎や寮の維持、修繕等を担当する「施設係」、そして「国際交流室」の事務も担当しており、それらの係等の事務を総括する総務担当、財務担当の課長補佐及び企画室長となっています。

現在は授業料も口座引き落としで、総務課を訪れる学生はほとんどおりませんので、存在自体が良く分からないという方も多いと思いますが、皆さんが就職する企業等にも、技術や営業と共に、総務や会計といった裏方で企業を支える部門は必ずあります。それも含めて組織は成り立っていることを理解してもらえればと思います。それが組織の一体感を醸し出し、発展へと繋がっていきます。

最後に、総務課職員の中には部活動の指導を行っている者もいます。このように、総務課職員一同、自分で仕事の枠は作らず、学生の立場に立って、学校運営の一翼を担っていきますのでよろしくお願いします。

新任挨拶

総務課長補佐（兼任 総務係長） 大中 浩己

この度、平成 29 年 4 月 1 日付けで鹿児島高専に参りました。異動前は鹿児島大学に勤務していました。

今回希望して、本校に勤務することになり、「こんなことなら早く、異動（出向）希望を出していればよかった。」と思いました。勤務環境が良く、大学で言えば 1 つの学部と同じ程度の規模であり、先生方と職員のみなさんはお互いを尊重し、働き易いことです。また、本校の建物はきちんと配置され、利用しやすいです。

さて、学生さんの感想はと聞かれると、よくあいさつをしてくださり、スポーツを始め諸課外活動に熱心に取り組んでおられます。活発なイメージですね。勉学が一番大切であることは言うまでもありませんが、グローバルな面でもインターンシップその他、外国に出て行く機会もあり、英語にも努力されているところが素晴らしいです。5 年間一貫して物事に打ち込めるところがあるのかもしれない。

今夏には、全国の高専の教職員が一堂に会する高専フォーラムにおいて、「これが高専生の実力だ！」とする分科会に参加し、全国高専の OB や OG の活躍されている場面を見て、高専のすばらしさを実感できました。

また、本校出身の卒業生が国内外で活躍されていることを頼もしく思っています。

私は、総務課長補佐、兼（兼任）総務係長として、日々の仕事内容は課長補佐として、上司との連絡調整や担当している係の決裁等を行い、係長としては、校内の関係する会議の議事進行のお手伝いや諸行事その他庶務事項を担当しています。

学生さんと直接お話する機会はありませんが、少しでも本校の発展のためにお手伝いができればと思いますのでよろしくお願いします。

新任のご挨拶

総務課 新野 博樹

平成 29 年 4 月 1 日付けで鹿児島大学から人事交流で異動してきました、新野（にいの）と申します。

鹿児島大学では、主に会計系の業務に携わっていましたが、学生係、総務係、附属病院の医務課など、様々な係を渡り歩き、色々な業務を経験してきました。

鹿児島高専のある霧島市には、鹿児島大学の附属病院である霧島リハビリテーションセンターがありますが、私は以前そこに勤務していたことがあり、受付や保険請求をしていました。建物の維持管理問題等で平成 30 年 3 月に閉院することになりましたが、小さい病院ということで、事務や医師、看護部、薬剤部など全体のまとまりが非常に強く、良い職場だったので、無くなるのがとても残念です。時代の流れと言ったところでしょうか。

鹿児島高専にも以前、平成 16 年 4 月から 3 年間赴任しており、今回は 2 度目の着任となります。

10 年ぶりということもあり、いろいろと変わっているところもあります。特に管理棟の中がガラリと変わっており、以前は総務課の庶務系が 2 階、会計系が 1 階と分かれていたのですが、1 階を広く改装して総務課の全員が一部屋に集まっており、広さと人数には驚きました。なんとなく以前より総務課のまとまりを感じます。

また、高専は大学とは違った雰囲気を感じますが、特に学生の挨拶は素晴らしいと思います。4 月の赴任当初、高専の学生から、「こんにちは」と元気な挨拶を次々ともらい、最初は驚いて一瞬挨拶を返すのが遅れたくらいです。以前、高専に赴任した時も同じように驚いたのを思い出し、高専に帰ってきたんだなって思う瞬間でした。やっぱり挨拶は大切ですね。鹿児島大学の学生が事務職員に挨拶をすることは滅多にないので、高専のほうが活気を感じ、朝から元気な気分になります。

これからも、鹿児島高専の学生の皆さんには、楽しく充実した学生生活を送ってもらいたいですし、そのために私ができることをしっかりやっていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いします。

新任のご挨拶

総務係用度係 係長 宮本 徹二

平成 29 年 7 月 1 日付けで鹿児島大学から人事交流で赴任して参りました宮本徹二（みやもとてつじ）と申します。

平成 15 年度に長崎大学に採用されて以降、本校が 3 校目の赴任先となります。

出身は奄美群島の喜界島で、毎年夏になると海で溺れ、冬になると大して寒くも無いのにコタツの中でみかんを頬張るような少年時代を過ごした後、鹿児島市で 3 年間の高校生活を、福岡市で 5 年間の大学生活を満喫した後、大学に就職、そして現在に至ります。

そもそも大学に就職した理由は、「大学に就職すれば大学生のような気楽な人生を過ごせるのではないだろうか？」と考えたからでしたが、やはりそんな事はなく、それなりに忙しい日々を過ごして参りました。

これまで主に会計系の業務を担当してきましたが、次から次に入札による調達案件を担当するのは初めての経験で、「これも良い勉強」だと思って本校での調達業務に邁進しております。

本校所在地の隼人町と言えば、母の実家が財部町の大隅大河原駅周辺にあったため、「夏休みにただ電車で通り過ぎるだけの存在」というイメージでしたが、実際に住んでみると、近くに大きなショッピングモールもネットカフェもある上に、ちょっと遠出すれば美しい自然も満喫できるという非常にバランスのとれた都市であると感じています。

赴任して感じた本校の第一印象は、学生さん達が 10 代半ばから二十歳そこの若年層であるにもかかわらず皆さん非常に落ち着きがあるという点です。

学生課に所属していないために相対的に学生さん達と接する機会は少ないのですが、稀に接する度に自身の高校時代、大学時代が恥ずかしくなるくらいの落ち着きを感じます。（卒業後は皆さん立派な会社に就職し、日本の製造業を支える立場に立つわけで、逆にそうでなければ困るのかもしれませんが。）

そんな学生さん達の学習環境の維持向上のため、私は私の職務と責任の範囲内において、精一杯本校に貢献していく所存ですので、引き続き皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

新任のご挨拶

学生課学生係 前田 やよい

平成 29 年 7 月 1 日付けで鹿児島大学大学院医歯学総合研究科から学生課学生係に参りました前田やよいと申します。

私は、鹿児島大学に入職する前は横浜市にある計測器や電源などの機器を製造する企業で働いておりました。その会社には、全国各地の高専を卒業された技術者の方がたくさんおられましたので、長いこと高専に親しみを感じておりました。この度、人事交流により鹿児島高専で働くチャンスを頂けたことに心から感謝しております。

鹿児島高専に参りまして、とても印象深く感じたのは、学生のことを「うちの子」「うちの子たち」と呼ぶ教職員の皆さんが多いことでした。大学では、特に事務職員は、学生に対しやや距離を置いて「学生」「学生さん」という呼称を使うことが多いので、少し驚きました。でも、学生係の窓口で施設の鍵を学生に貸し出したり、大会やコンテストに参加した学生のために後援会補助金の申請を行ったり、時折回覧されてくる手書きの反省文を読んだりする内に、当たり前のことですが、「高専は子供たちが大人に成長していく過程と密接に関わる場所なのだな」と実感するようになりました。入学時に既にほぼ大人になっている学生を受け入れる大学とそこが大きく違うところです。このように大人たちに暖かく見守られながら育ていく子供たちは本当に幸せだと思います。今はまだ本校の学生のことを「学生さん」と遠慮がちに呼んでしまう私ですが、いつか皆さんのように自然に「うちの子」と呼べるようになったらと思っております。

日常の学生係の業務においては、私にとって未経験の作業が多く、周りの皆さんに教わりながら、四苦八苦する毎日です。新配属先で一旦新人に戻ってしまうのは事務職員の宿命のようなもので、新しいことを覚えるのはやはり大変です。その一方で、多くの人と業務を通じて知り合え、皆と助け合いながら一つの仕事を達成できるという喜びもあります。これから、全国高専体育大会や九州沖縄地区高専体育大会など、本校が担当校となる大きな大会もやって来ますが、先生方や職員の皆さんとともに喜びを見つけながら、良い大会になるように取り組んでいきたいと思っております。

皆様、これからどうぞよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

総務課財務係 兒玉 貴司

平成 29 年 7 月 1 日付で鹿児島大学より赴任して参りました兒玉貴司と申します。財務係では学納金管理や旅費・謝金・監査等を担当しております。新しい環境と慣れない仕事が続きご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学生時代まで出身地である宮崎県で過ごし、社会人として鹿児島大学に採用されてからは主に鹿児島市内で過ごしました。その後、一度外部の機関（大隅青少年自然の家）に出向しましたが、この度、縁あって鹿児島高専に赴任することとなりました。現在は自宅のある姪良市から車通勤しておりますが大学在職時に比べると若干通勤時間が短くなったかな？というところです。

こちらに赴任する前は鹿児島大学社会連携課でイベントやセミナー、公開講座などを通じ地域貢献に関する業務に従事しておりました。現在の業務とは若干異なりますがこれまで培った経験や知識を活かし鹿児島高専の発展のために 1 日でも早く仕事を覚え貢献できるよう尽力していきたいと考えておりますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。

また、実家が宮崎県にあるということもあり仕事以外でも隼人町を通ることは多々ありますので、今回の赴任を機に街の事、地域の事、いろいろと教えていただければと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

総務課施設係 野下 悟司

平成 29 年 4 月 1 日付で鹿児島大学から総務課施設係に赴任して参りました野下 悟司と申します。

平成 26 年度に鹿児島大学に採用され、医学部・歯学部付属病院管理課建築係に、約 2 年半、所属しております。

採用される前は、大学の建築学科を卒業した後、建築設計事務所等に勤務していたため、学生の頃を含めて、今までずっとモノづくりに携わらせてもらっています。

そのためか、鹿児島高専の校内を歩き回っていると、いろいろな作業音をする実習工場や、ふとした所にコンクリートの試験体が置いてあったり、学生の方々が作成した作品が展示してあったりと工業技術を学ぶ高専らしいモノづくりの雰囲気にはホームのような居心地の良さを感じています。

そして、他の方々も書いていると思うのですが、学生さん達の挨拶が素晴らしいです。とても礼儀正しく、大変、驚きました。専門レベルの高さだけでなく、このような習慣が社会に出た時に鹿児島高専を出た方々が良い評価を受ける一つなのだろうと改めて感じました。

高専の学生の方々は、大学生よりも更に若い年齢の方々に、この時期から自分の学びたい事を見つけて専門的に学んでいると考えると本当にすごい事だなと思います。

自分自身の同じ頃を振り返ってみると、まだまだ、漠然と将来の事を考えていて、たまたま立ち読みした雑誌にある建築家の特集があり、それを読んで憧れ、建築ってどんな仕事だろうと興味を持ったくらいの時期でした。

興味を持ったことを学べる高専という環境があるという事は、素敵な事で、これから、その道に進んでいく学生の方々にとって大切な場所になると思います。そのような学生の方々の大切な場所をより良い環境に

していくのが施設係の仕事だと思っています。小さな修繕から、大きなキャンパスの将来計画まで、鹿児島高専で行う業務は、とても幅が広く自分自身、大変、勉強になります。ここでの仕事を通して、大変良い経験をさせてもらっていると感じています。

在学中の学生さん達はもちろん、卒業された方や地域の方々、そして、これから鹿児島高専で学んでみようと思っている方々に良いキャンパスだなあ。通ってよかったなあ。通ってみたいなあ。と感じてもらえるような環境に少しでも近づけるように一生懸命、頑張りたいと思います。

また、そのような仕事からさらにモノづくりに興味を持ってくれる学生さん達が増えてくれたら良いなと願います。

いろいろと至らないところも多々あると存じますが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任のご挨拶

学生課学生係 取附 寿美

平成 29 年 4 月 1 日付けで、学生課学生係保健室に着任しました取附寿美と申します。昨年度までは、鹿児島大学病院で看護師として働いておりました。

今年度から保健室は 2 人体制になりました。当初の頃は、来室した学生に「保健室の先生はいますか?」「事務の方ですか?」と尋ねられることも多く、分からないことだらけのスタートでした。また学生から「先生」と呼ばれ、先生と呼ばれることに慣れていない私は「はい・・・」と自信のない返事でしたが、学生からすれば私も保健室の先生。足りない知識を勉強して成長していきたいと思います。

学生の皆さんから時々、教科書や課題を見せてもらうことがあります。方程式に記号に内容はどれも分かりません。専門用語も初めて聞く言葉が多く「次の授業は機構(機構学)です。」→「高専機構?」「子回(電子回路)のテストです」→「司会? 視界? しかい・・・」私たちの珍解答にみなさん優しく教えてくれます。

また男子学生に比べ圧倒的に数は少ない女子学生ですが、理系の勉強ができ、ロボギャルズとして物づくりの楽しさを伝えている姿「かっこいい」です。卒業後の就職を悩む女子学生には、資格を生かし仕事は続けたほうが良いよとアドバイスしたこともあります。やはり同じ女性として「人生を強くたくましく、きらきらと生きて欲しい」と応援しています。

高専に入って驚いたことは、体育祭の櫓絵と応援団のすごさです。今年はあいにくの雨となりましたが、雨の中でも乱れのない演舞の動きと団結力に圧倒されてしまいました。櫓絵の鮮やかさにも見入ってしまいました。体育祭前は、応援団の練習で膝や腰の痛みを訴え、体調がすぐれなくても学校を休めないと来室する学生も多かったのですが、やりきったことへの学生の達成感や涙、充足感をみていると、ひたむきに頑張った学生の苦労が報われて一緒に喜んだ瞬間でした。

半年が経ち、エプロン(保健室用)で分かってくれたと、グランドの向こう側から手を振ってくれる学生や、「またケガをしたら保健室に寄りますね」と声を掛けてくれる学生も増えてきました。身近に感じてもらえているのであればうれしいです。最近では、進路や友達などの悩みを打ち明けてもらえ、たわいもない話でにぎわせてもらい、逆に私も若い感性からたくさんのエネルギーと学びを得ている毎日です。

最後に、着任前はいろいろと不安も多かったのですが、教職員の方々には丁寧に教えていただき感謝しております。これからも、学生のみなさんが笑顔あふれる学校生活を送れるように精一杯サポートしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

定年退職にあたって

一般教育科・化学 大竹 孝明

私は、平成 3 年 4 月に一般教育科(当時は一般教育科理系)の化学担当助教授(現准教授)として、大分大学の工学部化学環境工学科(現応用化学科)の助手を経て本校に赴任してからこの 3 月で 27 年が経ちますが、3 月をもちまして本校を定年退職することになりました。

この間、一般教育科理系の科長、地域共同テクノセンター長、広報委員会委員長、総務・企画、国際交流及び地域連携担当の副校長等を担当致しましたが、多くの諸先輩方、教職員の皆様、学生の皆さん並びに保護者の皆様の多大なるご協力とご支援を頂いたお陰で何とか遂行できました。まずは、心より深く感謝申し上げたいと思います。

私は、昭和 54 年 3 月に鹿児島大学大学院の学生生活を終え、教員の仕事を始めてから 39 年が経ちますので、半分以上を本校で過ごさせてもらえたことは本当に有り難かったと思っています。多くの先生方や若い学生の皆さんといっしょに過ごせたことは幸せで貴重な時間となりました。

赴任した頃の本校は土曜日が半日で授業があったりと、今はすっかり様子が異なっていました。それから大きく変わり、戸惑いや判断に迷うことも多かったのですが、教員を続けることができたのは本当に良かったと思っています。

特に、地域共同テクノセンター長として、平成 17 年に地元企業と設立したベンチャー企業の(株)隼人テクノの立ち上げ、経済産業省の平成 17 年度「電源地域における雇用促進対策調査事業」(高専等の活用による地域企業の若手技術者への現場技術教育に関する F/S 調査)、及び平成 18 年度経済産業省の「高専等を活用した中小企業人材育成事業」(鹿児島県における環境にやさしい農水工連携支援自動化機器システムの開発技術者育成)を担当しました。

また、広報委員会委員長としては、平成 21 年度から 26 年度までの 6 年間、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「科学コミュニケーション連携推進事業機関活動支援」(小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日」)に採択され、鹿児島市立科学館との共催で実施しました。

このように、産学官及び地域連携や理科教育等の推進に少なからずお役に立てたのではないかと考えております。

私の方は、4 月以降も再雇用の短時間勤務で残ることになっており、これまでと同じように授業等を担当していきます。微力ながら鹿児島高専のために貢献したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。最後に、高専を取り巻く環境も一段と厳しくなっていますが、本校のこれからのさらなる発展と、皆様方の益々のご活躍とご健康を祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。

長い間、本当にお世話になりありがとうございました。

定年退職を迎えて

～「啐啄同時」：人との出会いに感謝～

事務部長 三原 和宏

この設備の調達をお願いします。無造作に渡された書類には、大凡縁がなかった数百万円の数字。
(私) どうしたらいいのですか? 自分で考えてください。
(採用まもない時期に) つい発した言葉でしたが、学生気分が抜けきれない頭に冷や水を浴びせられたようで、稚拙な自分の言動に恥ずかしい思いをした事が、昨日のことの様に心に残っています。

四苦八苦した書類の出来はどうであったかよくは思い出せませんが、先ずは自分自身で悩み・考えるという社会人の心構え(個人の勝手な思い込みです)は、ここから始まったと思っています。

～その後もつかず離れず指導いただいた諸先輩方に感謝しています。～

国立大学、青少年教育施設、高専機構と貴重な経験を積ませてもらい現在に至りますが、時代変化の波を受けながらも決してこのことを忘れることはありませんでした。

また、異動先では、自分の未熟さに気づかされる事ばかりで私自身の道標とさせていただいた方々との出会いがあり多くの助言をいただきました。

近年は社会構造も変化し人も予算も制限を受ける中で教育現場や管理運営等に苦難の時期です。その様な状況でも特色を持った取り組みをスピードを持って実施し成果を得なければ評価されません。例えばアメーバー様に環境へ柔軟に姿形を変えられる力に加えスピードを持って成果を得ることが求められていると思います。

これまでも本校では、隼人錦江スポーツクラブ、9高専連携事業など、他の高専に先駆けて取り組みその成果は高く評価されておりポテンシャルは十分です。

私はこの三月末で退職となりますが、教職員の皆さんの理解と協力があればこの難局はきっと乗り越えられるはずと強く信じています。

九州の雄、鹿児島高専が益々発展される様エールを送り挨拶いたします。

高専に感謝、人に感謝

技術室 油田 功二

あつという間の40年余りでした。

平成30年3月31日をもって定年退職を迎えることになりました。

私が、鹿児島高専に採用されましたのが、昭和52年6月、事務部の学生課実習係でした。なんと今をさかのぼること40年あまり前のことになります。その当時、実習工場内に技術員室があり、そこには、5名の方が勤められており、旧国鉄(現 JR)の工機部出身の3名の年配の方々と私と年齢が一回りくらい上の個性あふれる先輩方2名でした。国鉄OBの方々は、いかにも職人という感じでわが道を突っ走る感に溢れていました。この一種独特な環境の中で自分なりにやっていけるかとても心配でしたが、皆さんとてもいい方ばかりで、すぐに溶け込んでいくことができました。

当時、機械工学科は2クラスあり、私の担当する実習の中に手仕上げ実習がありました。1年次に2班編成で鍛造と手仕上げ実習に分かれて実施され、手仕上げ実習のほとんどの時間をはつり作業とやすりがけに費やしていました。工場内には長時間ハンマーの音が鳴り響いており、素材が鉄だったこともあり、実習が終わったところには、手や鼻の中が真っ黒になっていました。汗だくになりながら、いかにも体を使って、ものづくりをやっているという充実感があり、今にして思えば、とても懐かしいです。現在の実習工場は、空調設備も完備され、快適な環境の中で、基本的な工作法だけでなく、最新工作機械も導入され、時代の流れに即した内容の実験実習が効率的に実施されており、高専の目指している世界を支えるエンジニア育成の一翼を担っているものと確信しております。

私の在籍している技術室は平成12年度の組織化に伴い、それまで別々だった活動場所を一元化することにより、これまで個人が蓄積してきたスキルを共有できる環境が整い、現在では実験実習等の教育支援に関することだけでなく、地域貢献、研究活動など、様々な業務を円滑にこなしていける部署になっております。これもひとえに、技術室OBの先輩方や技術長をはじめとした技術職員一同の日頃の努力のたまものだと思います。

高専に感謝、人に感謝 定年退職まで、無事に勤めることができましたのも、
鹿児島高専という恵まれた環境の職場とこれまで何かとお世話になりました教職員の皆様のお蔭だと心より感謝しております。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸と鹿児島工業高等専門学校の益々発展を心より祈念申し上げます。

本当に長い間有り難うございました。

平成 29 年度 教育研究功労者表彰

教育研究功労者及び教育研究奨励賞は、本校の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

この表彰者の推薦を各委員及び各学科長等に依頼し、3名の推薦がありました。平成29年12月8日（金）に教育研究表彰選考委員会を開催し、選考の結果、大竹孝明教授、川添敦也教授、油田功二技術専門員の3名が教育研究功労者に決定しました。

一般教育科大竹孝明教授は、永年にわたり地域・産学官連携、広報、理科教育支援及び国際交流の幅広い分野で特に顕著な功績を挙げられました。都市環境デザイン工学科川添敦也教授は技術士第一次試験受験指導及びデザインコンペティション参加を通じ、本校学生の学習意欲の向上に関して特に顕著な功績を挙げられました。技術室の油田功二技術専門員は本校の実習教育に精励し、特に学生への安全管理の取り組みを永きにわたり推進し、事故の未然防止に関して特に顕著な功績を挙げられました。

平成29年度教育研究功労者の表彰式が、平成30年1月26日（金）に行われ、表彰状及び記念品がそれぞれ授与されました。





グローバルな技術者へのロードマップ

副校長（国際交流・地域連携） 塚本 公秀

10 年ほど前までは就職面接で学生たちは「海外赴任がある場合はあなたは行けますか」との質問を受けていました。最近の面接ではこの質問を受けたと聞きません。おそらく聞く必要がないからだと思います。「高専卒は若いから海外赴任に適している」と企業の方から聞いたこともありました。技術職は仕事で海外に行くのは常態化しており、企業でのグローバル対応が進んでいるからだと思います。

一方内定をもらった学生の中には 12 月ころから急に英語の勉強を始める学生が見られます。聞くと「TOEIC ○点（企業に点数は違うようです）持たないと新入社員研修終了後 TOEIC 試験を受けさせられるので今のうちから勉強しています」と言うのです。社内での資格に TOEIC が使われているのは私たち教職員も知っていましたが、内定後に TOEIC の点数を要求しているのはこの 10 年くらいの新しい動きのようです。

さて、マスコミの報道等から国立大学や高専はグローバル対応に力を入れているのは知られてきました。大学への編入試験に TOEIC の点数を推薦条件に入れたり、TOEIC の点数によって学業成績の推薦条件を緩和している大学があります。本校は 3 年前から 9 高専連携事業として九州・沖縄の高専の中心となり学生の海外派遣に力を入れてきました。その結果ですが 3 年生までの研修プログラム数は本校が県内では最大であることも知られてきました。

本校では、昨年から学生の英語コミュニケーション能力を上げるために、海外研修だけでなく多くのプログラムを実施しています。そこで、本校が学生にグローバル教育としてどのようなプログラムを提供しているかを紹介し、参加した学生たちの声をご紹介したいと思います。

4 月 海外研修参加学生による特に低学年生への研修報告会（楽しい海外の話が聞けます）

1 年生 English Camp: 外国人講師による英語だけで過ごす日 海外研修の環境を経験しようとするプログラム
本科生 内容の異なる 3 種類の海外研修プログラムがあります。

1 海外異文化体験 ベトナム、台湾、スウェーデン

2 英語研修 ハワイ、タイ、ニュージーランド

3 デザインキャンプ シンガポール、香港 さらに

に TOEIC の 500 点突破講座があります。

TOEIC の 500 点獲得を目指す希望学生に、放課後を使っ

て半年間の特別講義です。TOEIC の受験を前提にした外部の専門講師による講義です。

本科生と専攻科生 海外インターンシッ

プ 1. 企業インターンシップ

海外の企業（主に日系企業）に 2 週間から 4 週間のインターンシップを経験するもの。 2. アカデミックインターンシップ 海外の大学の研究室や研究所に 2 週間から 4 週間共同研究に参加する。5 年生用に海外の大学の授業に参加するものもあります。

英語論文の書き方講座

卒業研究、特別研究の成果を海外発表をしようとする学生、専攻科生の中間発表、特別研究論文を英語で執筆しようとする学生へ外部の専門講師による講義です。 国際シンポジウム ISIE

本校と海外の大学との共催の国際シンポジウム開催
海外の学生、九州・沖縄の高専生が集まっての研究発表会で、国内外の大学の先生の参加があります。

これらのプログラムでは、海外研修とインターンシップは自己負担が必要ですが、他は TOEIC の 500 点突破講座の TOEIC 受験料以外無料で学生に提供しています。

これ以外に本年度はスウェーデンのストックホルム NIT 校や大学の先生を招聘し、本科生に PBL 形式の特別演習（7 月）を実施しました。内容がゲームで人気のある VR（仮想現実感）/AR（臨場感）であったため 3 回の講義には希望学生が殺到して受講できない学生も出てしまいました。

このように本校学生をグローバルに活躍できる技術者として育成するプログラムを実施しています。

次のページからこれらのプログラムに参加した学生の声を掲載します。本校のグローバル教育の素晴らしさの一端でもご紹介できれば幸いです。

これらの研修の中で、学生たちは海外での授業を受けていますが、この授業は日本の授業と異なりアクティブラーニングや PBL と言われる形式で実施されますので事前の調査や学習、グループワークで進められる新しいスタイルの授業です。

異文化体験報告

情報工学科3年 市川 知春

僕は十時間ほどのフライトを経て、スウェーデンへ海外研修に行きました。僕にとって初めての海外経験でした。福岡空港 (FUK) からヘルシンキ空港 (HEL) を経由して、そこから乗り換えてアーランダ空港 (ARN) へ行きました。十時間で行けるというのは近いのか遠いのか感覚がおかしくなってしまうようですが、少なくとも日本とスウェーデンの時差はサマータイムを入れて七時間もありませんでした。

初めての外国は厳密に言うとトランジットで入国審査をしたフィンランドということになりますが、空港から外に一步も出ていないので、事実上スウェーデンが初めての外国でした。ユーロ圏内では一度入国すると自由に移動できるので、フィンランドで入国審査をしたあとはそのままスウェーデンに入りました。フィンランドの入国審査は指示されて出した帰りのチケットを間違えたり、審査官の英語が聞き取れなかったり、結構焦りましたが、無事に入国できたのでほっとしました。

スウェーデンに入国してすぐに円 (JPY) をクローナ (SEK) に両替しました。入国初日の夕食は班行動でレストランに行くといういきなりハイレベルなイベントがありましたが、英語が得意なクラスメートがレジの人と会話してなんとか乗り越えました。

向こうには炭酸飲料がたくさんあり、炭酸が飲めない僕にはそこが少し大変でした。

スウェーデンの母国語はスウェーデン語で、標識や看板にはスウェーデン語が白い文字で優先的に表示され、英語はその下に黄色い文字で書かれていました。レストランのメニューには英語が書かれていなかったりして、そのときはスウェーデンの学生に翻訳してもらったりして、助かりました。日本人は日本人同士で話するとき日本語で話し、スウェーデン人はスウェーデン人同士で話するときスウェーデン語で話し、日本人とスウェーデン人がお互いに話すときは英語で話したので、言語的に平等だったのが、お互い様という感じで良かったです。僕はスウェーデン語に興味を持つようになりました。スウェーデン語は少し可愛い感じがしました。例えば tunnelbana (地下鉄) は subway よりも可愛い感じがしました。そして英語とは違い、ドイツ語のようによく単語と単語をくっつける傾向にありました。例えば、vattentank (水槽) は英語だと water tank と二つの単語になりますが、スウェーデン語では vaten (水) と tank (タンク) をくっつけて一つの単語にしていました。また Odenplan や Tegnerlunden など駅名や地名は大抵 an や en で終わることに疑問を抱き、スウェーデンの人に聞いて見たところ、それは英語で言うところの the

だそうで、スウェーデン語では定冠詞もくっつけるのかと驚きました。

僕はホームステイでフェリーに乗ってギリнда (Grinda) という島に行きました。スウェーデンにはたくさんの島があり、それはその一つです。あまりに島が多いので島に名前をつけきれないのではないかと思いますでしたが、全ての島に名前は付いているとホームステイ先のお母さんが言っていました。その島には苔やきのこがたくさん生えていました。中でも図鑑でしか見たことのないベニテングタケを見たときは感動しました。「これは毒があるから食べられない」とホームステイ先のお父さんが言っていて、図鑑に書いてあるのを見たことがあるから知っていますと言いました。すると、ホームステイ先のお母さんが「日本語ではそのきのこはなんて言うの？」と聞いてきたので、答えたところ、少し神妙な顔をしました。僕は「ベニは赤、テングは日本のモンスターで、鼻が長くて、このきのこの柄の部分に似ているからテング、タケはきのこという意味があるから、それでベニテングタケといいます。」と説明をしました。すると、「しいたけのタケもきのこという意味ですか？」と聞いてきたので、僕はしいたけを知っているのだと驚きました。

他にもスウェーデンで聞かれた質問には、「北朝鮮についてどう思うか」「政治についてどう思うか」や、「日本の省庁について教えて欲しい」など難しい質問がありました。中でも一番難しい質問だったのは、「日本の警察はどのような割合でどのような種類の仕事をしているのかな。百分率で教えて欲しい。」でした。どなたか知っている人がいたら、僕とその人に教えて欲しいです。普段僕が知らないような分野 (政治や経済など) が日常的な会話に上がってくるというのが、面白かったです。また英語の聞き取りがなかなかうまく聞き取れなかったり言えなかったりしたので、自分はいっと英語を勉強すべきだと思いました。スウェーデンへ行く前には考えられなかったような新たな思考が脳に芽生えてきて、とてもいい経験になりました。



ベニテングタケ

デザインキャンプ報告

電気電子工学科4年 白坂 潤

私が参加したプログラムは、「テクニカルチャレンジ 2017 @香港」です。鹿児島高専からは私のみの参加で、他は熊本、有明、北九州、沼津高専から参加がありました。海外に行くのは初めてで、事前の説明会も最低限のもので、かなり不安な心持で出発日を迎えました。

事前の英語の勉強に関しては、前期から単語を毎日少しずつ憶えた程度で、あとは出発日が近づいたときに、1年の英語演習の授業で使っていたキクタン英会話（海外旅行編）をざっと見直しました。キクタンを見直しただけでも不安はある程度和らぎました。私にとっては、入国審査さえ問題なく通過できれば良かったのです。

私はこのような参加行事では必ず何か問題を起こして、嫌な思いをして旅を終えるタイプの人間でした。小学校の修学旅行では財布を二度なくして先生に怒られ、中学の修学旅行では旅館で茶碗を割ったという事件に巻き込まれて最終的に私が支配人さんに謝りました。しかし今回の11日間に及ぶ海外研修では特に嫌な思いをした覚えはありません。この夏の私はいろいろと準備が良かったからでしょう。香港へ出発する前日に上京した私は、羽田空港の国際線ターミナルでの集合場所を確認しました。事前に実際に行くことで当日慌ててもスムーズに着くから、という狙いでした。しかし、当日は集合時間の1時間前には集合場所に到着していましたが担当の先生（初対面）をすぐに見つけることができず、結果的に10分遅れました。

さて、ついに日本を出発し、香港国際空港に到着しました。ターミナルを歩いてもあまり外国という印象は受けませんでした。案内に英語が使われているのは日本でもよくありますし、中国に接している香港ですから漢字が主に使われていました。一番気にしていた入国審査は一言も話すことなく終わりました。英語どころよりも審査官に素っ気なくパスポートを受け取られて日本は優しい国だと実感しました。他の素っ気ないエピソードとして、日本人の友達とケンタッキーに入店したときの話があります。レジで慣れないメニューを見ながらおどおどしていたらあっという間に店員が私たちの後ろの客に注文をきいていました。審査を終えたら到着ロビーで香港の学生と合流し、バスで中国ツアーに出発しました。香港では第二公用語で英語が使われており、香港の学生は日本の学生より圧倒的に上手に英語が話せていました。少し自信がなくなりましたが、ネイティブな英語というほどではなく、みんなクセが強かったです。

今私が憶えているなかで最初に香港の学生と1対1でまともに会話したのは二日目の中国の古い町並みのテーマパークに行った時です。その学生（：A君）は以前も

そのテーマパークに来たことがあるようで、私にペラペラといろいろ説明してくれました。1割も聞き取れませんでした。今思えばその人の英語のクセはだいぶ強かったです。適当に相槌をうち続けるのも申し訳ないので、ときどき「あれは何？」という感じで質問しました。その学生には父へのお土産としておすすめの中国語の本を紹介してもらいました。



次にたくさん話したのはB君でした。3日目の夜、中国の広州市で日本人の友達とコインランドリーに行こうと思い、香港の学生のうち仲がよさそうな二人組に同行をお願いしました。しかし二人もその街の土地勘はないらしく、コインランドリーには辿りつけませんでした。1時間以上も暑い街中を歩かせてそのまま帰るのは申し訳なかったので、セブンイレブンでお菓子和ジュースを二人に奢りました。帰り道、それまで私とほとんど会話をしていなかったB君に「What's your major?」と話しかけました。その人の専門は建築工学で、空調設備に興味があるようでした。それから会話は続き、非常に有意義な体験ができました。せっかく海外研修に参加しているのだから、もっと積極的に英語で会話しようと思ったとき思いました。

5日目、中国ツアーが終わり、ようやく香港での技術課題プログラムが始まりました。私は偶然近くにいた香港の学生C君をパートナーに誘いました。彼はかなりのオタクで、私よりも日本のアニメやゲームに詳しくかったです。以降の香港滞在において私は何度もC君と外食に行きました。ショッピングモールを歩いているときに、彼から何度「Let's try it.」とか「Just taste it.」と言われたことでしょうか。おかげで私もtryの発音に相当の自信ができました。謎エピソードですが、彼はとあるお持ち帰りのすし屋さんでやたらと日本人である私に「買えば？買えば？」と勧めてきたため、いくつか知っている寿司を買いました。味は普通でした。そして彼は何も買っていませんでした。

香港では夜は街に出かけました。ある日私は日本人の学生と「尖沙咀」地区のチョンキンマンションに行きました。ここでは格安で両替ができると評判です。建物の中はインド系・アフリカ系の男ばかりで、いかにも日本人ばい容姿の友達は度々声をかけられていました。私はどちらかというと東南アジア系の顔つきであるため、一度も声をかけられませんでした。やはり恐かったの

で二度と来たくないと思いました。このプログラムではとても有意義な、楽しい体験をすることができました。英語については、海外経験を積んだという点で自信はある程度つきましたが、その後ほとんど勉強をしなかったせいかTOEICのスコアは下がりました。結局は参加後も調子にのらずに英語の勉強は続けるべきだと思います。

アカデミックインターンシップ報告

建設工学専攻1年 中村 友哉

本年度の夏季休業中、私は本校と包括的交流協定(MOU)を締結しているマレーシア工科大学(UTM)に平成29年9月10日から2週間、土木工学部地盤・交通工学科岩盤工学研究室に所属し、授業や研究活動に専念しました。私が高専に在籍して6年、入学当初は「グローバル化」という言葉は、米国や欧州、日本などの先進国を対象に考えていた言葉だと思っていました。しかし近年の「グローバル化」は、むしろマレーシアなどの新興国へ展開がされています。マレーシアへのインターンシップは英語を学ぶことのみを目的とせずに急速に発展を続ける新興国の活気、多民族国家ならではの国家事情を肌で感じられると思い、今回インターンシップに参加しました。

【マレーシア工科大学の特徴】

マレーシア工科大学はJohor BahruのSkudaiという場所に位置しており、マレーシアで最も歴史ある理工系大学です。また、マレーシアにおけるエンジニアの3分の2を輩出している国立の研究重点大学であり学生数は約3万人と非常に多いのが特徴です。2017年現在のマレーシアの大学ランキングでは2位と非常に名高い大学でもあります。

【インターンシップ実習概要】 私は建設系で岩盤工学を専攻していることから地質工学や物理学の授業や岩盤工学研究室の研究活動に参加させていただきました。マレーシアの公用語はマレーシア語ですが、多民族国家であることから専門科目の授業はすべて英語で行われています。そこで、それまで知らなかったフォーマルな英語および専門的な英語を学ぶ機会を得ました。

また、9月20日にはMini International Symposium in Civil Engineeringが開催され、特別研究のテーマである「岩盤材料の引張強さ計測の精度向上」に関する発表を行いました。他に9名の学生が発表しましたがすべて大学院生でした。先方も日本の高専の実力を高く評価しており、年齢的には学部相当ですが、この発表会では大学院生と同等に扱ってもらいました。

【マレーシアでの生活】 期間中は校内の学生寮にお世話になりました。また、

マレーシアはイスラム教の国でもあるので校内にモスク(礼拝堂)や祈祷室が数多くあります。異教徒の私たちはモスクに入ることを禁じられていますが、学生寮にあるイスラム教のサラート(礼拝)を直接見学することができました。イスラム文化に触れることは私にとって素晴らしい体験でした。また、学内でできた様々な国からの友達は今でももちろん貴重なつながりです。LINEやInstagramですぐに友達になり、その友達を通じて、一人で行くことはできないナイトマーケットや王室のある宮殿など訪れることができました。近年急速な発展を遂げるマレーシアは期待と活気に満ち溢れていました。

また、期間中数多くのアプリが私を助けてくれました。分からない単語をオフラインですぐに表示してくれる「Google 翻訳」、また同様にオフラインでも利用可能な「Google Map」、日本語で海外のホテルが予約できる「Expedia」、スマホ1つで配車してくれる人を探してくれるサービス「Uber」、など最先端のアプリを駆使して効率的に生活することができました。ぜひ今後の参考にできれば幸いです。

【海外に興味のある方へ】 本校はグローバル高専指定校として、様々な取り組み

を行っております。グローバル高専事業とは、世界に通用する技術者の育成を目指し、プログラムを実施する事業です。そのほかにも、夏季休業中には海外研修や海外インターンシップの募集が数多くあります。私自身、実際には英語は得意とは言えません。しかし、現地の学生は気さくに話しかけてくれ、精一杯コミュニケーションを取ろうと努めてくれます。そのような体験で英語の勉強のモチベーションが上がり、学力向上にもつながると思います。気負いにならず、まずは行動することを推奨します。

【おわりに】 本インターンシップを進めるにあたり、堤隆教授には

日頃から進捗を気にかけていただき、またマレーシア工科大学上級講師Dr. Riniには本インターンシップ期間中、多くの御指導御助言を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。パディのBuzriを始め、現地の学生の皆様、家族、高専の学友には御協力ならびに温かい励ましのお言葉をいただき、あわせて御礼申し上げます。



国際シンポジウム参加報告

機械・電子システム工学専攻2年 天磨 智

私はクリスマスの時期に韓国で開催された国際シンポジウムに参加しました。参加したきっかけは些細なことです。昨年は海外インターンシップで中国へ行ったり、鹿児島県青少年派遣事業で香港へ行ったりと、様々なことに挑戦していました。それなら韓国にもついで行ってしまおうという軽い気持ちで申し込んだのです。結論から言ってしまうと、申し込んだ後で後悔したことはありました。英語の論文を書く、プレゼン資料を作る、発表練習をする…。正直面倒だし、英語なんてストレスの塊でしかありません。(少なくとも私は)しかし、それ以上に得られた経験というものがたくさんありました。

ここでは、あえて「苦い」経験を挙げてみようと思います。国際シンポジウムの当日の出来事です。前日にプレゼン資料のチェックや、発表練習を済ませて、自信满满(半分は強がり)で自分の出番を待ちました。私は休憩時間の終わり後の一発目でした。休憩時間中にプレゼン資料のセッティングを行います。

事件が起きたのはその時です。韓国の学生が用意してくれたプレゼン用のパソコンにデータを移し、ファイルを開きます。…動きません。今まで他の学生が発表して

いたのに何故か！私のプレゼン資料だけ上手く動かなかったのです。(原因は、パソコンソフトのバージョンの違いでした)私は結局、プレゼン資料がほぼ無い状態で発表するはめになりました。冷や汗で顔はびしょびしょ、とても恥ずかしかったのを覚えています。人生初の国際学会は最悪だったと断言できます。

これだけ見ると、悲惨ですが、幸いなことに、私はこの経験を次に生かすことができる機会が多くありました。

授業で英語のプレゼンを行ったり、今年度の青少年派遣団員に失敗談として話したり。一度失敗したからこそ、別の機会に自信をもってそれができました。面白いことに、経験が自信となって返ってくるのです。

他にも、今年は就職試験がありました。面接は当然、日本語です。面接が英語でないというだけで謎の余裕が生まれます。海外様々です。

私は、普段の日常生活ではできない経験ができるという点が、海外へ行く大きな魅力だと思っています。皆さんも、ぜひ軽い気持ちで申込書を書いて、海外へ行って、たくさんの恥ずかしい思いをしてみてください。

平成 30 年度の夏季研修プログラムの紹介

	渡航先	日程 H30年	日間	対象学年	最低人数	参加人数 H29	日程 H29年	訪問先	内容の特徴	
異文化交流										
	ストックホルム(スウェーデン)		10	2,3,4	10	7	8/30-9/8	NIT高校(IT技術系)・ウプサラ大学 現地企業	VRの演習、英語の授業参加 秋にNIT高校生が来校時観光案内交流	
	台北(台湾)		6	1,2	10	2	8/22-8/30	台北科技大学	初めての海外研修向きに短期で 大学生徒の交流会	
	ベナン(マレーシア)		8	1,2,3		0	8/27-9/3 9/3-9/10	豊橋技術大ベナン校ベナン	技術科学大学の主催による異文化体験型研修	
	マレーシア(UTM)		14	4,5		1	9/10-9/21	マレーシア工科大学	サウジアラビア大学生の参加プログラム	
語学研修										
	ハワイ(U.S.A.)	9/3-9/17	15	1,2,3年	10	9	9/1-9/15	ハワイ大学 カウアイ・コミュニティ・カレッジ	本校学生でのグループ学習	
	ベルファスト(イギリス)	9/1-17	18	3,4	10		(H30～)	South Eastern Regional College	SERC企画の英語研修 電子工作等のPBL演習の受講	
	クライストチャーチ (ニュージーランド)	9/2-18 9/2-25	17 24	2,3年	10	0	(H30～)	Ara工科大学 語学研修	Ara工科大学企画の英語学習 現地ホームステイ	
	ハノイ(ベトナム)		11	3-5年 専攻科	10	1	9/18-9/28	ハノイ工科大学	ハノイ工科大学企画の英語研修 日系企業(TOTO、マツチ)見学	
	バンコク(タイ)		15	2,3年	10	1	8/20-9/3	カセサート大学	カセサート大学企画の語学研修 学生交流	
デザインキャンプ										
	香港(中国)		11			1	8/20-8/30	香港VTC/IVE	香港VTC/IVEの学生と高専生とのグループワーク	
	マレーシア(ベナン)		15	3,4		0	8/27-9/10	豊橋技術大ベナン校ベナン	技術科学大学の主催によるグループワーク製作	
	UTP-第5ブロック高専			4,5		0		ベトロナス工科大学	(Engineering Team Project・高専のPBLプロジェクト参加)	
海外インターンシップ										
アカデミックインターンシップ										
	ツールーズ(フランス)		28	専攻科		1	2/24-3/26	Paul Sabatier University 研究所	希望する研究所での研究補助	
	モンペリエ(フランス)		14	5		1	2/24-3/14	IUTでの授業参加・デジファブ研修	PBLの授業参加とデジファブ演習	
	ペラ(マレーシア)		28	専攻科		0	9月	UTP研究室配属(大竹先生 化学)	大竹先生の研究室での研究	
	釜山(韓国)		14-24	AMS1・AE11	最大2名	0		デジファブ研修(韓国海洋大 金先生)	ものづくりセンターでの共同研究	
企業インターンシップ										
	サンフランシスコ			S,GS		1	0	グルメマッシュルーム		
	シンガポール		21	AMS1		1	2	9/2-9/24	JELと関連するマレーシア企業	IPCの奨学金による研修
	タイ・KKウォータテック	8月中旬	28	専攻科	2名程度	1	8/21-9/16	タイ		
	9高専連携企業各社							東南アジア各社		

鹿児島高専で得たもの

平成 22(2010)年度 機械工学科卒業 松元 遼太

平成 29 年度の卒業生・修了生の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。鹿児島高専専攻科を修了し、社会人 3 年目になった皆さんの先輩として、お祝いの言葉とさせていただきます。



簡単に私の経歴を紹介させていただきます。

2011 年 3 月 機械工学科卒業

2013 年 3 月 専攻科 機械・電子システム工学専攻修了

2015 年 3 月 九州大学大学院 総合理工学府 大気海洋環境システム学専攻修了

2015 年 4 月 AGC 旭硝子 生産技術部 就職 現在私は、AGC 旭硝子という会社でガラス成形用のプラントの開発や建設などのエンジニアリング業務を行っています。入社してから自動車ガラスプレス装置の開発や、中国の新工場建設プロジェクトを担当するなど、がむしやりに働いています。

AGC 旭硝子は、ガラスやフッ素系素材を生産する総合化学品メーカーです。あまり聞きなれない会社かもしれませんが、皆さんがお持ちのスマホや PC、液晶テレビ、自動車、建築物等、様々なところで使用される素材を世界中に提供しています。100 年以上の歴史がある良い会社です。在校生の皆さん、ぜひ面接にご応募ください！

私は、鹿児島高専を卒業できた誇りを、社会人 3 年目になった今、ひしひしと実感しています。

私も学生のころは皆さんと同じように、5 年間級友と寝食を共にし、3,4 年次は週 1 地獄に苦しみ、テスト前日は激辛でたえ、毎日部活動に励みました。しばしばオーバーオヘンして天降川に釣りに行ったものです。

世間一般の青春とは無縁の高専時代を過ごし、現在に至るわけですが、これらの経験が社会を生きるうえで、さらに仕事をするうえで、非常に大事な経験だと今は胸を張って言えます。下記に代表的な例を挙げます。

5 年間の寮生活→どこでも寝食が可能な頑丈な体を形成。アジア諸国の出張に行っても No Problem。

朝の挨拶運動、応援団の経験→人前で物怖じしない度胸やガッツが身に着きます。(朝の挨拶運動がなくなったと聞いて非常に残念でなりません)

3,4 年時の週 1 → 一夜漬けで何とかしのぐ火事場のバカ力 (たまにどうにもならない時もあります)

5 年時の卒業研究→短期間で、分らないなりに、何かしら形にすることができる力

1 年から 7 年生 (専攻科生) 多様な人材 → 分け隔てなく人付き合いできるコミュ力。

専攻科 2 年の専門教育→大学院の講義にも遜色のないレベルの知識を習得できます。コストも安い！さらに大学院にも行くことが出来ます。

5 年間同じ学び舎で過ごした級友 → 一生の友人 皆さんが就職した場合、社内外含め、有名大学院を出た社員、あるいは高校卒業の経験豊富な、優秀な社員たちと一緒に仕事をするようになります。そのような環境で一技術者として技術で利益を出したり、生産性を上げたりして業績を出さなければなりません。しかし、心配ご無用！我々は高専生活で数多くの素晴らしい経験を得ています。先ほど述べたように、専門的な教育もさることながら、自分でモノを作ったり、援団で鍛えたりして得た根性を武器に、十分に戦っていける素養を身に付けているはずです。実際に在学中は問題児？だらけだった機械工学科の我々も、海外を飛び回り、開発で結果を出すなど、華々しく活躍しています。(渡辺先生、田畑先生、在学中は大変お手数おかけしました...)

ただし、未熟な面も数多くあることを忘れてはいけません。私が社会に出て苦労していることを紹介したいと思います。身に覚えがある方は、ご参考ください。

ねずみ講、ネットワークビジネス、宗教勧誘には気を付けましょう。鹿児島と違い、都会には実に様々な人がいます。美人や人当たりがいい人が、急にセクハラなどの話を持ち掛けてくることがあるので要注意です。

IT リテラシーを高めましょう。エクセル、パワーポイント、CAD、Skype 等のガジェットは使いこなせるようにしましょう。ショートカットキーも確実に覚えておきましょう。

ブラインドタッチは必須です。タイピング速度を速めることは、仕事のスピードを上げることと直結します。

教養を身につけましょう。業務連絡はメールが主です。文章校正能力、ビジネスメール形式や敬語等学びましょう。また歴史、小説、地理や鹿児島のご当地初は、社内・社外含め多くの人たちと会話の初になります。英語、中国語も話せれば、さらに世界が広がるでしょう。

常に相手を思いやり、謙虚さを持ちましょう。会社は多くの方々の働きにより成り立っています。我を通すだけでは仕事は回りません。高専生の純真無垢な素直さを忘れないようにしましょう！

最後に皆さんに伝えたいことは、高専 5 年間で過ごした級友は一生の友人だということです。

社会に出たら、天を仰ぎたくなることが沢山あります。息詰まった時は、級友と飲みに行ったり、連絡したりすることで、きっと勇気づけられるでしょう。

以上、社会人 3 年目でおこがましい内容でしたが、皆さんへの励みの言葉として、締めさせていただきます。

人と人の繋がりを大切に！

電気電子工学科 36 期生（2003 年卒） 鹿児島
テレビ放送 株式会社 川上 孟法

私は、現在 KTS 鹿児島テレビで技術の仕事に携わっております。社内の 200 台以上ある PC のネットワークの運用や鹿児島ユニテッドなどのサッカー中継・春の高校バレー中継など様々な業務を担当しております。また、地震や台風などの災害があった時には、いち早く映像として情報を視聴者に届けるのが私たちの使命として業務に従事しております。



高専を卒業し 15 年が過ぎようとしていますが、人生での一番の財産は「人と人との繋がり」です。高専では高校よりも長く先生方や友人と時間を過ごします。在校生の皆様は今のうちに友人や先生とたくさん関わり、「絆」を深めてください。

私は、5 年時担任の加治屋徹美先生と今でも親交があります。28 歳の時、北海道情報大学という通信制の大学に編入したのですが、その入学のための資料作りに対してご支援をいただきました。そのような「繋がり」が縁で高専の在校生を前にした OB 講演などに声をかけていただいております。今度は、私自身が転職での経験、大学編入などの経験をアウトプットする番だと思って取り組んでおります。高専 5 年時に、進学でなく就職を選んだ私が申したいのは進学か就職かを迷っている方は、この先自分がどんなことをしたいか、どのような生き方をしたいのか、今一度見つめ直してほしいということです。私は、これまで 2 回転職しているのですが学歴が問われることは避けられませんでした。今では、大企業であっても不安要素があり、転職が当たり前になってきている世の中なので、学生の皆様は物事を多面的に捉えながら今後の進路を決めてほしいと思います。高専卒業後、最初に就職した会社では、J リーグやプロ野球などのスポーツ中継を行っていました。その経験を活かして、現在働いている KTS でもスポーツ中継の際にその経験が生かされています。現在でもスポーツ中継について、分からないことがあるときには昔の先輩や後輩に相談しています。学校も社会も昔からの付き合いがすべて繋がっているのです。学生のみなさんも勉強が分からずに困ったら、迷うことなく友人や先生に聞けばいい、どんどん人に甘えればよいのです。大切なのは「そこに飛び込む勇氣」です。それがコミュニケーション能力でもあります。そうすると今度は自分が還元する番が回ってきます。そのときに、自分に何ができるかを考え恩返しすればよいと思います。

在校生の皆様へ

平成 26 年電子制御工学科卒業 西村 優作

皆さんこんにちは、初めまして。私は平成 26 年に電子制御工学科を卒業した西村と申します。

私の紹介をさせていただきますと、卒業後にキヤノンファインテックニスカ株式会社に入社し、調達と呼ばれる部門で、コストダウンと製品の開発段階の製品原価コストの試算を行っています。仕事は傍から見れば事務職ですが、実は技術系の知識が無いと出来ない仕事です。日々、会社で勉強をしながらより良い結果を追い求め頑張っています。

卒業してから早 4 年が経ちますが、社会人になっても常に勉強が必要だなと感じています。私の業務は製品原価のコストの試算やコストダウンですが、実は結構奥が深い業務です。製品を動かすには、心臓部である集積回路を積んだ実装基板や、人間に例えると神経に当たるハーネス、関節に当たるモーターなど様々な電気部品がありますが、その中でも、実装基板とハーネスのアセンブリ工程を分析して、その基板やハーネスの目標コストを算出したり、分析した結果をもってアセンブリ工程を委託している取引先に見積からコストダウン交渉を行ったりしています。業務遂行のために日々、知らない事に触れ、勉強し、会社業績への貢献を続けています。

つまり、私が皆さんにお伝えしたいことは、高専を卒業することが終わりではなく、皆さんは人生のスタートラインに立ったばかり、ということです。大学や専攻科への進学、企業への就職などこれからの皆さんは新たな人生を歩んで行かれます。その新しい道を歩むということは不安に満ちたことだらけかと思います。ですが、何事も恐れずに、興味を持って学び、新しい「何か」を身に付け、自分の武器にして、日々邁進していくって欲しいと思います。

また勉強か、と思った方もおられると思います。私自身、学生時代は勉強嫌いでしたし、皆さんの中にも義務感で勉強をされている方が少なくないと思います。ですが先にお伝えした通り、社会人になっても常に勉強をなくてはなりません。そこで面倒臭いや、分からないなどと投げつけてしまっただけでは自分のためにはなりません。色々な事に視野を広げて興味を持ち、先輩から沢山の事を学び、自分の力にすることが、これから皆さんがそれぞれ歩む道で一番大切な事だと思います。

これからの皆さんの人生はまだまだ長いです。社会人になっても勉強という話ばかりでしたが、業務の事以外にも視野を広げて興味を持って、楽しんで下さい。失敗することもあると思いますが、きっとそれが糧になり決して無駄にはならないと思います。最後まで悔いの無い学生生活をお過ごし下さい。

在校生の皆様へ

平成 26 年情報工学科卒業 室屋 知佐
(平成 28 年電気情報システム工学専攻修了)

初めまして。私は 7 年間高専に在学し、2 年ほど前に卒業しました。現在は、県内で社会人生活を送っています。

卒業生として原稿を書く機会をいただき、社会経験浅はかな私が何を書いたらいいのかと悩みました。悩んだ挙句、高専の勉強について書いてみようと思います。

高専の勉強はとても特殊です。いわゆる一般科目の勉強をしながら、各工学学科の専門分野の勉強もするからです。中でも専門分野の勉強は、難しく、苦しいと感じる時が必ずと言っていいほどあります。目に見えない小さな世界を表した、数字と記号の羅列を理解しなければならないので。私は、一般科目と工学の分野の勉強を並行で学び切ったこれまでの卒業生、そしてまさに今学んでいる現役高専生はとても優秀だと思います。

そもそも、勉強は何で大変なんだろうと考えているうちに、私自身が中学生のときに抱いていた、歴史の学習に対する不満を思い出しました。私は、昭和時代に生まれた自分の親は、昭和から平成の歴史を覚えなくてよかったのだから少しずい、と思っていました。平成に生まれた私は、親が歴史を勉強したときより、多くのことを覚えなければならない、と。

ところで、これは歴史だけに限ったことではないと思うのです。特に工学は、100 年も 200 年も、何百年をもかけて、コツコツと積み重なってきたものが現在の技術や製品に繋がっています。その膨大な量の研究成果を 5 年にぎゅっと凝縮して学ぶのですから、大変なもの納得です。しかし、今日の工業技術は、昔に比べてハイなスピードで、更に進化し続けています。何十年か先の未来に工学を学び始める後輩たちは、私たちよりもっと多くのことを勉強しなければならないと思うと、少しラッキーかな、という気持ちも湧いてきます。

おそらく、私たちがそうであったように、勉強で苦しんでいる人たちはたくさんいると思います。少しでもその気持ちが楽になれば、と思い、工学から少し離れたところで働いている者として、正直な気持ちを書いてみました。私は工業に直接関わる仕事ではありませんが、高専での勉強は無駄じゃなかったと思っています。不思議なことに、7 年情報工学を勉強したからか、やはり工学に興味があり、ふと偶然、見覚えのある工学用語を見て嬉しくなることもあります。現役高専生のみなさんにも、そういう日がすぐ来ると思いますので、その日を楽しみに、ぜひ乗り切ってもらいたいです。応援しています！

出会い、経験

平成 22 年 3 月卒業 土木工学科 宮内 優人

私は、鹿児島高専の土木工学科を卒業し、東海旅客鉄道株式会社（以下「JR 東海」）へ入社しました。現在は、JR 東海において、中央新幹線建設の業務に従事しております。

学生の頃を振り返ると、たくさんの仲間に出会い過ごした素晴らしい思い出がうかんできます。私は、熊本県立天草工業高等学校を卒業し、鹿児島高専の 4 年生に編入しました。編入したところは専門科目など難しい授業内容、その授業を平気で受けているクラスのみんなを見て相当戸惑いました。しかし、そんな私に声をかけ励まし、相談をすればひとつひとつ丁寧に教えてくれた友人たちのおかげで授業にもついていけるようになり、その後は自分の考えと友人の考えを出し合いながら切磋琢磨し、卒業まで勉学に励みました。

また、部活動はハンドボール部に所属しました。仲間と笑い、汗を流し、良い結果を目指しチーム一丸となって打ち込んだ日々を思い出します。

このように鹿児島高専では、素晴らしい仲間や友人に出会い、互いに日々刺激し高めあうことで自分自身のベースとなるものをしっかりと作ることができたと思います。そして、このベースは現在の会社生活においても非常に重要なものとなっています。

現在、私が JR 東海で従事している中央新幹線建設のプロジェクトは、東京～名古屋～大阪を結ぶ新たな日本の大動脈を作るという一大プロジェクトです。このプロジェクトを推進するためには、単に構造物の計画～設計～施工というステップを進めるだけではなく、それらを行うために必要な各種調整をはじめ、周辺環境対策、用地取得、法令許可、地元説明等ありとあらゆることを社員自身が考え実行していくことになります。しかし、そのすべてを社員一人の力で進めることは決してできません。様々な専門性をもつ社員同士が、相手のことを思いやり、力を合わせながら協力してひとつひとつの業務を実施していきます。

これまでの私の経験からも、自分自身の思い・仲間の思い等様々な人の思いがまとまった結果、実際の構造物として形になったときの喜びは、とても素晴らしいものです。

このように、仲間と物事を進めていく力やチームワークは、私が業務を遂行する上で非常に重要なものとなっており、そこからはとても大きなものを得ることができています。

学生の頃に培い経験できる、専門的知識をはじめ、仲間と協力し物事を進める姿勢やチームワーク等は、学生生活を終え社会に出たのちも自分自身にとって非常に大切なものとなるはずです。皆さんも学生生活をおくるうえで、勉学はもちろんですが、仲間との出会いそこから得られるたくさんの経験を大切にしていいただければと思います。在学生の方は、残りの学生生活を精一杯楽しめ、良い経験をたくさんして 下さい。

直向きに研究を頑張りましょう！

平成 27 年度 機械・電子システム工学専攻修了
山下 翔伍

はじめまして、私は専攻科を修了後、大学院進学をし、現在は東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻の修士 2 年に在籍しています。在籍している人間環境学専攻は工学系全般を取り扱う専攻で、その中で私は、熱流体工学系の研究室で可視化技術の研究を行っています。鹿児島高専からの進学実績も多くある専攻なので、興味のある方は、専攻科の進学担当の先生の所に行き、先輩方の受験報告書を見ると良いと思います。今回は、成長意欲はあるが、頭が良くない学生さん向けに私の経験を紹介したいと思います。自慢話ばかりですがお付き合いください。

さて、みなさん、東大と聞くと「頭が良い人しか入れない」と思われると思いますが、東大“大学院”受験の場合、難易度は全然高くありません。事実、高専時代の私は勉強が嫌いで、成績としてはいつもクラスの真ん中の順位でした。大学院は研究をメインに行う場なので、頭の良さよりも研究意欲の高さの方が受験時には重要視されるように思います。なので、本科 5 年の頃から一生懸命研究を頑張っている人であれば、合格するチャンスは大いにあります。幸い私は、研究“だけ”は頑張っていたので合格できました。入学してみて強く感じることで、やはり東大には一流の教授陣と優秀な学生が多くいるため、質の高い知識経験を得る機会が非常に多くあります。そのため、成長意欲のある方にとっては飛躍的に成長できる最適な環境だと常々思います。

また私は、この夏に大学院での就職活動を終えたのですが、高専出身の東大生という経歴は、就職活動で非常に有利だと感じました。就活中に人事の方から伺った話だと、企業は東大生に対し「頭を使う作業は得意だが、手を動かす作業が苦手」、高専生は「手先が器用」といった印象を持たれているようでした。そのため、高専出身の東大生というのは「手先の器用な東大生」として重宝して頂けました。それに加え、これまでの高専や東大での長い研究活動を通して鍛えた論理的思考力で、自分を簡潔かつ的確に面接でアピールすることで、高専からでは就職できなかったような大手企業からの内定を複数頂くことが出来ました。

私は頭が良くなかったものの、日本一の大学を夢見て、研究を一途に頑張ってきました。そして、進学後は日本一の企業への就職を夢見て、さらに研究を頑張りました。その研究活動への取り組みが功を奏して、結果的に進学も、就職もうまくいきました。もし今、成長意欲はあるものの、「自分は頭が良くないから…」と進学を諦めている方がいましたら、まずは専攻科へ進学すると思います。そして、直向きに研究を頑張る、成長してください。後輩のみなさんの進路選択が充実したものになることを願っています。

在校生のみなさまへ

平成 20 年度 電気情報システム工学専攻修了
榎 紘平

在校生並びに保護者の皆様、こんにちは。本校専攻科を 2009 年に修了いたしました榎と申します。現在はソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社（以下 SGM0）にて働いております。鹿児島高専の近くには、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社の鹿児島テクノロジーセンターがありますが、こちらは半導体を主力としたデバイス会社になります。対して SGM0 はソニーの最終製品（例えばテレビ、デジカメ）を担当している会社となります。製品の生産拠点も世界中にあり社名の通りグローバルに働くことができる会社です。詳細に関しては会社のホームページなど確認して頂ければと思います。

私自身は現在製品の量産維持や新機種の立ち上げに関わる仕事を行っています。関わった製品が世の中で使われているのを見た際には嬉しい気持ちになります。

就職にて東海（愛知県豊橋市）に移動して早 8 年になり、最初は不安もありましたが、『住めば都』という言葉にもありますとおり、慣れてしまえば住む場所が変わっても不安はないかと思います。

高専だよりの依頼を受けまして何を書けばよいか考えましたが、ぜひ学生の間に行っておいて欲しいことを私なりにまとめました。社会人からのメッセージとして参考にして頂ければと思います。本を読む癖を付けて下さい！

私自身が読書する習慣ができていませんが、就職しても知識をつけることは必須です。実際の業務の中でも機器のマニュアルを読むことは多くあり、内容を早く理解するためにも読解力を高めて下さい。外国に行きましょう！

私自身就職してから初めて仕事で海外に行きました。国外を知るのと知らないのでは大きく違います。（振り返ると）自由な時間の多い学生の内にアルバイト代を使ってでも一度海外へ行くことを勧めます。英語力を高めて下さい。

就職すれば否応なしに海外と関わる機会が出てきます。日本にいと困りませんが、海外では会話で意思を伝えることができないと歯がゆい思いをします。必要に迫られて勉強を始めるのも 1 つですが社会人になると学生以上に大変です。（本稿は出張先のマレーシアで書いております。）

学生生活は振り返ると思った以上に短く、社会人になると更に短く感じます。有意義な日々を過ごして下さい。

後輩のみなさんへ

平成 23 年度 土木工学専攻修了

平賀 祐朝

私が鹿児島高専専攻科を修了し、はやいもので約 6 年が経過しようとしています。

今回、高専だよりの執筆依頼を受けましたので、私の今までの経験を基に皆様へのメッセージを記してみたいと思います。

私は現在、北海道の道東にあります遠軽町にて土木担当として町のインフラ整備等に係る仕事に従事しております。なぜ北海道に？と思われる方もいらっしゃると思いますが、専攻科卒業に民間会社に就職し配属されたのが北海道の遠軽町にある事業所でした。働いているうちに町の事が好きになり、転職して今に至ります。

まず、私の住む遠軽町について簡単にですが紹介させていただきます。オホーツク管内のほぼ中央に位置しており、人口は約 2 万人、『機動戦士ガンダム』のキャラクター デザインを務めた安彦良和さんの出身地でもあります。海には隣接しておりませんが、30 分ちょっと移動するとオホーツク海を望むことができます。この他に網走刑務所で有名な網走市まで約 1 時間 30 分、有名な動物園がある旭川市まで約 2 時間で行くことができます。私の仕事についてですが、主に公共事業を発注する仕

事を行っております。簡単に言うと、道路をいくらずで作れるか？橋をいくらずで修繕できるか？労務費や材料費等を積み上げていき工事の金額（施工費）を積算する仕事です。当然、無駄にお金を使うことはできません。その為、最小限の費用で最大の効果が仕事のモットーになります。また、発注後には、設計した通りに工事が施工されているか工事監督も行います。そのため、さまざまな土木の知識が必要となります。

私は学生時代、廃水処理等の環境関係の研究を行っていました。橋梁や道路については、授業で学んだ程度です。それでも今、この仕事ができているのは、学生時代に、諦めずに挑んできたからだと思っています。

専攻科まで進みましたが、私の成績は決して良くありませんでした。成績は常に 5 本指（後ろから）体育以外すべて赤点なんてこともありました。それでも、分からないことは調べ、友人や先生に聞き、理解しようと努めたことで、今でもうっすらと覚えています。

聞いた事がある・見覚えがある、それだけですが、知らないよりは取り組み易い。私が今の仕事をしていて一番感じていることです。

高専生活の中で得るものは社会人になってからも必ず役に立ちます。様々な事に全力で挑戦して下さい。そしてこれから社会で闘っていく力を身に付けて下さい。

最後に、遠軽町は大きな町ではありませんが、自然も多くおいしい物もたくさんあります。卒業旅行などで北海道に来た際はぜひお立ち寄りください。



広報委員会の活動報告

副校長（国際交流・地域連携） 塚本 公秀

まずは本年度より広報委員長を交代いたしましたことをお知らせします。長年担当されていた大竹教授から引き継いで、限られた予算でより効果的な広報を努めております。

副校長補佐の保坂教授、入試広報担当の幸田教授、総務係・企画係とで本校の広報を担当しております。今年度から委員会は特に本校への入学志願者への適切な情報を提供しようと、新たに入試広報に力を入れております。これは最近の少子化の影響で鹿児島県は他県より中学卒業生が減少しております。より多くの中学生に本校を目指してもらいたいと中学生への広報に重点を置いております。

本校の広報活動としてはインターネットを介して多くのアクセスがあるホームページの運用があります。また鹿児島市内の中学生以下の子供たちを対象として、鹿児島高専の状況を知っていただくためにアウトリーチとして鹿児島市立科学館で開催している「鹿児島高専の日」の実施があります。さらに県内広く本校の行事などを紹介していただけるように新聞各社への記事情報の提供などもあります。みなさまが今読まれているこの「高専だより」も本校保護者の方々だけでなく県内の中学校や企業をはじめ本校への求人に来られる企業の方々へより詳しく本校を知っていただける情報誌として毎年1,500部を発行しております。このほか、隼人駅に本校の学生や教職員の姿をポスターにして開催行事の広告を出しております。

また、18年間も開講しております「ニューライフカレッジ霧島」を霧島市教育委員会、志學館大学と本校とで開催して地域の活性化にも寄与しております。

本号では紙面の都合もありますので、本年度実施しました「鹿児島高専の日」、「ニューライフ霧島」、地域企業の皆様に海外から招聘した講師による特別講演「VR/AR 演習」の内容をご報告します。皆様のご支援や参加をお待ちしております。

高専生と教職員による「鹿児島高専の日」

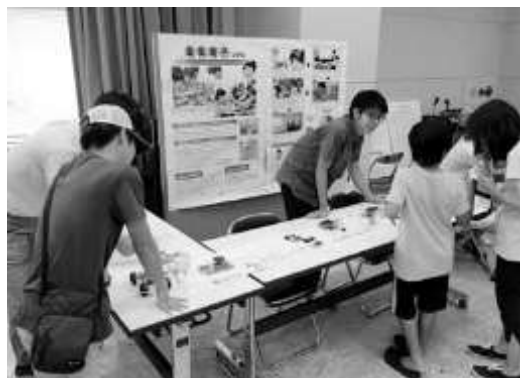
鹿児島高専と鹿児島市立科学館との共催で毎年小中学校が夏休みの日に実施しています。本年は、8月20日に実施しました。本校吹奏楽部顧問でもあります幸田教授によるロボットとのフルートの共演をメインイベントとしました。専門学科の紹介を各科の学生が楽しい“もの”を持ち込んで工学技術って楽しいよと説明しました。

また、高専の学生たちが手伝って小学生に楽しい工作を提供する2つのブースでは、サッカーボールの工作、発泡炭酸の泡で飛ばすミニロケットの工作を行いました。

当日はMBCのポニー号も取材に訪れて、学生たちのメッセージをラジオで放送してくれました。



音楽ロボット演奏



学科展示



サッカーボールをつくろう



しゅわしゅわあわロケットで宇宙へ！



進路相談コーナー・学校紹介



第8回講座「若者力・英語力・地域力」

「ニューライフカレッジ霧島」

志学館大学生涯教育センター、霧島市教育委員会・と本校との共催で開講しております「ニューライフカレッジ霧島」も今年で18年目になります。今年度のテーマは「若者につなぐ地域の活力」として10回の講座が開講されました。この講座は本校の立地している霧島隼人大学の保坂教授が担当して毎回の講演は好評を得ております。

準入学 若者につなぐ地域の活力

お申し込み・お問い合わせ

定額 2,500円(年額)
定員 70名(先着順)
申込締切日 4月24日(月)

1年間の連続講座(全10回)です。どなたでも受講できます。

回次	日時	講師	会場
第1回	5月13日 9:30~12:00	霧島は美しいー若手就業者の挑戦ー ことば・言語・文化 斎藤 孝志 氏	国分公園
第2回	6月10日 9:30~11:30	地域発達の若者参画ー霧島の地で出来ることー ブルーワグ・シンガー 伊藤 久雄 氏	国分公園
第3回	7月8日 10:00~15:00	午後の部:地域の産業とは、いま 午後の部:すこいぞ、図書館によるまちづくり 志学館大学 保坂 孝子 氏 / 志学館大学 宇野 浩二 氏	志学館大学 (鹿児島校)
第4回	8月19日 9:30~11:30	世代を超えた子育て支援の地域力 高木 孝子 氏 / コミュニティ・アカデミー 代表 斎藤 孝志 氏	国分公園
第5回	9月9日 9:30~11:30	「郷中教育」と「西郷隆盛の経緯」 西郷隆盛 斎藤 孝志 氏	国分公園
第6回	10月14日 9:30~11:30	YOUはなんこて霧島へ? ガソリンスタンド・観光客・パドル・ハット 氏 / フランス料理店・オーダーシェフ・パティシエ 氏	鹿児島高専
第7回	11月11日 9:30~11:30	地域企業の活力ー鹿児島高専にあってー 株式会社鹿児島製作所 代表取締役 佐藤 正典 氏	鹿児島高専
第8回	12月9日 9:30~11:30	若者力・英語力・地域力 鹿児島高専 教授 斎藤 孝志 氏 / 鹿児島南高等学校 宇野 浩二 氏	鹿児島高専
第9回	1月13日 9:30~11:30	地域資源を活かすー竹とこー ^{ピー} MAK 181 C O F F E E 佐藤 孝志 氏	鹿児島高専
第10回	2月10日 9:30~12:00	若者につなぐ地域の活力 コーディネーター 志学館大学 教授 保坂 孝子 氏 開講式	鹿児島高専

主催 志学館大学生涯教育センター・鹿児島県工業高等学校・霧島市教育委員会

ニューライフカレッジ霧島ポスター

「VR/AR 演習」

VR/AR とは仮想現実感とか拡張現実感とのことです。HMD という眼鏡をかけてコンピュータで構築した3次元の世界に入り込んで仮想の世界を体験できる装置です。

ゲームで楽しんでおられる方も多いと思います。2016年はこの技術が応用されて世界中で使用され始めたとしてVR元年と言われています。日本の産業界でも自動車メーカーでは開発設計では運転席からの視界の確認や、組立ラインの作業教育に使用されています。

この技術をスウェーデンの大学、高校の先生を講師に招待して、本校の学生やKTC 会員企業の方に演習授業を開講しました。新しい技術の体験、仮想世界の製作を経験していただきました。



「VR/AR 演習」



企業の方によるVR/AR 体験風景



高専生の親として

後援会 会長 片平 勇人

会員の皆様には、日頃より後援会活動に、ご理解ご協力いただき心より感謝申し上げます。

後援会理事として最後の年に会長の大役を引き受ける事になりました。思い返せば、次男の入学を機に都市環境デザイン工学科の理事を自ら進んで引き受けました。当時、長男も同学科に在学しておりましたが、成績の方は回れ右をしたら優秀だったので、学校の事を理解し『五年間で無事卒業出来るように親として頑張ろう。また、理事の皆さんから色々教えていただこう』と思って、後援会理事会に入りました。お陰様で先輩・同級生の理事さんに高専生の親として必要なイロハを教わりました。

高専には、兄弟が高専生、保護者が卒業生というように『高専あるある』がたくさんあります。前述の方々は、高専の事に詳しく多少の事にも動じません。しかし、初めて高専生の親となった方は『高専とは』と途惑う方が多いと思います。私がそうでしたので、私の経験談からのアドバイスを簡単に述べさせていただきます。

総会や支部会には是非出席をお願いいたします。理由は直接学校から情報を聞く機会は、この2回しかないからです。1. 支部会での卒業生の話を聞くと、学校・寮等の高専

生活の様子が理解でき、また、進路等の内容も聞けて不安が和らぎ心強くなります。

2. 総会での個人面談はなるべく希望しましょう。担任と学校と家庭の情報や進路について共有することは重要です。

3. 総会と支部会での三主事（教務主事、学生主事、寮務主事）の話を聞く事は、学校の取り組みや現状を知る上ではとても大事です。

4. 支部会での各学科長の話から、学科毎の取り組みや毎年の学生の進学・就職状況を知っておく事が良いでしょう。

5. 保護者懇談会にも参加してください。3年前から保護者の不安、疑問に思っている事を、気軽に相談していただけるような場を設けています。先輩保護者からアドバイスをいただけますので、意外と皆さんに好評です。まだまだ書き足りないくらいですが、この5つに出席

して話を聞き、学生を後ろから見守ることが良いと思います。我が子が進学した学校について、親として理解し少しでも支援してあげることが大事です。学生は五年間で自立心が芽生え、見違えるように成長します。我が子を信じて、校則に反しなければ色々な事にチャレンジさ

せましょう。高専は多様化する社会に対応するため、色々な事に

チャレンジし、学生もその事に順応していきます。私たち保護者も乗り遅れないように、後援会活動を有効に活用してください。役員だけの参加でなく、保護者全員が積極的に関わる事で後援会が活性化し発展できていくと思いますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

最後に、副会長の方々、常務理事、理事の皆様方、そして会員の皆様方、会長として力不足でしたが、色々とお助けていただいて感謝申し上げます。また、後援会顧問

の校長先生をはじめ、三主事の先生

方、事務部長、学生課長、そして教職員の皆様方、様々な課題に共に一生懸命取り組んでいただき誠にありがとうございました。

今後とも、学生の支援と後援会をより一層よろしくお願い申し上げます。鹿児島工業高等専門学校と後援会の更なるご発展と輝かしい未来を期待しています。

後援会理事を経験して

後援会 副会長 川路 昭典

後援会の理事として、はや4年が経過しようとしています。平成29年度は副会長という大役をさせていただきましたが、最初は自分にできるのかと非常に不安でした。会長さんをはじめ、理事の皆さんと先生方の御指導により、不慣れではありましたが無事に1年間乗り越えられそうです。

これまで約4年間理事を経験して高専に関する様々な情報を知ることができました。理事会においては校長先生や各主事の先生方にそれぞれの立場で学校生活の状況を教えていただき、意見交換をすることにより学生生活の内容が見えてきます。3役会におきましては会長、常務理事を中心に学生活動の様々な支援の詳細について検討を行います。保護者の皆様におかれましてはご意見や疑問点がございましたらいつでも後援会までご連絡下さい。

さて、世間では少子化が叫ばれていますが、近い将来多くの大学や専門学校が入学減少により統合や閉校に追い込まれることが予想され、高専においても県内の子どもの減少により受験者の減少がくると考えられます。他の学校や企業においても空前の売り手市場から、優秀な人材に来てもらうために魅力ある環境づくりや様々な改革を行っていると思います。鹿児島高専においてもこれまで学科再編や地域と一体となった事業の取り組み、海

外インターンシップ等、社会の変化に遅れることのないよう常に改革を展開されています。これは後援会においても同じであると思います。保護者の皆様方から頂いた限りある貴重な会費をいかに学生の活動の支援のために使うか大事な役割を担っています。鹿児島高専の伝統を守りながら学生の様々な活動やチャレンジを支援していくことが後援会の役割です。高専はほかの高校にはない自由な校風があり、これをどう生かすかは学生自身であり、思うだけではなく失敗を恐れずに行動に移してもらいたいと思います。後援会は未来の鹿児島高専のために斬新なアイデアや取り組みを支援していきます。新たな鹿児島高専を作り出してください。

最後に、日ごろより鹿児島高専発展のためにご尽力されている校長先生をはじめ、先生方に感謝申し上げます。

高専で得たもの

機械工学科5年 理事 吉永 百代

5年前、息子が高専に入学した時の事を思い出しながら書いています。

入学時には「この学校で5年間過ごすんだ。5年間は長いな。勉強はついていけるのかな。クラスメイトとはうまく打ち解けられるのかな。」と親としては不安だらけでした。でも、親の不安とは別に息子はすぐに馴染んだようで一安心しました。

部活は中学から引き続き水泳部に入部しました。1年から専攻科2年まで異年齢なので先輩方には水泳のことはもちろん、勉強のこと、遊びのことなど色々教えてもらいました。合宿やキャンプ、歓迎会、送別会など練習だけでなく行事を通して人間関係も深まりました。2年・3年・4年の時は全国大会にも出場し、努力すれば結果が出ると実感しました。部活での縦の繋がりは先輩方が卒業してからもずっと続いているので一番の財産になったと思います。これからは関係が続いてほしいです。

応援団は1年から4年まで参加しました。1年の時は覚えることの多さに戸惑っていましたが、先輩方にやさしく教えてもらい筋肉痛に耐えながら頑張っていました。体育祭の本番を見たときはとても感激しました。4年の時は責任感を持ちながら1年の頃に先輩に教えてもらった様に下級生に受け継いでいったと思います。学科の繋がりを感じた瞬間でした。

3年の夏休みにはハワイの語学研修に参加しました。苦手な英語でのプレゼンテーションも一生懸命練習して

いました。ホームステイ先もボディビルダー夫婦のお宅で、早朝からジムでトレーニングから始まったそうです。日頃の生活とは違って貴重な体験ができました。帰ってきてから報告会があり、先生方が写真やビデオを見せてくださいました。人前で堂々と英語で話している成長した息子の姿を見てとてもビックリしましたが、とても嬉しく思いました。

15歳から20歳までの大事な時期にこういう貴重な経験を沢山させてもらい、心身共に成長した高専生活でした。

卒業したら自動車関係の企業で技術者として働くことになります。高専で得た専門知識や実践力、コミュニケーション能力、責任感、協調性などを存分に活かして社会人として羽ばたいてほしいと思います。

雑 感

情報工学科5年 監査役 下吉 靖孝

鹿児島高専には二男・三男坊と二人お世話になった。平成17年から5年間、平成25年から5年間、計10年間の付き合いである。いよいよ三男坊の卒業を間近に控えこの原稿の執筆依頼があり、10年間を振り返るよい機会になった。

私自身は、縁あって後援会の監査役を8年間させていただいた。年間約4千万円の使い方をチェックするこの役は結構重たいものがある。年2回ある監査は、朝から夕方までかけて領収書一つ一つまでチェックする。会員の皆様方からいただいた会費で成り立っている以上、おろそかにはできない。そして、いつも感心させられるのが、莫大な量の予算執行の書類や補足資料を作成する事務局職員である。しかも正確に且つすべて説明できなくてはならない。監査する我々も大変だがそれを作る方も大仕事である。監査役になってもう一つ言えるのは、理事会に参加することで、学校の様子がよくわかり、先生方とも親交も深められたことだ。長男、長女の時も思ったのだが、高校になると、学校とは急に疎遠になる。小・中学校の時は、授業参観、PTA、少年団など大忙し感満載であったが、逆に寂しくも感じる。そんな中の理事会参加は大変有意義であった。より専門的な高等教育機関への進学やグローバル化を視野に入れた海外との交流促進、英語教育の重視など、時代の変遷とともに学校も変化してきていることもわかる。また、寮の制度や体育祭の在り方など、様々な取組や課題などを知り意見することもできた。

話しは変わるが、2人の息子は、部活動でもお世話になった。二男坊は、サッカー部に加入し、3年間だけではあったが、サッカーの技術はもちろん、物の考え方や人としてのあり方などたくさんを教えていただいた。三男坊は、メカ研に入り、4年生の時は、ロボットを操作する役で大会に参加した。1年間かけて準備し、1試合わずか3分の戦いに挑む。残念ながら準々決勝で敗れたが、チームで力を合わせ、知恵をしぼり、技術を結晶させたロボットは大変見ごたえがあったし、それまでの努力の過程は人生にとって大きな糧となったと思う。そのことからなのか、卒業後就職を選択していた3男坊が4年生の後半、研究を深めたい理由で大学に編入したいと言ってきた。高専は、幅広い進路があることも最大の特徴であると思う。

素晴らしい出会いや貴重な経験ができたこの10年間、そして、息子をしっかりと導いてくださった先生方に感謝するとともに、鹿高専そして後援会の今後益々の発展を祈念し締めたいと思う。

チャンスを、自ら掴んで!!

情報工学科1年 理事 田中 和代

先日の後援会支部会において、先生や卒業生のお話を伺いながら、高専は、自主性を育てながらもサポートされ、恵まれた環境にあるということを実感しました。

進路の分岐点に立ち、高専への進学を選択した長女。入学して、担任の先生をはじめ英語部の先生や先輩との出会いがあり、二年生の時に全国高専英語プレゼンテーションコンテスト優勝という快挙をいただき、三年生の時には夏休みの28日間を、アメリカ、韓国、日本の女子高校生を対象とした日韓ユースリーダーシップ研修に参加させていただき、他高専や海外に友人もできました。年々、「グローバルな技術者になりたい」と、夢は膨らみます。そして、その後の高専女子フォーラムにおいて発表の機会をいただいたことで、就職先となった企業との出会いもありました。

また、女子バスケットボール部では、5年間心身共に鍛えていただきました。

走者である子供たちのペースを尊重しながら、伴走者となって支え導いていただいております、多くの先生方、学生課の皆さまに感謝いたします。

長女の入学式に同席して「高専に入る!」と声を弾ませていた当時、小学生だった長男も、喜び一杯で入学させていただくことができ、早いもので一年が経とうとし

ています。専門教科や数学は難しく、入学間もなく進路について悩んだ時期もあったようです。

多くの学生の皆さんが、勉強は難しくなり、実験のレポート書きに徹夜も珍しくなく、不安を抱え悩むと伺います。そんな時は、自分だけではない、先輩方も同じ道を通して今がある、ということを胸において、決して卑下することなく、高専での多くのチャンスを自ら掴み取ってほしいと思います。そして、ここで得た体験が、社会に出た時に、きっと心の支えとなっていくことでしょう。

子供が悩む時、親の私たちは、親として我が子に、どう寄り添ったら良いかと悩みます。ご縁をいただいて後援会で一緒させていただく中で、片平会長をはじめ先輩方から、多くの気づきをいただきます。素敵な出会いに感謝しながら、これもチャンスと捉えて私自身、親として楽しく成長できたと思います。

味わう高専生活

都市環境デザイン工学科1年 理事 野崎 理香

晴れ晴れしい嬉しさと緊張とが入り混じった心境の中、鹿児島高専の正門をくぐった2017年の春。あれから、もうすぐ1年が経とうとしています。初めてづくしの高専生活のスタートは、親子共々、戸

惑うことも多く、緊張や驚きの連続でした。分からない事は、その都度、先輩や同級生のお母さん方に教えていただきました。今でも、大変、助けられています。息子は、徐々にクラスメイトと親しくなり、部活動にも入部し、交友関係・活動範囲も広がり、帰宅後の話題に学校での出来事が多く登場するようになりました。自分たちにはない先生方の体験談や友人たちの面白い話など、息子から聞く高専話が、私の楽しみの一つになっています。今では高専生として、自由な校風を満喫し高専生活をとても楽しみながら、進みの早い勉強に悪戦苦闘していますが、社会を支える技術者の一員になれるよう目標に向かって頑張っています。

私は、学校のことが少しでも分かればいいな、との思いからクラス理事を引き受けました。学科や学年が違って、優しく親切に接してくださる理事さん方のお陰で、毎回緊張する理事会ですが、学校や行事の歴史などを知ることができ、また、先生方の楽しい話や時には耳の痛い話なども聞けて、いつも収穫の多い理事会になっています。理事会や学校行事などへ参加し見聞きしていく中で、高専の学校設備や教育の充実に触れ、恵まれた環境

に感謝の思いで一杯です。今年度の体育祭は悪天候のため応援団の演舞のみの開催でしたが、高専生の保護者以外に、たくさんの地域の方々が見物に来られていました。地域住民からも心待ちされるほどの見応えのある演舞に、短い期間で練習を積んできた学生さんたちの気迫を感じ、見に来てくださる地域の方々にも感動しました。

高専生活、順調に行けば最短で5年間、頑張りしだいではプラス2年間。息子の高専生活を応援しながら、私も一緒に高専生活の酸いも甘いも味わい、貴重な時間を過ごしていきたいと願っています。



行事予定

行事予定

—67—

平成30年度 行事予定 表

No.2

平成30(2018)年8月					平成30(2018)年9月					平成30(2018)年10月					平成30(2018)年11月										
日	曜	行 事	回 数		室 科 目 出 席	日	曜	行 事	回 数		室 科 目 出 席	日	曜	行 事	回 数		室 科 目 出 席								
			全 体	部 活					全 体	部 活					全 体	部 活		全 体	部 活						
1	水	学年期末試験／個人学習発表会	7	15	80	1	上	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	67	67	1	月	特別の学年開始授業開始／各課発表 特別の学年開始授業開始／各課発表	1	1	108	1	木		5	5	111			
2	木	学年期末試験	8	15	81	2	日	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	68	68	2	火		2	1	109	2	金		5	6	112			
3	金	学年開始試験／インターンシップ 事前セミナー研修会	9	16	82	3	月		69	69	3	水		1	1	90	3	土	文化の日		105	106			
4	土		44	44		4	火		70	70	4	木		1	1	91	4	日			106	107			
5	日	日休入宇	45	45		5	水		71	71	5	金	学年開始試験／各課発表／各課発表 (各課発表／各課発表)	1	1	92	5	月			4	5	113		
6	月	学年開始試験／各課発表／各課発表	46	46		6	木		72	72	6	土		2	2	93	6	火			5	5	114		
7	火	学年開始試験／各課発表	47	47		7	金		73	73	7	日		3	3	94	7	水			6	6	115		
8	水	学年開始試験／各課発表	48	48		8	土		74	74	8	月	体育の日	4	4	95	8	木				6	6	116	
9	木	学年開始試験／各課発表	49	49		9	日		75	75	9	火		2	2	93	9	金				6	7	117	
10	金	特別／各課発表／各課発表／各課発表	50	50		10	月		76	76	10	水		2	2	94	10	土	特別の学年開始授業開始／各課発表 特別の学年開始授業開始／各課発表			107	108		
11	土	学年開始試験／各課発表	51	51		11	火		77	77	11	木		2	2	95	11	日				108	109		
12	日		47	47		12	水		78	78	12	金		2	2	96	12	月				5	6	118	
13	月	日休入宇／各課発表／各課発表	48	48		13	木		79	79	13	土		100	100	13	火					6	6	119	
14	火	学年開始試験／各課発表	49	49		14	金		101	101	14	日		101	101	14	水					7	7	120	
15	水	学年開始試験	50	50		15	土		81	81	15	月		2	2	97	15	木					7	7	121
16	木		51	51		16	日		82	82	16	火	学年開始試験／各課発表／各課発表 ／各課発表／各課発表	3	3	98	16	金	学年開始試験／各課発表				7	8	122
17	金		52	52		17	月	学年開始試験	83	83	17	水	特別の学年開始授業開始	3	3	99	17	土					109	110	
18	土	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	70	70		18	火		84	84	18	木	特別の学年開始授業開始	4	4	100	18	日					110	111	
19	日	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	71	71		19	水	特別の学年開始授業開始／各課発表 ／各課発表	85	85	19	金		5	5	101	19	月					6	7	123
20	月	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	72	72		20	木	全国高等学校体育大会／各課発表 ／各課発表	86	86	20	土		102	102	20	火		学年開始試験／各課発表				3	3	124
21	火	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	73	73		21	金		87	87	21	日	特別の学年開始授業開始／各課発表 ／各課発表	103	103	21	水						6	6	125
22	水	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	74	74		22	土		88	88	22	月		2	2	102	22	木					6	6	126
23	木	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	75	75		23	日	秋分の日	89	89	23	火	学年開始試験	3	3	103	23	金	学年開始試験				111	112	
24	金	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	76	76		24	月	学年開始試験	90	90	24	水	学年開始試験	4	4	104	24	土					112	113	
25	土	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	77	77		25	火		91	91	25	木		5	5	105	25	日	特別の学年開始授業開始／各課発表				113	114	
26	日	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	78	78		26	水		92	92	26	金	学年開始試験／各課発表	6	6	106	26	月					7	8	127
27	月	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	79	79		27	木		93	93	27	土	学年開始試験／各課発表	7	7	107	27	火	学年開始試験				8	8	128
28	火	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	80	80		28	金		94	94	28	日	学年開始試験／各課発表	8	8	108	28	水	学年開始試験				11	9	129
29	水	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	81	81		29	土		95	95	29	月	学年開始試験／各課発表	9	9	109	29	木	学年開始試験				12	10	130
30	木	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	82	82		30	日	日休入宇／各課発表	96	96	30	火		10	10	110	30	金	学年開始試験				11	11	131
31	金	全国高等学校体育大会 (九州・沖縄地区)	83	83							31	水		5	5	110									
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)							
乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)						乙種免許科目(実地免許科目)</							

平成30年度 行事予定 表

No.3

平成30(2018)年12月					平成31(2019)年1月					平成31(2019)年2月					平成31(2019)年3月										
日	曜	行 事		同 数	来 科 出 席	日	曜	行 事		同 数	来 科 出 席	日	曜	行 事		同 数	来 科 出 席	日	曜	行 事		同 数	来 科 出 席		
1	土			114	115	1	火	元日		50	111	1	金	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)		14	10	165	1	金			157	159	
2	日			115	116	2	水			51	112	2	土			143	145	2	土			158	160		
3	月			6	9	133	3	木		52	113	3	日			144	146	3	日			159	161		
4	火			6	9	132	4	金	生半端日	53	114	4	月 (予備日)	新編/客室広部・新設		54	115	162	4	月			160	162	
5	水			9	10	134	5	土		51	112	5	火	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	14	4	167	5	火			161	163		
6	木			9	16	139	6	日	開校114年	55	116	6	水	新編/客室広部・新設	55	5	169	6	水			162	164		
7	金			6	16	139	7	月	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	11	12	147	7	木	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	55	5	169	7	木			163	165	
8	土			116	117	8	火			11	12	148	8	金	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	55	11	170	8	金			164	166	
9	日			117	118	9	水	新編/客室広部・新設	7	137	149	9	土			145	147	9	土			165	167		
10	月			9	19	137	10	木		5	1	149	10	日			146	148	10	日			166	168	
11	火			6	16	139	11	金		11	13	151	11	月	建校114年		147	149	11	月			167	169	
12	水			9	11	139	12	土	全学年大会(1期)	56	117	12	火	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)		56	9	173	12	火			168	170	
13	木			10	11	140	13	日		17	115	13	水	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	56	10	174	13	水			169	171		
14	金			9	11	141	14	月	成人の日	56	117	14	木	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	15	17	173	14	木			170	172		
15	土			118	119	15	火	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	12	13	152	15	金	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	18	175	15	金	卒業式	修了式	11	6	179	
16	日			119	120	16	水	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	12	13	153	16	土		148	150	16	土				171	173		
17	月			10	11	142	17	木	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	118	17	日	入学式	149	151	17	日				172	174		
18	火			5	11	138	18	金		5	14	155	18	月	休講	150	152	18	月				173	175	
19	水			11	12	140	19	土	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	139	141	19	火	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	14	175	19	火				174	176	
20	木			11	12	140	20	日		140	142	20	水	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	14	175	20	水	卒業式・修了式			175	177	
21	金	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)		57	14	175	21	月		15	11	156	21	木	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	14	175	21	木	誓分の日		176	178	
22	土	開校114年		120	121	22	火		新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	14	175	22	金	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	14	175	22	金			177	179	
23	日	開校114年		121	122	23	水			57	14	175	23	土	開校114年		57	14	175	23	土			178	180
24	月	開校114年		121	122	24	木			57	14	175	24	日		152	154	24	日				179	181	
25	火	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)		124	125	25	金	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	13	13	158	25	月		57	127	25	月					180	182	
26	水	卒業式・修了式		124	125	26	土	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	141	143	26	火		154	156	26	火						181	183	
27	木			15	12	27	日	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	143	27	水		155	157	27	水						182	184	
28	金	生半端日		13	12	28	月		新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	57	143	28	木		57	127	28	木						183	185
29	土			17	12	29	火	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	13	13	158	29	金		57	127	29	金						184	186
30	日			16	12	30	水	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	14	13	159	30	土		57	127	30	土						185	187
31	月			16	12	31	木	新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)	14	13	164	31	日		57	127	31	日						186	188
新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)																							新年度行事開始(1学期)～1学期中間 評価(1学期)		

日祝日 土曜日の場合は3月17日(祝日)に繰り上げ、150日、151日、152日、153日、154日、155日、156日、157日、158日、159日、160日、161日、162日、163日、164日、165日、166日、167日、168日、169日、170日、171日、172日、173日、174日、175日、176日、177日、178日、179日、180日、181日、182日、183日、184日、185日、186日、187日、188日、189日、190日、191日、192日、193日、194日、195日、196日、197日、198日、199日、200日、201日、202日、203日、204日、205日、206日、207日、208日、209日、210日、211日、212日、213日、214日、215日、216日、217日、218日、219日、220日、221日、222日、223日、224日、225日、226日、227日、228日、229日、230日、231日、232日、233日、234日、235日、236日、237日、238日、239日、240日、241日、242日、243日、244日、245日、246日、247日、248日、249日、250日、251日、252日、253日、254日、255日、256日、257日、258日、259日、260日、261日、262日、263日、264日、265日、266日、267日、268日、269日、270日、271日、272日、273日、274日、275日、276日、277日、278日、279日、280日、281日、282日、283日、284日、285日、286日、287日、288日、289日、290日、291日、292日、293日、294日、295日、296日、297日、298日、299日、300日、301日、302日、303日、304日、305日、306日、307日、308日、309日、310日、311日、312日、313日、314日、315日、316日、317日、318日、319日、320日、321日、322日、323日、324日、325日、326日、327日、328日、329日、330日、331日、332日、333日、334日、335日、336日、337日、338日、339日、340日、341日、342日、343日、344日、345日、346日、347日、348日、349日、350日、351日、352日、353日、354日、355日、356日、357日、358日、359日、360日、361日、362日、363日、364日、365日、366日、367日、368日、369日、370日、371日、372日、373日、374日、375日、376日、377日、378日、379日、380日、381日、382日、383日、384日、385日、386日、387日、388日、389日、390日、391日、392日、393日、394日、395日、396日、397日、398日、399日、400日、401日、402日、403日、404日、405日、406日、407日、408日、409日、410日、411日、412日、413日、414日、415日、416日、417日、418日、419日、420日、421日、422日、423日、424日、425日、426日、427日、428日、429日、430日、431日、432日、433日、434日、435日、436日、437日、438日、439日、440日、441日、442日、443日、444日、445日、446日、447日、448日、449日、450日、451日、452日、453日、454日、455日、456日、457日、458日、459日、460日、461日、462日、463日、464日、465日、466日、467日、468日、469日、470日、471日、472日、473日、474日、475日、476日、477日、478日、479日、480日、481日、482日、483日、484日、485日、486日、487日、488日、489日、490日、491日、492日、493日、494日、495日、496日、497日、498日、499日、500日、501日、502日、503日、504日、505日、506日、507日、508日、509日、510日、511日、512日、513日、514日、515日、516日、517日、518日、519日、520日、521日、522日、523日、524日、525日、526日、527日、528日、529日、530日、531日、532日、533日、534日、535日、536日、537日、538日、539日、540日、541日、542日、543日、544日、545日、546日、547日、548日、549日、550日、551日、552日、553日、554日、555日、556日、557日、558日、559日、560日、561日、562日、563日、564日、565日、566日、567日、568日、569日、570日、571日、572日、573日、574日、575日、576日、577日、578日、579日、580日、581日、582日、583日、584日、585日、586日、587日、588日、589日、590日、591日、592日、593日、594日、595日、596日、597日、598日、599日、600日、601日、602日、603日、604日、605日、606日、607日、608日、609日、610日、611日、612日、613日、614日、615日、616日、617日、618日、619日、620日、621日、622日、623日、624日、625日、626日、627日、628日、629日、630日、631日、632日、633日、634日、635日、636日、637日、638日、639日、640日、641日、642日、643日、644日、645日、646日、647日、648日、649日、650日、651日、652日、653日、654日、655日、656日、657日、658日、659日、660日、661日、662日、663日、664日、665日、666日、667日、668日、669日、670日、671日、672日、673日、674日、675日、676日、677日、678日、679日、680日、681日、682日、683日、684日、685日、686日、687日、688日、689日、690日、691日、692日、693日、694日、695日、696日、697日、698日、699日、700日、701日、702日、703日、704日、705日、706日、707日、708日、709日、710日、711日、712日、713日、714日、715日、716日、717日、718日、719日、720日、721日、722日、723日、724日、725日、726日、727日、728日、729日、730日、731日、732日、733日、734日、735日、736日、737日、738日、739日、740日、741日、742日、743日、744日、745日、746日、747日、748日、749日、750日、751日、752日、753日、754日、755日、756日、757日、758日、759日、760日、761日、762日、763日、764日、765日、766日、767日、768日、769日、770日、771日、772日、773日、774日、775日、776日、777日、778日、779日、780日、781日、782日、783日、784日、785日、786日、787日、788日、789日、790日、791日、792日、793日、794日、795日、796日、797日、798日、799日、800日、801日、802日、803日、804日、805日、806日、807日、808日、809日、810日、811日、812日、813日、814日、815日、816日、817日、818日、819日、820日、821日、822日、823日、824日、825日、826日、827日、828日、829日、830日、831日、832日、833日、834日、835日、836日、837日、838日、839日、840日、841日、842日、843日、844日、845日、846日、847日、848日、849日、850日、851日、852日、853日、854日、855日、856日、857日、858日、859日、860日、861日、862日、863日、864日、865日、866日、867日、868日、869日、870日、871日、872日、873日、874日、875日、876日、877日、878日、879日、880日、881日、882日、883日、884日、885日、886日、887日、888日、889日、890日、891日、892日、893日、894日、895日、896日、897日、898日、899日、900日、901日、902日、903日、904日、905日、906日、907日、908日、909日、910日、911日、912日、913日、914日、915日、916日、917日、918日、919日、920日、921日、922日、923日、924日、925日、926日、927日、928日、929日、930日、931日、932日、933日、934日、935日、936日、937日、938日、939日、940日、941日、942日、943日、944日、945日、946日、947日、948日、949日、950日、951日、952日、953日、954日、955日、956日、957日、958日、959日、960日、961日、962日、963日、964日、965日、966日、967日、968日、969日、970日、971日、972日、973日、974日、975日、976日、977日、978日、979日、980日、981日、982日、983日、984日、985日、986日、987日、988日、989日、990日、991日、992日、993日、994日、995日、996日、997日、998日、999日、1000日、1001日、1002日、1003日、1004日、1005日、1006日、1007日、1008日、1009日、1010日、1011日、1012日、1013日、1014日、1015日、1016日、1017日、1018日、1019日、1020日、1021日、1022日、1023日、1024日、1025日、1026日、1027日、1028日、1029日、1030日、1031日、1032日、1033日、1034日、1035日、1036日、1037日、1038日、1039日、1040日、1041日、1042日、1043日、1044日、1045日、1046日、1047日、1048日、1049日、1050日、1051日、1052日、1053日、1054日、1055日、1056日、1057日、1058日、1059日、1060日、1061日、1062日、1063日、1064日、1065日、1066日、1067日、1068日、1069日、1070日、1071日、1072日、1073日、1074日、1075日、1076日、1077日、1078日、1079日、1080日、1081日、1082日、1083日、1084日、1085日、1086日、1087日、1088日、1089日、1090日、1091日、1092日、1093日、1094日、1095日、1096日、1097日、1098日、1099日、1100日、1101日、1102日、1103日、1104日、1105日、1106日、1107日、1108日、1109日、1110日、1111日、1112日、1113日、1114日、1115日、1116日、1117日、1118日、1119日、1120日、1121日、1122日、1123日、1124日、1125日、1126日、1127日、1128日、1129日、1130日、1131日、1132日、1133日、1134日、1135日、1136日、1137日、1138日、1139日、1140日、1141日、1142日、1143日、1144日、1145日、1146日、1147日、1148日、1149日、1150日、1151日、1152日、1153日、1154日、1155日、1156日、1157日、1158日、1159日、1160日、1161日、1162日、1163日、1164日、1165日、1166日、1167日、1168日、1169日、1170日、1171日、1172日、1173日、1174日、1175日、1176日、1177日、1178日、1179日、1180日、1181日、1182日、1183日、1184日、1185日、1186日、1187日、1188日、1189日、1190日、1191日、1192日、1193日、1194日、1195日、1196日、1197日、1198日、1199日、1200日、1201日、1202日、1203日、1204日、1205日、1206日、1207日、1208日、1209日、1210日、1211日、1212日、1213日、1214日、1215日、1216日、1217日、1218日、1219日、1220日、1221日、1222日、1223日、1224日、1225日、1226日、1227日、1228日、1229日、1230日、1231日、1232日、1233日、1234日、1235日、1236日、1237日、1238日、1239日、1240日、1241日、1242日、1243日、1244日、1245日、1246日、1247日、1248日、1249日、1250日、1251日、1252日、1253日、1254日、1255日、1256日、1257日、1258日、1259日、1260日、1261日、1262日、1263日、1264日、1265日、1266日、1267日、1268日、1269日、1270日、1271日、1272日、1273日、1274日、1275日、1276日、1277日、1278日、1279日、1280日、1281日、1282日、1283日、1284日、1285日、1286日、1287日、1288日、1289日、1290日、1291日、1292日、1293日、1294日、1295日、1296日、1297日、1298日、1299日、1300日、1301日、1302日、1303日、1304日、1305日、1306日、1307日、1308日、1309日、1310日、1311日、1312日、1313日、1314日、1315日、1316日、1317日、1318日、1319日、1320日、1321日、1322日、1323日、1324日、1325日、1326日、1327日、1328日、1329日、1330日、1331日、1332日、1333日、1334日、1335日、1336日、1337日、1338日、1339日、1340日、1341日、1342日、1343日、1344日、1345日、1346日、1347日、1348日、1349日、1350

編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第72号をお届けいたします。今回の特集は「研究推進モデル校事業の取組み」です。「研

究推進モデル校事業」は研究および産学連携の推進を目的に、平成27年度から国立高等専門学校機構によって始められた事業です。本校は平成28年度に研究推進トライアル校に選ばれ（全国51高専中、富山、宇部、鹿児島の3校）、さらに平成29年度には研究推進モデル校に昇格し、九州地区高専の研究推進拠点として様々な活動に取り組んでおります。今回は、丁子哲治校長を中心に鹿児島高専が取り組んでいる研究推進活動を紹介する特集を企画しました。どうぞお楽しみください。

さて、平成30年は「明治維新150年」、NHK大河ドラマも郷土の偉人「西郷どん」です。およそ150年前に我が国は激動の時代に突入しましたが、「西郷どん」ら志士の活躍によってこれを乗り越え新しい歩みを始めました。現在は日本のみならず世界が混迷の時代を迎えております。これからの新しい日本を創り、世界で活躍する人材育成の拠点として鹿児島高専が発展することを祈念して編集後記の締めとさせていただきます。最後に、お忙しい中快く執筆をお引き受けいただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

機械工学科 徳永 仁夫

「高専だより」専門委員会委員

委員長 徳永 仁夫（機械工学科）

委 員 保坂 直之（一般教育科）

逆瀬川栄一（電気電子工学科）

室屋 光宏（電子制御工学科）

玉利 陽三（情報工学科）

川添 敦也（都市環境デザイン工学科）

担当事務 総務課企画係

「鹿児島高専だより」第72号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝 1460-1